

資料2-2 共同利用研究

資料2-2-1 研究船関連

資料2-2-1-1 淡青丸航海

航海番号	航海日程（出港～入港【寄港】）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(主席代理者)	研究主題	研究者数
● 1992年度						
KT-92-5	1992.4.14(東京)～4.22(東京)	9	鹿島沖・小笠原沖	平啓介 東京大学海洋研究所	黒潮続流と亜熱帯モード水の研究	11
KT-92-6	4.30(東京)～5.18(東京) (5.4横須賀)	19	東京湾・相模湾・常磐・ 鹿島灘・三陸沖	杉本隆成 東京大学海洋研究所 (代理 川口弘一・青木一郎)	相模湾から三陸沖に至る海域の生物生産機構 に関する研究	24
KT-92-7	5.26(東京)～6.4(東京)	10	伊豆・小笠原弧北部海 域	平朝彦 東京大学海洋研究所	伊豆・小笠原弧海溝系の地震学的構造に関する 研究	9
KT-92-8	6.12(東京)～6.19(横須賀)	8	伊豆・小笠原弧北部海 域	山野誠 東京大学地震研究所	伊豆・小笠原弧海溝系の地球物理学的研究	10
KT-92-9	6.22(横須賀)～6.30(東京) (6.24伊東港外)	9	相模湾・伊豆八丈海域・ 南海トラフ	瀬川爾朗 東京大学海洋研究所	相模湾・伊豆八丈・南海トラフ海域における海 底物理・地質学的研究	15
KT-92-10	7.8(東京)～7.16(東京) (7.11松坂)	9	東京湾・相模湾・駿河湾・ 遠州灘及びその沖合海 域	大和田統一 東京大学海洋研究所	相模湾・駿河湾及び周辺海域における海水・堆 積物中の微生物に関する研究	14
KT-92-11	7.28(東京)～8.5(東京) (7.31横須賀)	9	東京湾・相模湾・伊豆 諸島海域	川口弘一 東京大学海洋研究所	相模湾及びその周辺海域におけるプランクト ン・マイクロネクトン・ベントスの群集構造と 機能	17
KT-92-12	8.26(東京)～9.4(秋田) (9.1秋田)	10	相模湾・三陸沖・北海 道西方・秋田沖	太田秀 東京大学海洋研究所 (代理 白山義久)	日本海北部海域の底生生物に関する生態・分 類・古生物学的研究	13
KT-92-13	9.7(秋田)～9.18(境) (9.13新潟)	12	日本海中北部	玉木賢策 東京大学海洋研究所	日本海の海底構造と堆積作用	19
KT-92-14	9.21(境)～9.29(下関)	9	九州北西部海域（主と して五島列島周辺海域）	河野芳輝 金沢大学理学部	日本列島漂移の境界域にあたる九州北西部海 域の地球物理学的研究	10
KT-92-15	11.5(東京)～11.13(宮古) (11.8大槌)	9	金華山沖、三陸沖	浦野明央 東京大学海洋研究所	サケ科魚類の回遊に関する研究（WESTPAC）	16
KT-92-16	11.16(宮古)～11.24(東京)	9	三陸・道東沖海域	遠藤宜成 東北大学農学部	三陸・道東沖海域における魚類学的・浮遊生物 学的研究	10
KT-92-17	12.1(東京)～12.9(鹿児島)	9	遠州灘南方海域及び第 2駒橋山周辺海域	大場忠道 金沢大学教養部	黒潮域の古環境及び現世生物の海洋学的研究	11
KT-92-18	12.12(鹿児島)～12.21(東京) (12.16～12.18西之表)	10	種子島から奄美大島に いたる海域及び相模湾	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	ウナギ仔稚魚と動物プランクトンの分布・生態 及び黒潮の変動に関する研究	13
KT-93-1	1993.1.20(東京)～1.29(東京) (1.23神戸)	10	大阪湾・紀伊水道・東 京湾口	中田英昭 東京大学大気海洋研究 所	内湾からの物質の流失過程に関する研究	11
KT-93-2	2.19(東京)～3.2(東京) (2.24高知)	12	本州南方海域	青木一郎 東京大学海洋研究所	黒潮海域におけるマイワシ産卵群の行動生態 (WESTPAC)	6
KT-93-3	航海中止					
● 1993年度						
KT-93-4	1993.4.9(東京)～4.16(東京) (4.12清水)	8	相模湾・駿河湾及び隣 接海域	太田秀 東京大学海洋研究所	駿河湾及び隣接海域の底生生物群集の生態学 的研究	12
KT-93-5	4.23(東京)～4.30(東京)	8	四国海盆北部	玉木賢策 東京大学海洋研究所	四国海盆北部の地質学的・地球物理学的研究	11
KT-93-6	5.7(東京)～5.20(東京) (5.11釧路)	14	相模湾・常磐・三陸沖・ 釧路沖	杉本隆成 東京大学海洋研究所	黒潮・親潮前縁域の暖水ストリーマの構造とそ の生態学機能	16
KT-93-7	5.28(東京)～6.4(鹿児島)	8	遠州灘沖、伊豆・小笠 原、紀伊半島沖、四国・ 九州南方	大場忠道 北海道大学大学院地球 環境科学研究科	黒潮海域における古海洋学的研究（IGBP）	11
KT-93-8	6.7(鹿児島)～6.14(鹿児島)	8	東シナ海大陸棚外縁部・ 琉球弧海溝側斜面	氏家宏 琉球大学理学部	琉球弧・東シナ海大陸棚外縁部における音波探 査及び堆積学的研究（ODP）	11
KT-93-9	6.17(鹿児島)～6.28(東京) (6.22名瀬)	12	薩南諸島・奄美諸島周 辺海域、豊後水道・南 方海域	太田秀 東京大学海洋研究所	薩南・奄美諸島周辺海域の底生生物学・地球化 学的研究	17
KT-93-10	7.6(東京)～7.15(横浜) (7.10横須賀)	10	相模湾及び房総・常磐 沖黒潮海域	川口弘一 東京大学海洋研究所 (代理 西田周平)	相模湾及び黒潮海域における浮遊生物群集の 動態と食物網に関する研究	13
KT-93-11	7.18(横浜)～7.27(東京)	10	三陸沖・宮城、江の島 沖及び隣接海域	瀬川爾朗 東京大学海洋研究所	三陸沖及び隣接海域の地球物理学的及び分光 学的研究	11
KT-93-12	8.20(東京)～8.27(横浜) (8.23横浜)	8	東京湾、東京湾湾口部	才野敏郎 東京大学海洋研究所	東京湾から外洋への物質輸送過程	15
KT-93-13	8.30(横浜)～9.7(横須賀) (9.2清水)	9	東京湾、相模湾、駿河 湾及びその周辺海域	大和田統一 東京大学海洋研究所	相模湾、駿河湾及び周辺海域における微生物に 関する研究	15
KT-93-14	9.10(横須賀)～9.20(東京)	11	伊豆小笠原海域、相模 湾	野崎義行 東京大学海洋研究所 (代理 津田敦)	海溝域における物質循環の研究	15
KT-93-15	11.5(東京)～11.19(宮古) (11.11宮古・11.15釧路)	15	三陸沖・北海道道東（厚 岸・十勝川）沖	浦野明央 北海道大学理学部 (代理 仲間雅裕)	サケ科魚類の回遊及び三陸沖・道東沖の海洋生 物の生態・分類に関する研究	26
KT-93-16	11.22(宮古)～12.1(東京) (11.27横須賀)	10	三陸沖及び相模湾	瀬川爾朗 東京大学海洋研究所	三陸沖及び相模湾における地球物理学的研究	15
KT-93-17	12.8(東京)～12.17(東京) (12.12横須賀)	10	相模湾・伊豆海	平啓介 東京大学海洋研究所 (代理 石井輝秋)	相模湾・伊豆海の黒潮流量、ハダカイワシ類の 食性、海底地質に関する研究	17

航海番号	航海日程（出港～入港〔寄港〕）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
KT-94-1	1994.1.25(東京)～2.2(鹿児島)	9	四国海盆	今脇資郎 九州大学応用力学研究所	四国沖の深層循環と黒潮の流量・熱輸送の研究	11
KT-94-2	2.5(鹿児島)～2.14(東京)	10	薩南～房総沖の黒潮海域	青木一郎 東京大学海洋研究所	黒潮海域における浮魚類の産卵生態と仔稚魚分布生態	7
KT-94-3	3.10(東京)～3.18(東京) (3.13横須賀)	9	房総東方及び相模湾	野崎義行 東京大学海洋研究所	房総東方海溝域の物質循環に関する研究	13
● 1994年度						
KT-94-4	1994.4.11(東京)～4.19(小名浜)	9	伊豆海嶺、房総沖、三陸沖	中田英昭 東京大学海洋研究所	黒潮及び黒潮系暖水域におけるプランクトン、卵・仔稚魚の輸送と分布に関する研究	13
KT-94-5	4.22(小名浜)～4.28(東京)	7	伊豆諸島海域、房総沖、相模湾	青木一郎 東京大学海洋研究所	浮魚類の再生産機構に関する研究	10
KT-94-6	5.10(東京)～5.17(横須賀) (5.12横須賀)	8	東京湾・相模湾・伊豆近海	川口弘一 東京大学海洋研究所 (代理 寺崎誠)	黒潮域におけるプランクトン・マイクロネクトンの生態学的研究 (WESTPAC)	18
KT-94-7	5.20(横須賀)～5.27(東京) (5.23清水)	8	東京湾・相模湾・駿河湾・遠州灘・熊野灘	太田秀 東京大学海洋研究所	本州中部太平洋洋の深海底生生物の生態学的・分類学的・古生物学的・地球化学的研究	16
KT-94-8	6.3(東京)～6.21(那覇) (6.8～6.10那覇・6.16～6.18那覇)	19	東シナ海、沖縄トラフ	角皆静男 北海道大学大学院地球環境科学研究科(代理 南川森保)	東シナ海における物質循環機構の解明に関する研究	16
KT-94-9	6.24(那覇)～7.2(鹿児島)	9	琉球海溝・沖縄トラフ	氏家宏 琉球大学理学部	琉球島弧・海溝系の地質学・地球物理学的研究	11
KT-94-10	7.5(鹿児島)～7.12(東京)	8	四国海盆（九州～パラオ海嶺域）、相模湾	石井輝秋 東京大学海洋研究所	九州～パラオ海嶺の地質学的・地球物理学的研究 (ODP)	11
KT-94-11	7.20(東京)～7.25(清水)	6	相模湾、駿河湾、伊豆海嶺	瀬川爾朗 東京大学海洋研究所	相模湾、駿河湾における精密測位にもとづく海中データ伝送、海底地震活動の研究	11
KT-94-12	7.27(清水)～8.2(横須賀) (7.29～7.31横須賀)	7	東京湾、相模湾、駿河湾及びその周辺海域	大和田紘一 東京大学海洋研究所	相模湾、駿河湾及びその周辺海域における微生物に関する研究	15
KT-94-13	8.5(横須賀)～8.10(東京)	6	東京湾、相模湾、房総半島沖	藤原祺多夫 広島大学総合科学部	太陽光に誘起される海洋表層の科学過程の解明	11
KT-94-14	8.31(東京)～9.8(函館)	9	相模湾、福島沖、宮城沖、三陸沖	的場保望 秋田大学鉱山学部	深海性底生有孔虫の生態及びプレート境界のサイズモテクトニクス	11
KT-94-15	9.11(函館)～9.19(酒田)	9	日本海東部及び中央部	大場忠道 北海道大学大学院地球環境科学研究科	日本海東部及び中央部における古環境並びに海底地下構造の研究	11
KT-94-16	9.22(酒田)～9.30(下関) (9.26境)	9	日本海中・西部海域	沖山宗雄 東京大学海洋研究所	日本海における動物群集の分類学及び分布特性に関する研究	11
KT-94-17	11.10(東京)～11.19(大分) (11.13長崎)	10	五島列島周辺、瀬戸内海西部、相模湾	藤本博己 東京大学海洋研究所	五島列島周辺及び瀬戸内海の重力・地磁気異常の研究	11
KT-94-18	11.22(大分)～12.1(東京) (11.26～11.28清水)	10	南海トラフ海域、駿河湾、相模湾	藤本博己 東京大学海洋研究所 (代理 藤浩明)	南海トラフ海域における地学的・水産学的研究及び駿河湾・相模湾における物質輸送の研究	17
KT-95-1	1995.1.18(東京)～1.30(東京) (1.22新宮)	13	四国沖、伊豆海嶺域	今脇資郎 九州大学応用力学研究所	黒潮・黒潮反流の流量及び海洋古環境の研究 (WESTPAC)	11
KT-95-2	2.7(東京)～2.21(東京) (2.9～2.11名古屋・2.14～2.16新宮)	15	伊勢湾及び湾口域、淡路島周辺海域	才野敏郎 名古屋大学大気水圏科学研究所（代理 末広潔）	伊勢湾から外洋への物質輸送、明石海峡周辺活断層の調査	27
KT-95-3	3.9(東京)～3.13(東京)	5	駿河湾・相模湾・東京湾、野島崎沖	蒲生俊敬 東京大学海洋研究所	海洋～海底間の物質フラックスに関する地球化学的研究	11
● 1995年度						
KT-95-4	1995.4.11(東京)～4.18(横須賀)	8	相模湾、伊豆諸島海域、房総沖、鹿島灘	青木一郎 東京大学海洋研究所	浮魚類の再生産機構に関する研究	10
KT-95-5	4.21(横須賀)～4.27(東京)	7	房総沖	太田秀 東京大学海洋研究所	房総半島沖合の深海生物の生態学的・分類学的研究	11
KT-95-6	5.12(東京)～5.19(清水)	8	遠州灘・熊野灘・駿河湾	中田英昭 東京大学海洋研究所	黒潮前線域の微細海洋構造と生物分布に関する研究	11
KT-95-7	5.22(清水)～5.28(横須賀)	7	相模湾・黒潮海域	川口弘一 東京大学海洋研究所	相模湾及び黒潮域における動物プランクトンの生態学的研究	10
KT-95-8	5.22(横須賀)～5.28(東京)	7	東京湾、相模湾、房総沖	半田暢彦 名古屋大学大気水圏科学研究所	沿岸域における物質循環	13
KT-95-9	6.15(東京)～7.10(東京) (6.17二見・6.25アブラ・7.6二見)	26	小笠原・マリアナ海域	平朝彦 東京大学海洋研究所 (代理 石井輝秋)	マリアナ海域における島弧～海溝～縁海系の地質学的・地球物理学的研究 (ODP)	21
KT-95-10	7.17(東京)～7.28(東京) (7.24～7.26大槌)	12	三陸沖・常磐沖	宮崎信之 東京大学海洋研究所 (代理 佐藤時幸)	三陸・常磐沖の生物学的・地質学的研究	17
KT-95-11	中止					
KT-95-12	8.30(東京)～9.5(横須賀)	7	遠州灘、熊野灘	木村龍治 東京大学海洋研究所	大気海洋混合層の観測及び海洋からの生物起源気体の発散に関する研究	11
KT-95-13	9.8(横須賀)～9.18(函館) (9.13釧路)	11	三陸沖、道東沿岸、道東沖合	向井宏 北海道大学理学部 (代理 志賀直信)	三陸沖、道東海域におけるプランクトン及びベントスの生態学的研究	19
KT-95-14	9.21(函館)～10.2(下関) (9.25函館)	12	日本海、津軽海峡	石渡良志 東京都立大学理学部	日本海の海洋物理学的、化学的及び古環境学的研究	22
KT-95-15	11.13(東京)～11.25(横須賀) (11.18～11.20新宮)	13	南海トラフ、銭州海嶺、紀伊半島南方海域	瀬川爾朗 東京大学海洋研究所 (代理 藤本博己)	南海トラフ東部の地球物理学的研究 (WESTPAC)	18
KT-95-16	11.28(横須賀)～12.6(清水)	9	伊豆海、東京湾口	平啓介 東京大学海洋研究所	伊豆海嶺を越える黒潮の流量と熱輸送の研究	10
KT-95-17	12.9(清水)～12.15(東京)	7	相模湾・伊豆海嶺・駿河湾・遠州灘・熊野灘	太田秀 東京大学海洋研究所	相模湾～熊野灘海域のベントス群集の生態学的・古生物学的研究	11

航海番号	航海日程（出港～入港【寄港】）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
KT-96-1	1996.1.19(東京)～1.27(新宮)	9	男女群島及び九州南西海域、日向灘沖、潮岬沖	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	魚類の分布と回遊生態に関する研究	10
KT-96-2	1.30(新宮)～2.5(東京)	7	熊野灘、駿河湾、相模湾、東京湾、南海トラフ	大和田紘一 東京大学海洋研究所	海洋微生物の生理・生体に関する研究 (WESTPAC)	10
KT-96-3	3.7(東京)～3.15(東京)	9	房総東方、相模湾、東京湾	野崎義行 東京大学海洋研究所	海溝域における物質循環の研究	10

●1996年度

KT-96-4	1996.4.11(東京)～4.17(横須賀)	7	相模湾、伊豆諸島海域	青木一郎 東京大学海洋研究所	浮魚類の再生産と環境に関する研究	9
KT-96-5	4.20(横須賀)～4.26(東京)	7	伊豆海、相模湾	平啓介 東京大学海洋研究所	伊豆海嶺上の黒潮の流量観測	11
KT-96-6	5.8(東京)～5.15(衣浦) (5.10清水)	8	相模湾、駿河湾、熊野灘、紀伊水道	白山義久 東京大学海洋研究所	相模湾～紀伊水道海域のベントス群集の生態学的・古生物学的研究	17
KT-96-7	5.18(衣浦)～5.22(清水) (5.20鳥羽)	5	伊勢・三河湾口及び遠州灘	窪川かおる 東京大学海洋研究所	原索類・ナメクジウオの分子生物学・発生学・行動生態学に関する研究	13
KT-96-8	5.25(清水)～5.31(横須賀)	7	相模湾、駿河湾、南海トラフ、伊豆諸島近海	蒲生俊敬 東京大学海洋研究所	本州南方海域における海底湧水の地球化学的研究	11
KT-96-9	6.3(横須賀)～6.8(横須賀)	6	房総沖、伊豆近海	小池勲夫 東京大学海洋研究所	黒潮周辺における生物活動と有機炭素の動態に関する研究	11
KT-96-10	6.11(横須賀)～6.19(東京)	9	東京湾口、相模湾及び黒潮域	川口弘一 東京大学海洋研究所 (代理 才野敏郎)	相模湾及び黒潮域におけるプランクトンの生態と食物網に関する研究 (WESTPAC)	22
KT-96-11	7.3(東京)～7.9(名古屋)	7	相模湾、南海トラフ海域	藤本博己 東京大学海洋研究所	南海トラフ海域の地磁気精密観測と海底測地観測	10
KT-96-12	7.12(名古屋)～7.18(清水) (7.14名古屋)	7	伊勢湾、三河湾	中田英昭 東京大学海洋研究所	伊勢湾・三河湾から外洋への物質輸送過程	15
KT-96-13	7.21(清水)～7.27(清水)	7	東海・熊野沖	平朝彦 東京大学海洋研究所	東部南海トラフにおける海底活構造の研究 (ODP, KAIKOU-TOKAI計画)	11
KT-96-14	7.30(清水)～8.5(東京)	7	南海トラフ、駿河湾、相模湾、東京湾	大和田紘一 東京大学海洋研究所	海洋微生物、ベントスの生態に関する研究	11
KT-96-15	7.23(東京)～8.30(大槌)	8	相模湾、常磐沖、三陸沖	谷口旭 東北大学農学部	相模湾、常磐・三陸沖の生物学的研究	11
KT-96-16	9.2(大槌)～9.11(函館) (9.6八戸)	10	北海道太平洋岸沖、三陸沖	太田秀 東京大学海洋研究所 (代理 南川雅男)	北海道・三陸沖の深海底生生物の生態学的研究・地球化学的研究	18
KT-96-17	9.14(函館)～9.24(下関) (9.18新潟)	11	日本海	沖山宗雄 東京大学海洋研究所 (代理 小島茂明)	日本海の水流動、生物群集及び古環境に関する研究	20
KT-96-18	11.8(東京)～11.17(那覇)	10	九州ーパラオ海嶺、伊豆近海、西南日本近海	末広潔 東京大学海洋研究所	フィリピン海地殻構造の地球物理学的研究 (WESTPAC)	11
KT-96-19	11.20(那覇)～11.28(那覇)	9	台湾東方海域	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	ウナギの初期生態に関する研究	11
KT-96-20	12.1(那覇)～12.12(東京) (12.8清水)	12	九州ーパラオ海嶺、駿河湾、相模湾、東京湾	石井輝秋 東京大学海洋研究所 (代理 白山義久)	九州ーパラオ海嶺・伊豆近海における地質・化学及び生物学的研究 (ODP)	22
KT-97-1	1997.2.24(東京)～2.28(東京)	5	相模湾、伊豆海	白山義久 東京大学海洋研究所	相模湾及び伊豆海におけるベントス・プランクトンの生物学的研究	10
KT-97-2	3.11(東京)～3.17(東京)	7	房総東方海域、相模湾、東京湾	野崎義行 東京大学海洋研究所	海溝域における物質循環の研究	10

●1997年度

KT-97-3	1997.4.10(東京)～4.16(横須賀)	7	伊豆海、相模湾、相模トラフ	川辺正樹 東京大学海洋研究所	伊豆海嶺上の黒潮の流量観測と海洋測器の開発試験	11
KT-97-4	4.19(横須賀)～4.25(東京) (4.22尾鷲港外)	7	相模湾、南海トラフ海域	藤本博己 東京大学海洋研究所	相模湾、南海トラフ海域における測地地球物理観測	12
KT-97-5	5.7(東京)～5.14(横浜)	8	三陸沖	才野敏郎 名古屋大学大気水圏科学研究所	人工衛星を利用した海洋の生態系と物質循環に関する研究：ADEOS三陸沖フィールドキャンペーン	11
KT-97-6	5.17(横浜)～5.23(東京)	7	東京湾、相模湾、房総沖、伊豆近海	小池勲夫 東京大学海洋研究所	黒潮周辺域における生物活動と有機物の動態に関する研究	11
KT-97-7	6.4(東京)～6.10(二見)	7	相模湾・房総と伊豆海嶺・小笠原海域	太田秀 東京大学海洋研究所	本州中部・伊豆・小笠原海嶺系のベントスの生態学的研究	11
KT-97-8	6.13(二見)～6.19(横須賀)	7	伊豆ー小笠原海嶺域	石井輝秋 東京大学海洋研究所	伊豆・小笠原海嶺の地質学的・岩石学的研究 (ODP)	11
KT-97-9	6.22(横須賀)～6.26(東京)	5	東京湾、相模湾	白山義久 東京大学海洋研究所	東京湾、相模湾における沈降粒子・海底堆積物の生物学・化学的研究	11
KT-97-10	7.8(東京)～7.15(清水)	8	伊豆沖・遠州灘・紀伊沖・土佐沖・日向灘・薩南海域	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	黒潮内側域における仔稚魚の分布・生態・進化に関する研究	11
KT-97-11	7.18(清水)～7.24(清水)	7	房総半島南方及び東方海上	徳山英一 東京大学海洋研究所	島弧ー島弧衝突域における活構造及び堆積構造の研究	11
KT-97-12	7.27(清水)～7.31(東京)	5	伊勢・三河湾口及び遠州灘	窪川かおる 東京大学海洋研究所	原索動物ナメクジウオ類の分子生物学・発生学・行動生態学に関する研究	11
KT-97-13	8.20(東京)～8.29(大槌) (8.24大槌)	10	三陸沖・道南海域	杉本隆成 東京大学海洋研究所 (代理 池田勉)	三陸沖・道南海域における生物学・古生物学的研究	21
KT-97-14	9.1(大槌)～9.7(八戸)	7	三陸沖の沿岸及び日本海溝域	藤尾伸三 東京大学海洋研究所	三陸沖水域における海洋物理学及び微生物に関する研究	11
KT-97-15	9.10(八戸)～9.16(新潟)	7	三陸沖・日本海	小島茂明 東京大学海洋研究所	三陸沖・日本海の底生生物及び海底堆積物に関する海洋学的研究	11

航海番号	航海日程（出港～入港〔寄港〕）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
KT-97-16	9.19(新潟)～10.2(下関) (9.24～9.27小樽)	14	日本海東北部	伊勢崎修弘 千葉大学理学部	日本海盆北部の地磁気異常と大和堆の地震学的構造の研究	11
KT-97-17	11.17(東京)～11.26(東京)	10	三陸沖	末広潔 東京大学海洋研究所	三陸沖プレート境界の個体地球物理観測研究	10
KT-97-18	12.2(東京)～12.8(横須賀)	7	伊豆海嶺・東京湾・相模湾	川辺正樹 東京大学海洋研究所	伊豆海嶺上の黒潮の流量観測と東京湾、相模湾における物質循環	11
KT-97-19	12.11(横須賀)～12.19(東京) (12.15横須賀)	9	相模湾・相模灘	仲岡雅裕 東京大学海洋研究所	相模湾・相模灘におけるプランクトン、流れ藻、沈降粒子、海底堆積物の生物学・化学的研究	21
KT-98-1	1998.1.13(東京)～1.19(東京)	7	伊勢湾・遠州灘西部	中田英昭 東京大学海洋研究所	熱塩フロント近傍の海洋構造と生物分布	11
KT-98-2	2.20(東京)～2.26(東京)	7	三陸沖合域	川口弘一 東京大学海洋研究所	動物プランクトン・マイクロネクトンの生態学的研究	7
KT-98-3	3.11(東京)～3.17(東京)	7	相模湾・東京湾・房総沖	植松光夫 東京大学海洋研究所	相模湾近海における物質循環の研究	11
● 1998年度						
KT-98-4	1998.4.7(東京)～4.17(塩釜) (4.13大槌)	11	三陸沖	川口弘一 東京大学海洋研究所 (代理 池田勉)	親潮域・移行域の動物プランクトン及びマイクロネクトンの生態学的研究	20
KT-98-5	4.20(塩釜)～4.28(東京)	9	三陸沖日本海溝	徳山英一 東京大学海洋研究所	三陸沖日本海溝域の地質・地球物理学的研究	10
KT-98-6	5.8(東京)～5.15(清水)	8	遠州灘・駿河湾	中田英昭 東京大学海洋研究所	黒潮前線渦の生物生産機能に関する研究	11
KT-98-7	5.18(清水)～5.24(横須賀)		相模湾・相模灘・伊豆諸島近海	仲岡雅裕 東京大学海洋研究所	相模湾から黒潮流域におけるプランクトン、流れ藻、沈降粒子、海底堆積物の生物学的研究	11
KT-98-8	5.27(横須賀)～6.4(東京) (6.1横須賀)	9	東京湾・相模湾・黒潮域・黒潮統流域	古谷研 東京大学農学生命科学研究科	生物光学的手法による海洋基礎生産推定とその検証法に関する研究	15
KT-98-9	6.15(東京)～6.24(高知)	10	南海トラフ・相模湾	藤本博己 東京大学海洋研究所	南海トラフ・相模湾における測地地球物理学的研究	10
KT-98-10	6.27(高知)～7.6(東京)	10	九州西方海上	木村龍治 東京大学海洋研究所	梅雨期の対流性擾乱とこれに伴う海面フラックス	10
KT-98-11	7.13(東京)～7.19(清水)	7	相模湾・駿河湾及びその沖合域	小松輝久 東京大学海洋研究所	相模湾、駿河湾、及びその沖合域におけるマイワシ親魚分布と環境の計測	9
KT-98-12	7.22(清水)～7.28(焼津)	7	駿河湾	杉本隆成 東京大学海洋研究所	駿河湾における稚仔魚の輸送環境	11
KT-98-13	7.31(焼津)～8.5(東京)	6	伊勢・三河湾口及び遠州灘	窪川かおる 東京大学海洋研究所	原索動物ナメクジウオ類の生息環境・発生理学・行動生態学に関する研究	11
KT-98-14	8.26(東京)～9.3(横浜) (8.28横須賀)	9	相模湾・房総沖	太田秀 東京大学海洋研究所 (代理 北里洋)	相模湾・房総沖の深海底生生物の生態学的研究	19
KT-98-15	9.6(横浜)～9.12(横須賀)	7	東京湾・相模湾・伊豆近海	小池勲夫 東京大学海洋研究所	黒潮周辺域における各態有機物の動態と生物活動に関する研究	11
KT-98-16	9.15(横須賀)～9.22(新宮)	8	東京湾・相模湾・駿河湾及びその周辺海域	大和田紘一 東京大学海洋研究所	相模湾、駿河湾及びその周辺海域における微生物に関する研究	9
KT-98-17	9.25(新宮)～10.2(下関)	8	紀伊半島沖・豊後水道・日本海西部	小島茂明 東京大学海洋研究所	日本海西部、対馬海峡の底生生物及び海底堆積に関する海洋学的研究	11
KT-98-18	11.19(東京)～11.28(高知) (11.22御前崎港外)	10	南海トラフ・北部四国海盆	玉木賢策 東京大学海洋研究所 (代理 中西正男)	南海トラフ及び北部四国海盆の地質・地球物理学調査	12
KT-98-19	12.1(高知)～12.11(東京)	11	大東海嶺・九州・パラオ海嶺を含むフィリピン海	石井輝秋 東京大学海洋研究所	フィリピン海北部海域基盤岩類の地質学的・岩石学的研究 (ODP)	10
KT-99-1	1999.1.12(東京)～1.18(東京) (1.16横須賀港外)	7	東京湾・三陸沖	川口弘一 東京大学海洋研究所 (代理 才野敏郎)	冬期の動物プランクトン・マイクロネクトンの生態及び物質循環の研究	9
KT-99-2	3.16(東京)～3.23(東京)	8	伊豆海	竹内俱佳 電気通信大学電気通信学部	伊豆海嶺上の黒潮の流量観測	9
● 1999年度						
KT-99-3	1999.4.7(東京)～4.13(勝浦)	7	相模湾・南海トラフ	藤本博己 東京大学海洋研究所	相模湾及び南海トラフ海域における海洋測地・地球物理学的研究	10
KT-99-4	4.16(勝浦)～4.23(東京)	8	伊豆・小笠原海嶺、四国海盆を含む	石井輝秋 東京大学海洋研究所	フィリピン海北部海域海底岩石の地質学的・岩石学的研究 (ODP)	11
KT-99-5	5.7(東京)～5.14(横浜)	8	黒潮統流域 鹿島灘	中田英昭 東京大学海洋研究所	黒潮統流フロント域における卵・仔魚の輸送及び生残過程に関する研究	10
KT-99-6	5.17(横浜)～5.27(東京)	11	相模湾・房総周辺海域・駿河湾	太田秀 東京大学海洋研究所	相模湾・房総周辺・駿河湾の深海性ベントス・ネクトンの生態学的研究	11
KT-99-7	6.4(東京)～6.9(東京)	6	東京湾・相模湾	才野敏郎 名古屋大学大気水圏科学研究所	沿岸海域の物質循環における海底の役割	7
KT-99-8	6.17(東京)～6.22(横須賀)	6	伊勢・三河湾口及び遠州灘	窪川かおる 東京大学海洋研究所	原索動物頭索類の産卵海域の調査研究	11
KT-99-9	6.25(横須賀)～7.2(焼津)	8	相模湾・東京湾・駿河湾・南海トラフ・遠州灘	大和田紘一 東京大学海洋研究所	相模湾、駿河湾及びその周辺海域における微生物に関する研究	10
KT-99-10	7.5(焼津)～7.13(東京)	9	相模湾・駿河湾及びその沖合海域	小松輝久 東京大学海洋研究所	相模湾、駿河湾およびその沖合海域における海洋生物分布量の音響計測	11
KT-99-11	7.21(東京)～7.27(塩釜)	7	常磐・三陸沖合	川口弘一 東京大学海洋研究所	親潮域・移行域における動物プランクトン・マイクロネクトンの生態学的研究 (夏季)	9
KT-99-12	7.30(塩釜)～8.6(東京) (8.2～8.3小名浜)	8	本州東方海域	植松光夫 東京大学海洋研究所	本州東方海域における大気、海洋間の物質循環の研究	13
KT-99-13	8.30(東京)～9.10(函館) (9.5～9.6「戸」)	12	三陸沖・襟裳岬沖	玉木賢策 東京大学海洋研究所	日本海溝軸部活構造及び親潮域における動物プランクトンに関する研究	12
KT-99-14	9.13(函館)～9.21(新潟)	9	津軽海峡・秋田・新潟沖	斉藤実篤 東京大学海洋研究所	日本海における堆積学的・古海洋学的研究ならびに津軽海峡における海洋物理学的研究	11

航海番号	航海日程（出港～入港【寄港】）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
KT-99-15	9.24(新潟)～10.2(下関)	9	九州西方海域	藤本博己 東京大学海洋研究所	九州西方海域における地殻・マントル構造の地球物理学的研究	11
KT-99-16	11.17(東京)～11.25(松坂) (11.20～11.21横須賀)	9	東京湾・相模湾および黒潮海域	木暮一啓 東京大学海洋研究所	黒潮海域における海洋構造及び有機物-微生物相互作用系の解析	13
KT-99-17	11.28(松坂)～12.12(高知) (12.4～12.5新宮)	15	土佐湾、紀伊半島周辺海域及びその沖合域	杉本隆成 東京大学海洋研究所 (代理 白山義久・増澤敏行)	黒潮周辺海域における生物の分布と輸送環境に関する研究	22
KT-99-18	12.15(高知)～12.22(東京)	8	高知沖・日向灘・熊野灘	窪寺恒巳 国立科学博物館	高知沖の底生動物の分類及び生態学的研究	10
KT-00-1	2000.2.2(東京)～2.7(東京)	6	東京湾湾口・相模湾	垂木新一郎 北海道大学地球環境科学研究科	東京湾から太平洋への物質輸送の季節変化に関する研究	7
KT-00-2	3.7(東京)～3.14(東京)	8	房総半島沖	斉藤実篤 東京大学海洋研究所	房総半島沖の堆積学的研究と黒潮の変遷史の研究	8

●2000年度

KT-00-3	2000.4.6(東京)～4.18(宮古) (4.14～4.15/戸)	13	本州東方沖合域	杉本隆成 東京大学海洋研究所	黒潮・親潮および移行域暖水塊の流動と低次生産	16
KT-00-4	4.21(宮古)～4.28(東京)	8	三陸沖	藤本博己 東北大学大学院理学研究科	三陸沖日本海溝陸側斜面における地球物理学的研究	9
KT-00-5	5.9(東京)～5.22(横須賀) (5.14～5.15横須賀)	14	相模湾・房州沖・伊豆海嶺	太田秀 東京大学海洋研究所 (代理 西田周平)	相模湾・外房沖のベントス・プランクトンの生態学・分類系統学的研究および伊豆海嶺上の黒潮の流量観測	22
KT-00-6	5.25(横須賀)～6.2(東京)	9	東部南海トラフ	望月公廣 東京大学海洋研究所	東部南海トラフにおける地殻構造及び熱構造の研究（日仏KAICO計画）	10
KT-00-7	6.15(東京)～6.22(高知)	8	四国沖南海トラフ・熊野灘・土佐湾	蒲生俊敬 北海道大学理学研究科	本州南方海域における海底からの熱・物質フラックスと地殻変動に関する研究	11
KT-00-8	6.25(高知)～7.3(東京) (6.28～6.29油津)	9	土佐湾・黒潮流域・遠州灘	窪川かおる 東京大学海洋研究所 (代理 嶋永元裕)	土佐湾及び黒潮流域とその日本沿岸におけるナメクジウオと底生及び表層生物に関する研究	18
KT-00-9	7.13(東京)～7.19(横須賀)	7	東京湾・相模湾・房総沖	大和田紘一 東京大学海洋研究所	東京湾・相模湾・房総沖における海水および堆積物中の微生物に関する研究	8
KT-00-10	7.22(横須賀)～7.28(清水)	7	相模湾・駿河湾及び周辺域	小松輝久 東京大学海洋研究所	相模湾・駿河湾における計量魚群探知機を用いた生物分布量の計測	10
KT-00-11	7.31(東京)～8.8(東京) (8.3～8.4新宮)	9	本州南方の黒潮前線と沿岸境界域	杉本隆成 東京大学海洋研究所	黒潮前線・沿岸境界域における生物生産と輸送環境に関する研究	12
KT-00-12	9.6(東京)～9.12(清水) (9.8～9.9横須賀)	7	東京湾・相模湾および黒潮海域	小池勲夫 東京大学海洋研究所	東京湾から黒潮沖にかけての生物代謝と有機物の動態に関する研究	14
KT-00-13	9.15(清水)～9.22(博多)	8	四国海盆紀伊半島沖及び中央部	増澤敏行 名古屋大学大気水圏科学研究科	四国海盆における大気海洋物質循環に関する研究	10
KT-00-14	9.25(博多)～10.2(下関)	8	山陰沖・北九州沖	小島茂明 東京大学海洋研究所	山陰沖・北九州沖における生態学、堆積学、地震学的研究	11
KT-00-15	11.16(東京)～11.24(那覇) (11.20名瀬)	9	四国海盆北部・南西諸島海域	石井輝秋 東京大学海洋研究所	フィリピン海北部海域の海洋地質学的・物質科学的研究（ODP）	14
KT-00-16	11.27(那覇)～12.8(長崎)	12	東シナ海・沖縄周辺海域・台湾東方海域	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	アナゴの産卵生態とウナギレプトケファルスとの輸送・変態に関する研究	11
KT-00-17	12.11(長崎)～12.21(東京) (12.17～12.18横須賀)	11	九州西岸（東シナ海）・九州南西岸・本州南西岸・相模湾	太田秀 東京大学海洋研究所 (代理 窪川かおる)	九州西岸、本州南西岸、相模湾の底生生物とプランクトンの生態学的研究および堆積学、古生物学的研究	17
KT-01-1	2001.3.1(東京)～3.7(横須賀)	7	本州東方黒潮流域・相模湾	植松光夫 東京大学海洋研究所	本州東方海域における動植物プランクトンの生態と物質循環に関する研究	11
KT-01-2	3.10(横須賀)～3.16(東京)	7	相模湾・東京湾・房総沖	天川裕史 東京大学海洋研究所	日本近海での春季海洋表層の化学的研究	8

●2001年度

KT-01-3	2001.4.9(東京)～4.17(塩釜)	9	三陸沖暖水塊及び親潮混合域	木村伸吾 東京大学海洋研究所	三陸沖暖水塊及び親潮混合域における流動と生物生産に関する研究	8
KT-01-4	4.20(塩釜)～4.25(東京)	6	黒潮・親潮移行域	青木一郎 東京大学大学院農学生命科学研究科	本州東方海域におけるイワシ類の生態学的研究	10
KT-01-5	5.7(東京)～5.12(清水)	6	相模湾・駿河湾及び隣接沖合海域	西田周平 東京大学海洋研究所	バクテリア、プランクトン、ベントスの相互作用に関する研究（新プロDOBIS航海）	11
KT-01-6	5.15(清水)～5.26(鹿児島) (5.17鳥羽)	12	三河湾口、串本周辺、土佐湾、薩南・	渡邊良朗 東京大学海洋研究所 (代理 窪川かおる)	黒潮周辺におけるナメクジウオ・イワシ類・中深層性魚類の繁殖生態（新プロDOBIS航海）	15
KT-01-7	5.29(鹿児島)～6.8(東京) (5.31～6.1那覇)	11	東シナ海、熊野灘	杉本隆成 東京大学海洋研究所 (代理 木村伸吾)	黒潮流域における物質輸送と生物生産の分布に関する研究	10
KT-01-8	6.18(東京)～6.24(横浜) (6.20～6.21横浜)	7	相模湾・房総沖	太田秀 東京大学海洋研究所	相模湾・房総沖の底生生物とプランクトンの生態学的・古生物学的研究	22
KT-01-9	6.27(横浜)～7.3(横浜) (6.29横須賀)	7	相模湾及び伊豆諸島海域	小松輝久 東京大学海洋研究所 (代理 石田健一)	相模湾・伊豆諸島海域における魚類の分布量と生息環境の計測	15
KT-01-10	7.6(横浜)～7.13(東京) (7.9横須賀)	8	相模湾及び黒潮海域	小池勲夫 東京大学海洋研究所 (代理 木暮一啓)	黒潮周辺海域における海洋微細構造及び生物代謝と有機物動態に関する研究	17
KT-01-11	7.23(東京)～7.31(塩釜)	9	日本海溝周辺域	藤本博己 東北大学理学研究科	三陸沖・日本海溝周辺の測地・地球物理的研究	11
KT-01-12	8.3(塩釜)～8.9(東京)	7	三陸沖・伊豆近海・相模湾・東京湾	佐野有司 東京大学海洋研究所	沿岸域から外洋域にかけての物質輸送と循環に関する研究	11

航海番号	航海日程（出港～入港〔寄港〕）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
KT-01-13	8.31(東京)～9.9(横須賀) (9.3鳥羽9.4～9.5名古屋)	10	遠州灘・伊勢湾・三河湾・相模湾	塚本勝巳 東京大学海洋研究所 (代理 稲垣正・古谷研)	三河湾周辺域におけるハモの産卵生態に関する研究及び光生物学的手法を用いた相模湾中央部の基礎生産力の推定（新プロDOBIS航海）	21
KT-01-14	9.12(横須賀)～9.24(小樽) (9.17～9.18八戸)	13	三陸沖・オホーツク海・北海道沖日本海	小島茂明 東京大学海洋研究所 (代理 遠藤宣成)	三陸沖、オホーツク海、北海道沖日本海における海洋生態学、分子系統学、海洋地質学的研究（新プロDOBIS航海）	16
KT-01-15	9.27(小樽)～10.8(下関) (10.3～10.4富山)	12	日本海	北里洋 静岡大学理学部	日本海及び富山湾における地球物理学的、生物地球化学的及び地球微生物学的研究	19
KT-01-16	11.22(東京)～12.1(横須賀)	10	伊豆小笠原周辺海域	藤尾伸三 東京大学海洋研究所	日本海及び深層流及び亜熱帯モード水の流動の観測	11
KT-01-17	12.4(横須賀)～12.12(清水)	9	四国海盆、遠州灘、紀伊半島沖及び中央部	増澤敏行 名古屋大学大学院環境学研究所	四国海盆における大気海洋物質循環に関する研究	9
KT-01-18	12.15(清水)～12.21(東京)	7	駿河湾・相模湾および周辺黒潮域	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	駿河湾、相模湾及び周辺域におけるアナゴの産卵生態とハダカイワシ科魚類の生活史に関する研究	11

●2002年度

KT-02-2	2002.4.4(東京)～4.9(清水)	6	相模湾及び伊豆諸島海域・駿河湾	小松輝久 東京大学海洋研究所	伊豆諸島海域の海山周辺に分布する底生魚類の音響計測	8
KT-02-3	4.12(清水)～5.2(東京) (4.20～4.23那覇)	21	トカラ列島周辺海域・奄美舟状海盆周辺海域及び沖縄舟状海盆周辺海域	西田睦 東京大学海洋研究所 (代理 窪川かおる)	海洋動物の分子系統学的・分類学的研究及び南西諸島における深海性動物相の解明（新プロDOBIS航海）	20
KT-02-4	5.10(東京)～5.16(清水)	7	東京湾、相模湾、駿河湾	西田周平 東京大学海洋研究所	バクテリア、プランクトン、ベントスの相互作用及びクラゲ類の生態に関する研究（新プロDOBIS）	16
KT-02-5	5.19(清水)～5.30(横須賀) (5.24～5.25清水)	12	相模湾、駿河湾、伊豆諸島、遠州灘、熊野灘	北里洋 海洋科学技術センター (代理 大路樹生)	相模湾における海洋物質循環及び伊豆大島～熊野灘海域の底生生物群集に関する研究	20
KT-02-6	6.2(横須賀)～6.7(東京)	6	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	生物光学的手法を用いた相模湾中央部の基礎生産力の推定とその検証	11
KT-02-7	6.15(東京)～6.22(大槌)	8	伊豆七島周辺域から三陸沖海域	植松光夫 東京大学海洋研究所	大気海洋間の生物地球化学的循環過程に関する研究	10
KT-02-8	6.25(大槌)～7.2(塩釜)	8	三陸沖及び宮古湾	木村伸吾 東京大学海洋研究所	マアナゴ・ニシンの接岸回遊及び魚類の音響推定に関する研究	8
KT-02-9	7.5(塩釜)～7.13(横須賀)	9	三陸沖日本海溝周辺	藤本博己 東北大学大学院理学研究科	三陸沖日本海溝周辺における測地・地球物理学的研究	10
KT-02-10	7.16(横須賀)～7.26(東京) (7.20～7.21横須賀)	11	相模湾及び伊豆近海	木暮一啓 東京大学海洋研究所 (代理 小池勲夫)	相模湾及び伊豆近海における生物代謝と有機物動態に関する研究（DOBIS）	16
KT-02-11	8.22(東京)～8.27(清水)	6	本州南方海域（主として駿河湾・相模湾）	蒲生俊敬 北海道大学理学研究科	駿河湾及びその近海における海底下湧出調査	10
KT-02-12	8.30(清水)～9.4(東京)	6	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	生物光学的手法を用いた相模湾中央部の基礎生産力の推定とその検証	11
KT-02-13	9.12(東京)～9.28(鹿児島) (9.19～9.21鹿児島)	17	相模湾・南海トラフ・東シナ海	杉本隆成 東京大学海洋研究所 (代理 北里洋、山野誠)	相模湾・南海トラフ・東シナ海における物質、地熱及び生物輸送に関する研究	20
KT-02-14	10.1(鹿児島)～10.8(石垣)	8	沖縄トラフ・東シナ海	野崎義行 東京大学海洋研究所	沖縄トラフ及び黒潮域にかけての物質循環	9
KT-02-15	10.11(石垣)～10.21(東京)	11	東シナ海から太平洋側を含む沖縄周辺海域（与那国島周辺と沖縄本島周辺）	岡田誠 茨城大学理学部	黒潮源流域における現世浮遊性有孔虫の生態解明と堆積物に適用した古海洋環境に関する総合研究	8
KT-02-16	10.29(東京)～11.6(下関) (11.3焼津)	9	駿河湾	青山潤 東京大学海洋研究所	マアナゴの産卵生態と生物多様性に関する研究	10
KT-02-17	11.9(下関)～11.20(下関)	12	日本海大和堆、大和海域及び対馬海盆	伊勢崎修弘 千葉大学理学部	対馬海盆での磁気構造探査と大和堆・大和海域での海底地震計による深海構造探査	10

●2003年度

KT-03-1	2003.4.3(東京)～4.9(新宮)	7	三宅島～熊野灘	大路樹生 東京大学理学研究科	深海性底生生物の進化古生物学的研究	11
KT-03-2	4.12(新宮)～4.17(新宮)	6	紀伊半島周辺海域	久保田信 京都大学瀬戸臨海実験所	紀伊半島周辺における海洋生物の多様性に関する研究（新プロDOBIS航海）	10
KT-03-3	4.20(新宮)～4.28(東京) (4.23銚子:通船)	9	熊野灘、房総沖及び伊豆近海	杉本隆成 東京大学海洋研究所	黒潮の離岸の力学機構及び流れ藻と海山周辺の底生魚類の研究	13
KT-03-4	5.6(東京)～5.11(横須賀)	6	駿河湾	青山潤 東京大学海洋研究所	ウナギ目魚類の生態と多様性（新プロDOBIS航海）	11
KT-03-5	5.14(横須賀)～5.19(横須賀) (5.17横須賀沖:通船)	6	相模湾・東京湾	西田周平 東京大学海洋研究所	バクテリア、プランクトン、ベントスの相互作用及びクラゲ類の音響計測手法に関する研究（新プロDOBIS航海）	19
KT-03-6	5.22(横須賀)～5.27(東京)	6	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	生物光学的手法を用いた相模湾中央部の基礎生産力の推定とその検証	11
KT-03-7	6.5(東京)～6.14(東京) (6.9～6.10東京)	10	東京湾、相模湾、伊豆近海	木暮一啓 東京大学海洋研究所	東京湾、相模湾及び伊豆近海における生物代謝と有機物動態に関する研究（DOBIS航海）	18
KT-03-8	6.17(横須賀)～6.25(東京)	9	伊豆小笠原孤島・三宅島近海及び八丈島周辺地域	石塚治 産業技術総合研究所	伊豆小笠原孤島・三宅島・八丈島地域における火山学的及び生物学的研究と深海曳網探査システムの開発	8

航海番号	航海日程（出港～入港【寄港】）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
KT-03-9	7.3(東京)～7.11(新潟)	9	日本海・富山湾	張勁 富山大学理学部	日本海・富山湾における物質循環の生物地球化学的研究	11
KT-03-10	7.14(新潟)～7.20(新潟) (7.15～7.19両津)	7	佐渡島沖合、秋田沖	浦環 東京大学生産技術研究所	日本海におけるAUVによる海底至近距離観測及び微古生物学的並びに海底堆積学的研究	11
KT-03-11	7.23(新潟)～8.1(塩釜)	10	日本海中部及び北部	藤浩明 富山大学理学部	中部日本及び東北日本背弧の地球電磁気学及び地震学的研究	11
KT-03-12	8.4(塩釜)～8.13(東京)	10	日本海溝周辺	藤本博己 東北大学大学院理学研究科	三陸沖日本海溝周辺における剥地・地球物理学的研究	9
KT-03-13	8.27(東京)～9.1(横須賀)	6	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	生物光学的手法を用いた相模湾中央部の基礎生産力の推定とその検証	11
KT-03-14	9.4(横須賀)～9.9(大阪)	6	相模湾、駿河湾、本州南方	青山潤 東京大学海洋研究所	相模湾及び駿河湾、本州南方におけるウナギ目魚類と動物プランクトンの多様性に関する研究	11
KT-03-15	10.17(東京)～10.23(大槌)	7	鹿島沖、福島沖、仙台沖、三陸沖	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	マアナゴの産卵生態、ツノナシオキアミの生理活性及び生物多様性に関する研究	11
KT-03-16	10.27(大槌)～11.6(東京)	11	房総沖、鹿島沖	道田豊 東京大学海洋研究所	黒潮表層流速構造及び海溝部深層流に関する研究	11
KT-03-17	11.14(東京)～11.19(東京)	6	房総沖、相模湾	太田秀 東京大学海洋研究所	深海ベントス群集構造及び多様性の時空間的変動の研究	10
KT-03-18	12.1(東京)～12.9(東京)	9	相模湾、駿河湾、黒潮フロント域	木村伸吾 東京大学海洋研究所	相模湾及び駿河湾における稚仔の分布と流動構造に関する研究（DOBIS）	14
KT-04-1	2004.3.2(東京)～3.8(名古屋)	7	南海トラフ（東海沖～紀伊半島沖）	山野誠 東京大学地震研究所	南海トラフにおける熱輸送・堆積過程に関する研究	10
KT-04-2	3.11(名古屋)～3.17(東京)	7	熊野灘、四国海盆中央部及び伊豆諸島海域	増澤敏行 名古屋大学環境学研究所	四国海盆における大気・海洋物質循環に関する研究	10

●2004年度

KT-04-3	2004.4.12(東京)～4.14(東京)	3	相模湾	稲垣正 東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	11
KT-04-4	4.16(東京)～4.20(横須賀機構)	5	相模湾	北里洋 海洋研究開発機構	相模湾における同位体地球化学的手法による深海食物連鎖網の解明と中層プランクトンの接餌・代謝活性・種多様性	11
KT-04-5	4.22(横須賀機構)～4.26(東京)	5	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	光学的手法による海洋基礎生産の自動計測と検証	11
KT-04-6	4.29(東京)～5.5(清水)	7	伊豆半島南方沖、駿河湾、遠州灘、熊野灘	大路樹生 東京大学理学研究科	深海底生動物の進化古生物学的研究	11
KT-04-7	5.8(清水)～5.15(横須賀)	8	相模湾・相模灘・外房沖	太田秀 東京大学海洋研究所	相模湾・房総沖における深海底生生物の分類学・系統進化学および生態学研究	11
KT-04-8	5.17(東京)～5.23(横須賀機構)	7	相模湾・東京湾・伊豆小笠原海溝	小畑元 東京大学海洋研究所	相模湾、東京湾における微量元素の同位体組成と地球化学的挙動に関する研究	11
KT-04-9	5.26(横須賀)～6.1(東京)	7	相模湾・東京湾・伊豆近海	木暮一啓 東京大学海洋研究所	海洋細菌およびウイルス様粒子の生態的研究	11
KT-04-10	6.4(東京)～6.14(東京) (6.9～10.10横浜)	11	相模湾	西田周平 東京大学海洋研究所	相模湾の漂流～底生群集における食物網と汚染物質の動態、及び生物相互作用に関する研究（DOBIS航海）	17
KT-04-11	6.17(東京)～6.21(清水)	5	相模湾・黒潮域	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	光学的手法による海洋基礎生産の自動計測と検証	11
KT-04-12	6.24(清水)～7.3(高知)	10	南海トラフ（熊野トラフ）・日向灘	寿寿一郎 東京大学海洋研究所	熊野トラフおよび日向灘のエアガンを用いた地下構造探査	10
KT-04-13	7.5(高知)～7.13(高知)	9	四国海盆	市川洋 鹿児島大学水産学部	四国南方黒潮流域における流動構造・流量とその変動機構	10
KT-04-14	7.16(高知)～7.26(清水) (7.17新宮:通船)	11	南海トラフ・四国沖	沖野郷子 東京大学海洋研究所	背弧拡大の終わり方の研究・浅海域・深海域での熱流量測定による南海トラフ沈み込み帯の温度構造の研究	11
KT-04-15	7.29(清水)～8.3(横須賀)	6	相模湾・黒潮域	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	光学的手法による海洋基礎生産の自動計測と検証	11
KT-04-16	8.5(久里浜)～8.12(小名浜)	8	相模湾、伊豆諸島近海、房総沖	道田豊 東京大学海洋研究所	黒潮の詳細流速構造に関する研究	11
KT-04-17	8.14(小名浜)～8.21(釧路)	8	常磐日立沖、三陸沖、親潮・黒潮混合水域	猿渡敏郎 東京大学海洋研究所	親潮・黒潮混合水域における食物連鎖と底魚類の初期生態に関する研究	11
KT-04-18	8.24(釧路)～8.31(釧路)	8	親潮海域(サイトH周辺)	池田勉 北海道大学大学院水産化学研究科	深海底生動物プランクトンの生理・生態学的研究	7
KT-04-19	9.2(釧路)～9.9(網走) (9.3～9.8古釜布)	8	国後・択捉・歯舞・色丹島及びその周辺	向井宏 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	北方四島周辺における海洋生態系の研究	11
KT-04-20	9.12(網走)～9.19(小樽)	8	網走湾、北海道沖日本海	小島茂明 東京大学海洋研究所	オホーツク海の深海生物の起源と海洋環境変動に関する進化的生態学的研究（DOBIS航海）	11
KT-04-21	9.22(小樽)～9.29(富山) (9.26函館:通船)	8	北海道沖日本海及び恵山岬沖太平洋	塚脇真二 金沢大学自然計測応用研究センター	日本海中央部における微古生物学的並びに堆積学的研究	12
KT-04-22	10.1(富山)～10.5(博多)	5	富山湾	木村伸吾 東京大学海洋研究所	富山湾における物質循環に関する研究（DOBIS）	11
KT-04-23	10.8(博多)～10.15(那覇)	8	東シナ海の黒潮周辺	原田哲夫 高知大学教育学部	黒潮流域における浮遊生物に関する研究	11
KT-04-24	10.18(那覇)～10.26(名古屋)	9	南西諸島	窪寺恒己 国立科学博物館	南西諸島海域における深海底生動物相の解明	10
KT-04-25	10.29(名古屋)～11.5(横須賀機構) (11.1～11.2清水)	8	相模湾および黒潮周辺域	小池勲夫 東京大学海洋研究所 (代理 小川浩史)	相模湾および黒潮周辺海域における有機物の存在形態と生物作用に関する研究（DOBIS）	12
KT-04-26	11.8(横須賀機構)～11.12(横須賀機構)	5	東京湾・相模湾	北里洋 海洋研究開発機構	東京湾、相模湾における同位体地球化学的手法による深海食物連鎖網の解明	9

航海番号	航海日程（出港～入港〔寄港〕）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
KT-04-27	11.14(横須賀)～11.21(横須賀)	8	東海沖および鹿島灘沖	白井正明 東京大学海洋研究所	東海沖および茨城沖における地層探査とコアリングによる堆積物形成過程の研究	10
KT-04-28	11.24(横須賀)～12.6(東京) (11.30～12.1二見)	13	伊豆・小笠原海域	新井田清信 北海道大学理学研究科	伊豆・小笠原海嶺基盤岩の地質・岩石学的研究 (IPOD)	13
KT-05-1	2005.2.23(大阪)～2.24(新宮)	2	紀伊水道、熊野灘、相模湾	稲垣正 東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	6
KT-05-2	2.25(新宮)～3.3(名古屋)	7	南海トラフ（東海沖～紀伊半島沖）	山野誠 東京大学地震研究所	南海トラフ沈み込み帯の温度構造の研究	9
KT-05-3	3.5(新宮)～3.11(高知)	7	四国海盆中央部（紀伊半島沖）	増澤敏行 名古屋大学大学院環境学研究所	四国海盆における海洋物質循環の季節変動	5
KT-05-4	3.14(高知)～3.19(東京)	6	土佐湾、紀伊半島沖合、駿河湾、伊豆半島	小松輝久 東京大学海洋研究所	流れ藻の分布とその生態系に関する研究	11
KT-05-5	3.22(東京)～3.31(室蘭)	10	北海道根室半島沖	高波鑑夫 北海道大学大学院理学研究科	1973年根室半島沖地震の震源域およびその周辺における最近の地震活動調査	5

● 2005年度

KT-05-6	2005.4.4(室蘭)～4.8(青森)	5	北海道南西海域	徳山英一 東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	12
KT-05-7	4.11(青森)～4.20(青森)	10	むつ湾・下北半島200 kmまでの西太平洋	木本克典 海洋研究開発機構	下北半島沖のBSR異常とメタン流体・ガスハイドレードに関する研究および下北周辺海域における古海洋学的研究	13
KT-05-8	4.23(青森)～4.29(函館)	7	日本海・日本海盆	伊勢崎修弘 千葉大学理学部	日本海盆の発達過程の解明：日本海盆における地磁気探査	7
KT-05-9	5.2(函館)～5.8(富山)	7	日本海中央部・若狭湾沖・黒部川河口沖	塚脇真二 金沢大学自然計測応用センター	日本海中央部ならびに若狭湾沖における生物学的ならびに堆積学的研究、およびダムの排砂が黒部川河口域の漁業環境に及ぼす影響	12
KT-05-10	5.10(富山)～5.13(富山)	4	富山湾	木村伸吾 東京大学海洋研究所	富山湾の流動環境と物質循環に関する研究	10
KT-05-11	5.16(富山)～5.26(函館)	11	日本海	蒲生俊敬 東京大学海洋研究所	日本海における深層循環と生物地球化学サイクルの研究 (GEOTRACES)	12
KT-05-12	5.29(函館)～6.7(八戸)	10	親潮海域(道南、東北沖)	池田勉 北海道大学大学院水産化学研究科	深海性動物プランクトンの生理・生態学的研究	9
KT-05-13	6.10(八戸)～6.21(小名浜)	12	東北沖日本海溝周辺海域	藤本博己 東北大学理学研究科	東北沖日本海溝周辺海域における地球物理学的研究	9
KT-05-14	6.24(小名浜)～6.28(横須賀機構)	5	黒潮統流域	植松光夫 東京大学海洋研究所	黒潮統流域における水塊の物理的変動と生物・化学的応答のリンゲージ	12
KT-05-15	6.30(横須賀機構)～7.7(東京)	8	相模湾・黒潮周辺域	小川浩史 東京大学海洋研究所	相模湾・黒潮周辺域における生元素循環に関する研究	8
KT-05-16	7.13(東京)～7.21(横須賀機構)	9	東京湾、相模湾、黒潮周辺域	木暮一啓 東京大学海洋研究所	海洋微生物群集の多様性および生態に関する研究	12
KT-05-17	7.23(横須賀機構)～7.27(横須賀機構)	5	伊豆・小笠原海域	小島茂明 東京大学海洋研究所	伊豆・小笠原弧の熱水噴出域固有種の幼生分散に関する生態学研究	11
KT-05-18	7.29(東京)～8.5(清水)	8	相模湾、房総半島沖	北里洋 海洋研究開発機構	相模湾、房総沖における深海底生生物、微生物活性、底層物質循環および廃棄物分布に関する研究	11
KT-05-19	8.8(清水)～8.14(清水)	7	紀伊半島沖熊野トラフ周辺	白井正明 東京大学海洋研究所	熊野トラフ周辺における堆積物運搬過程と熱輸送に関する研究 (IPOD)	11
KT-05-20	8.17(清水)～8.25(日の出)	9	伊豆・小笠原	石井輝秋 東京大学海洋研究所	伊豆・小笠原海域海底基盤岩の地質学的・岩石学的形成史の解明	12
KT-05-21	8.28(東京)～9.3(横須賀港機構)	7	三陸沖黒潮統流域	中村恭之 東京大学海洋研究所	反射法地震探査による海洋中の微細構造の3次元観測	12
KT-05-22	9.6(横須賀機構)～9.15(清水) (9.11三崎)	10	相模湾	高橋正征 高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科	海洋の流動環境下における浮遊生態系の機能の把握に関する研究	15
KT-05-23	9.18(清水)～9.25(鹿児島)	8	四国南方	市川香 九州大学応用力学研究所	足摺沖のASUKA測線での黒潮・黒潮反流の観測	10
KT-05-24	9.28(鹿児島)～10.6(那覇)	9	東部東シナ海	武田重信 東京大学大学院農学生命科学研究科	亜熱帯貧栄養海域における窒素固定生物の空間分布と窒素固定能に及ぼす鉄の影響	10
KT-05-25	10.9(那覇)～10.14(石垣)	6	南西諸島	市川香 九州大学応用力学研究所	黒潮上流域における密度・流速の鉛直構造の観測	11
KT-05-26	10.17(石垣)～10.26(鹿児島)	10	南西諸島海域	角皆潤 北海道大学大学院理学研究院	南西諸島海域における海底湧水ブルームの分布と影響の化学的・微生物学的調査研究	12
KT-05-27	10.29(鹿児島)～11.3(宮崎)	6	鹿児島南方および西方沖	窪川かおる 東京大学海洋研究所	鹿児島沖における底生生物と浮遊生物の分布調査研究	12
KT-05-28	11.6(宮崎)～11.11(高知)	6	日向灘、豊後水道、瀬戸内海、紀伊水道	武岡英隆 愛媛大学沿岸環境科学研究センター	瀬戸内海の低次生産に対する陸棚斜面起源栄養塩の影響に関する研究及び豊後水道に仔稚魚の来遊メカニズムに関する研究	12
KT-05-29	11.14(高知)～11.19(高知)	6	土佐湾周辺海域、室戸岬沖	渡邊敏郎 東京大学海洋研究所	四国周辺海域における底生生物に関する分類学的・生態学的研究	11
KT-05-30	11.21(高知)～11.27(和歌山)	7	四国沖、紀伊水道、熊野灘	大路樹生 東京大学大学院理学研究科	深海性底生生物の進化古生物学的研究	12
KT-05-31	11.30(和歌山)～12.10(東京)	11	相模湾、紀伊水道、熊野灘、遠州灘	西田周平 東京大学海洋研究所	相模湾の漂流一底生群集における食物網と汚染物質の動態、および生物相互作用に関する研究	15
KT-05-32	12.13(東京)～12.19(大阪)	7	相模湾、駿河湾	柳哲雄 九州大学応用力学研究所	相模湾の生物生産と収束発散場の関係及び駿河湾の浮遊性古細菌に関する研究	12

航海番号	航海日程（出港～入港〔寄港〕）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
KT-06-1	2006.2.19(大阪)～2.23(鹿児島)	5	四国沖、九州沖	石井輝秋 東京大学海洋研究所	ドレッジ用デジタル深海ビデオカメラ、ピンガー、トランスポンダー等の観測機器開発、およびCTD精度試験	12
KT-06-2	2.26(鹿児島)～3.7(鹿児島)	10	若尊火口およびその東側の海丘	浦環 東京大学生産技術研究所	自律型海中ロボットによる熱水性生物群分布の観測研究	10
KT-06-3	3.10(鹿児島)～3.14(長崎)	5	北部沖縄トラフ（五島列島～甌島間）	清川昌一 九州大学大学院理学研究院	九州西部の伸張場テクトニクスの復元：北部沖縄トラフ形成と古第三系伸張テクトニクス	11
KT-06-4	3.17(長崎)～3.24(横須賀機構)	8	東シナ海、西日本南岸域	小松輝久 東京大学海洋研究所	黒潮域における流れ藻の分布とその生態系に関する研究	10
● 2006年度						
KT-06-5	2006.4.3(東京)～4.9(清水)	7	黒潮続流・再循環海域	津田敦 東京大学海洋研究所	黒潮続流・再循環海域における水塊形成過程と生物生産・輸送過程に関する研究	10
KT-06-6	4.11(清水)～4.22(和歌山)	12	南海トラフ海域（東海沖～紀伊半島沖）	山野誠 東京大学地震研究所	南海トラフ地震発生帯・付加体の温度構造の研究	9
KT-06-7	4.25(和歌山)～4.29(名古屋)	5	紀伊水道および紀伊半島熊野灘	寺門靖高 神戸大学発達科学部	沿岸海中の希土類元素存在度およびタービダイトの蓄積が深海底環境と生物多様性に与える影響	12
KT-06-8	5.1(名古屋)～5.10(東京)	10	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	相模湾における基礎生産、粒子フラックス、大気海洋ガス交換の短期間変動	15
KT-06-9	5.15(東京)～5.18(横須賀機構)	4	相模湾	西川淳 東京大学海洋研究所	高解像度ビデオシステム（VPR）を用いた相模湾におけるマリンスノーの分布と動態に関する研究	11
KT-06-10	5.22(横須賀)～5.30(函館)	9	親潮周辺海域	池田勉 北海道大学大学院水産学研究院	動物プランクトンの生理・生態学的研究	8
KT-06-11	6.2(函館)～6.13(東京)	12	小笠原沖～三陸沖	岡崎裕典 海洋研究開発機構	動植物プランクトンの深度方向への適応と種の多様性および古環境復元に関する研究	12
KT-06-12	6.16(東京)～6.20(東京)	5	房総沖・黒潮続流域	須賀利雄 東北大学大学院理学研究科	北太平洋亜熱帯モード水による有光層への栄養塩供給	11
KT-06-13	6.23(東京)～6.27(東京)	5	相模湾	小栗一将 海洋研究開発機構	堆積物－水境界における酸素・pH分布測定と、生物殻を用いた環境情報の再構築	9
KT-06-14	7.4(東京)～7.12(東京)	9	小笠原明神礁海域	玉木賢策 東京大学大学院工学系研究科	明神礁周辺海底カルアラ密集域の熱水噴出活動集中探査研究	10
KT-06-15	7.15(東京)～7.25(東京)	11	東北沖日本海溝周辺海域	藤本博己 東北大学大学院理学系研究科	海底測地・地震観測による日本海溝周辺における海陸プレート間相互作用と海洋プレート内変形に関する研究	7
KT-06-16	7.28(東京)～8.4(東京)	8	相模湾	石丸隆 東京海洋大学海洋科学部	海洋の流動環境下における浮遊生態系の機能委の把握に関する研究	12
KT-06-17	8.7(東京)～8.10(東京)	4	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	基礎生産計測用自動昇降式プイシステムの高度化	12
KT-06-18	8.14(東京)～8.18(清水)	5	相模湾、駿河湾、南海トラフ	小畑元 東京大学海洋研究所	相模湾・駿河湾における微量元素と放射性核種の地球化学的挙動に関する研究(GEOTRACES)	11
KT-06-19	8.21(清水)～8.30(高知)	10	南海トラフ（熊野灘）	森田澄人 産業技術総合研究所	3次元反射法地震探査による熊野トラフ泥火山の活動履歴研究	9
KT-06-20	9.1(高知)～9.6(宮崎)	6	四国沖黒潮流軸付近	中村恭之 東京大学海洋研究所	反射法地震探査による黒潮域の海洋中微細構造の時空間変動に関する研究	11
KT-06-21	9.9(宮崎)～9.17(鹿児島)	9	東シナ海およびフィリピン海	古谷研 東京大学大学院農学生命科学研究科	亜熱帯海域における浮遊性窒素固定生物の生理生態学的研究	11
KT-06-22	9.18(鹿児島)～9.25(鹿児島)	8	四国南方	市川香 九州大学応用力学研究所	足摺沖黒潮共同観測（ASUKA）測線の空間代表性の観測	9
KT-06-23	9.28(鹿児島)～10.3(長崎)	6	鹿児島西南海域と大隅海峡	窪川かおる 東京大学海洋研究所	鹿児島西南海域における鯨骨生物群集の研究とウミアメンボ類の分布および生理学的研究	11
KT-06-24	10.6(長崎)～10.9(秋)	4	対馬海峡	李雅利 水産大学校	対馬海峡から日本海へ流入する物質フラックス観測	12
KT-06-25	10.11(秋)～10.20(新潟)	10	日本海中部～南部海域	北里洋 海洋研究開発機構	日本海中南部における有孔虫類の分子系統学的研究および西南日本背弧の電気伝導度構造に関する研究	9
KT-06-26	10.23(新潟)～10.28(八戸)	6	佐渡南西沖	山崎哲生 産業技術総合研究所	海水柱メタンブルームの系統的観測・挙動解析によるメタンフラックスの推定	10
KT-06-27	10.30(八戸)～11.8(東京)	10	東北沖・日本海溝周辺域	藤本博己 東北大学大学院理学研究科	三陸沖漁場の曳航プイによる海底精密調査	8
KT-06-28	11.11(東京)～11.19(東京) (11.15～16清水)	9	相模湾・駿河湾・黒潮周辺域	田上英一郎 名古屋大学大学院環境学研究科	沿岸および外洋域での各態有機物の化学的性質およびその動態の比較に関する研究	12
KT-06-29	11.21(東京)～11.27(東京)	7	伊豆・小笠原海域	石井輝秋 東京大学海洋研究所	海洋底と海底構成岩石の地質学的研究(IODP)	12
KT-06-30	11.30(東京)～12.4(東京)	5	相模湾	小栗一将 海洋研究開発機構	堆積物－水境界における酸素・pH分布測定と、生物殻を用いた環境情報の再構築	7
KT-06-31	12.6(東京)～12.10(東京)	5	東京湾・相模湾・黒潮海域	木暮一啓 東京大学海洋研究所	海洋細菌による微小懸濁粒子の捕獲過程および物質代謝に関する研究	12
KT-07-1	2007.2.21(高知)～2.25(鹿児島)	5	室戸海盆、土佐海盆、日向海盆、屋久島・種子島周辺海域	大路樹生 東京大学大学院理学系研究科	深海性底生生物の進化古生物学的研究	11

航海番号	航海日程（出港～入港〔寄港〕）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
KT-07-2	2.27(鹿児島)～3.5(鹿児島)	7	東シナ海	市川香 九州大学応用力学研究所	東シナ海における衛星海面高度計軌道直下の密度・流速構造の計測、及びトカラ列島海底カルデラの検証	11
KT-07-3	3.8(鹿児島)～3.18(鹿児島) (3.13～3.14鹿児島)	11	東シナ海、トカラ列島 周辺海域、橘湾、鹿児島湾	清川昌一 九州大学大学院理学研究院	五島海底谷と北部沖縄トラフのテクトニクス・鹿児島湾若尊海底火口および橘湾の熱水循環系の解明・自律型海中ロボットによる熱水性生物群分布の観測研究-その2	21
KT-07-4	3.20(鹿児島)～3.26(東京)	7	東シナ海、西日本南岸域	小松輝久 東京大学海洋研究所	流れ藻の分布・移動とその生態	12
●2007年度						
KT-07-5	2007.4.2(東京)～4.7(東京)	6	遠州灘、熊野灘、相模湾	戸田龍樹 創価大学工学部 (代理 大村亜希子)	タービダイトの堆積が深海底環境に与える影響に関する研究と海洋表層の低次生物群集の生産生態と物質循環に関する研究	21
KT-07-6	4.10(東京)～4.13(小名浜)	4	相模湾、房総・常磐沖	伊藤幸彦 東京大学海洋研究所	黒潮統流・再循環域における水塊構造と生物生産・輸送過程に関する研究	12
KT-07-7	4.16(小名浜)～4.30(塩釜) (4.21～4.23釧路)	15	三陸沖	植松光夫 東京大学海洋研究所	春季ブルーム時の大気・海洋間の物質循環の変遷 (SOLAS/BLOCS I & II航海)	13
KT-07-8	5.2(塩釜)～5.5(小名浜)	4	黒潮フロント域および 統流域	西川淳 東京大学海洋研究所	黒潮統流域におけるメソ動物プランクトン、特にサルバ類の糞生産と微生物分解過程に関する研究	9
KT-07-9	5.8(小名浜)～5.15(東京)	8	房総沖、黒潮統流前線 域	安田一郎 東京大学海洋研究所	黒潮統流付近における北太平洋中層水の形成変質過程と生物生産への影響	12
KT-07-10	5.17(東京)～5.20(清水)	4	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環 研究センター	相模湾における基礎生産モニタリング：通年運用試験	12
KT-07-11	5.23(清水)～5.29(高知)	7	南海トラフ海域（東海 沖～紀伊半島）	山野誠 東京大学地震研究所	南海トラフに沈み込む海洋プレートの温度構造と黒潮変動の研究 (IODP)	11
KT-07-12	5.31(高知)～6.7(長崎)	8	奄美大島東方海域	北川貴士 東京大学海洋研究所	マグロ類・ハゼ類卵仔魚の産卵・輸送環境に関する研究	12
KT-07-13	6.10(長崎)～6.17(下関) (6.13萩)	8	日本海南海域	大志万直人 京都大学防災研究所 附属地震予知研究センター	西南日本背弧の電気伝導度構造および対馬暖流域における海丘生態系に関する研究	15
KT-07-14	6.19(下関)～6.26(清水)	8	日向海盆、四国海盆、 熊野灘、駿河湾	土屋正史 海洋研究開発機構	北西太平洋における底生有孔虫類の分子系統学的研究：汎世界的に分布する同一形態集団は遺伝的に同一か？	7
KT-07-15	6.28(清水)～7.3(東京)	6	相模湾、伊豆周辺海域	小川浩史 東京大学海洋研究所	相模湾・伊豆周辺海域における各態有機物の分布、化学組成及び分解特性に関する研究	12
KT-07-16	7.9(東京)～7.17(東京) (7.12下田)	9	東京湾・相模湾・黒潮 海域	木暮一啓 東京大学海洋研究所	古細菌を中心とした海洋微生物群集の統合的解析	15
KT-07-17	7.19(東京)～7.27(東京) (7.22～7.23久里浜)	9	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環 研究センター	相模湾の酸素代謝に関する物理・生態系モデルにおける生化学的パラメータの計測と検証および相模湾における基礎生産モニタリング：通年運用試験	14
KT-07-18	7.30(東京)～8.2(東京)	4	相模湾	西川淳 東京大学海洋研究所	高解像度ビデオシステム (VPR) を用いた相模湾におけるマリンスノーの分布と動態に関する研究	12
KT-07-19	8.4(東京)～8.13(鹿児島) (8.10～8.11高知)	10	房総半島沖から東シナ 海に至る黒潮上とその 周辺海域	原田哲夫 高知大学研究部人文社 会科学系	黒潮上におけるウミアメンボ類の生態学的研究と行動の比較生理学的研究及び四国沖黒潮域の古海洋学的プロクシーに関する総合調査研究	12
KT-07-20	8.16(鹿児島)～8.26(鹿児島)	11	鹿児島湾奥たぎり海域 から湾口まで	浦環 東京大学生産技術研究所	自律型海中ロボットによるタガリノサツマハオリムシ群集の分布調査手法の研究	14
KT-07-21	8.29(鹿児島)～9.3(鹿児島)	6	南西諸島横当島・宝島 周辺海域	横瀬久芳 熊本大学大学院自然科学 研究科	横当島カルデラおよび宝島カルデラの検証	8
KT-07-22	9.5(鹿児島)～9.13(鹿児島)	9	フィリピン海、東シナ 海	古谷研 東京大学大学院農学生命 科学研究科	貧栄養海域における栄養塩環境変動と低次生物生産動態に関する研究	10
KT-07-23	9.16(鹿児島)～9.22(長崎)	7	東シナ海北部（済州島 南海域）	松野健 九州大学応用力学研究所	東シナ海長江希釈水域の基礎生産を支える栄養塩の起源について	12
KT-07-24	9.25(長崎)～10.4(富山)	10	日本海	蒲生俊敬 東京大学海洋研究所	日本海の化学環境と海水循環に関する総合観測研究 (Asian GEOTRACES, CREAMS/PICES)	12
KT-07-25	10.7(富山)～10.10(下関)	4	隠岐諸島及び能登半島 地震震源域周辺	大志万直人 京都大学防災研究所 附属地震予知研究センター	西南日本背弧の電気伝導度構造	8
KT-07-26	10.12(下関)～10.18(清水)	7	四国南方	市川香 九州大学応用力学研究所	膠州海山と土佐岩周辺の精細な海面力学高度の面的な把握	8
KT-07-27	10.21(清水)～10.24(東京)	5	相模湾、東京湾、駿河湾、 太平洋黒潮域	小畑元 東京大学海洋研究所	相模湾・東京湾・駿河湾における微量元素の地球化学的研究 (GEOTRACES)	12
KT-07-28	10.27(東京)～11.2(大槌)	7	房総沖、福島沖、三陸 沖	大竹二雄 東京大学海洋研究所	三陸沖における海洋生物の行動生態と環境汚染に関する研究	12
KT-07-29	11.5(大槌)～11.10(東京)	7	北海道・三陸沖太平洋	小島茂明 東京大学海洋研究所	北海道・三陸沖太平洋における深海底生生物の系統地理学的研究	11
KT-07-30	11.13(東京)～11.21(東京) (11.16～11.17久里浜)	9	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環 研究センター	相模湾における基礎生産モニタリング：通年運用試験および海洋の流動環境下における浮遊生態系の機能の把握に関する研究	14

航海番号	航海日程（出港～入港〔寄港〕）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
KT-07-31	11.24(東京)～11.30(東京)	7	相模湾、伊豆半島、小笠原諸島周辺海域	倉持利明 国立科学博物館	古伊豆・小笠原島の生物相的要素（フォッサマグナ要素）に着目した相模湾産底生無脊椎動物の起源探索に関する研究	12
訓練	2008.2.15(大阪)～2.18(横浜)	4	潮岬沖、駿河湾	稲垣正 東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術的手法の確立	8
KT-08-1	2.20(横浜)～2.22(清水)	3	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	相模湾における基礎生産モニタリング：通年運用試験	11
KT-08-2	2.25(清水)～2.29(清水)	5	駿河湾	加藤憲二 静岡大学理学部	駿河湾表層から深層における浮遊性古細菌の分布と生態に関する研究	9
KT-08-3	3.3(清水)～3.10(長崎)	8	九州西岸沖、対馬海峡	大路樹生 東京大学大学院理学系研究科	深海性底生生物の進化古生物学的研究および対馬海峡から日本海へ流入する物質フラックス観測	12
KT-08-4	3.13(長崎)～3.19(鹿児島)	7	南西諸島海域（予備海域；鹿児島湾）	佐野有司 東京大学海洋研究所	我が国南西法海域における海底熱水活動と物質循環の研究	9
●2008年度						
KT-08-5	2008.4.2(東京)～4.9(東京) (4.6伊東)	8	相模湾	才野敏郎 海洋研究開発機構	人工衛星による海洋基礎生産モニタリングシステムの相模湾における実運用と利用 および 相模湾沿岸域における低次生物群集の生産生態と有機物の分解過程に関する研究	8
KT-08-6	4.12(東京)～4.20(東京)	9	伊豆大島近海、相模湾	石塚治 産業技術総合研究所	相模湾深海性底生有孔虫の代謝活性測定および伊豆小笠原大島火山におけるマグマ長距離移動を伴うマグマ供給システム、噴火プロセスの解明	12
KT-08-7	4.23(東京)～5.7(東京)	15	房総沖黒潮流域	安田一郎 東京大学海洋研究所	黒潮主流前線における水塊・栄養塩構造と生物生産・浮遊類魚種交代についての観測研究	12
KT-08-8	5.10(東京)～5.16(鹿児島) (5.12鳥羽)	7	本州南方黒潮域	古谷研 東京大学大学院農学生命科学研究科	黒潮域における窒素固定生物の分布生態	11
KT-08-9	5.18(鹿児島)～5.21(鹿児島)	4	鹿児島湾	山中寿朗 岡山大学大学院自然科学研究科	鹿児島湾若尊海底火山熱水系の化学フラックスと微量元素の分布に関する研究	12
KT-08-10	5.24(鹿児島)～5.29(長崎)	6	東シナ海北部男女海盆	多田隆治 東京大学大学院理学系研究科	東シナ海北部IODP掘削予定地点における音響反射面の年代推定と堆積史、構造発達史の検討	10
KT-08-11	5.31(長崎)～6.5(小倉)	6	対馬海峡	李雅利 水産大学校	対馬海峡から日本海へ流入する物質フラックス観測	12
KT-08-12	6.8(小倉)～6.12(小倉)	5	隠岐諸島周辺	大志万直人 京都大学防災研究所 附属地震予知研究センター	西南日本背狐の電気伝導度構造	6
KT-08-13	6.14(小倉)～6.21(東京)	8	太平洋黒潮流域、相模湾、東京湾	木暮一啓 東京大学海洋研究所	海洋細菌群集の逆システムの機能解析及び黒潮域におけるウミアメンボ類（ <i>Halobates</i> 属）の生態学的及び比較生理学的研究	12
KT-08-14	6.24(東京)～7.4(東京) (6.29～6.30清水)	11	相模湾、伊豆黒潮周辺海域	小川浩史 東京大学海洋研究所	相模湾・伊豆黒潮周辺海域における有機物動態に関する研究	13
KT-08-15	7.6(東京)～7.10(東京)	5	相模湾	才野敏郎 海洋研究開発機構	人工衛星による海洋基礎生産モニタリングシステムの相模湾における実運用と利用	12
KT-08-16	7.13(東京)～7.17(東京)	5	相模湾	浜崎恒二 東京大学海洋研究所	相模湾長期観測地点における微生物群集の動態解析	11
KT-08-17	7.19.24(東京)	6	西部北太平洋・三陸沖	佐野有司 東京大学海洋研究所 (代理 藤尾伸三)	西部北太平洋深層における物質輸送と拡散の研究	9
KT-08-18	7.29(晴海)～8.6(鹿児島)	9	南海トラフ（遠州灘、熊野トラフ、紀伊沖、室戸岬）	岩崎望 高知大学総合研究センター	遠州沖活断層群の分布と構造、南海トラフの地殻熱流異常、および高知沖宝石サンゴ類の分布と生産量に関する研究	10
KT-08-19	8.8(鹿児島)～8.18(小倉)	11	東シナ海北部（済州島南西海域）	松野健 九州大学応用力学研究所	夏季における東シナ海長江希釈水域の基礎生産を支える栄養塩の起源について	12
KT-08-20	8.21(小倉)～8.27(小倉)	7	隠岐諸島周辺	大志万直人 京都大学防災研究所 附属地震予知研究センター	西南日本背狐の電気伝導度構造	8
KT-08-21	8.29(小倉)～9.2(鹿児島)	5	黒潮域および周辺外洋域	西川淳 東京大学海洋研究所	本州南方黒潮域におけるメソ動物プランクトン、特にサルパ類の糞流生産と微生物分解過程に関する研究	12
KT-08-22	9.4(鹿児島)～9.12(鹿児島) (9.7～9.9鹿児島)	9	鹿児島湾	浦環 東京大学生産技術研究所	自律型海中ロボット「Tuna-Sand」によるタギリのサツマハオリムシ群集周辺と山中チムニー周辺のTerrain-Navigationによる全自動潜航観測との広域海底調査手法の研究	13
KT-08-23	9.14(鹿児島)～9.19(清水)	6	土佐湾周辺海域	深見公雄 高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科	土佐湾の黒潮周辺海域における海洋構造および生物再生産過程に関する研究	12
KT-08-24	9.22(清水)～9.28(東京) (9.25～9.26久里浜)	7	相模湾	才野敏郎 海洋研究開発機構	人工衛星による海洋基礎生産モニタリングシステムの相模湾における実運用と利用	11
KT-08-25	10.1(東京)～10.8(塩釜)	8	日本海溝海域（三陸沖）	山野誠 東京大学地震研究所	日本海溝に沈み込む太平洋プレートの温度構造と間隙水流動に関する研究	7
KT-08-26	10.10(塩釜)～10.16(塩釜)	7	東北沖日本海溝周辺海域	藤本博己 東北大学大学院理学系研究科	測地および地震観測による東北沖沈み込み帯の海底地殻変動総合観測	5
KT-08-27	10.19(塩釜)～10.26(八戸)	8	本州東北地方沖太平洋	窪寺恒己 国立科学博物館	東北日本沖合太平洋における深海動物相の解明と海洋汚染の調査研究	11
KT-08-28	10.28(八戸)～11.3(東京)	7	大槌湾沖・塩屋崎（福島県）沖	町田龍二 東京大学海洋研究所	遺伝情報にもとづく生物多様性の計画の試みおよび陸棚・海溝斜面上部の堆積相構造とその後氷期温暖化に対する応答の研究	11

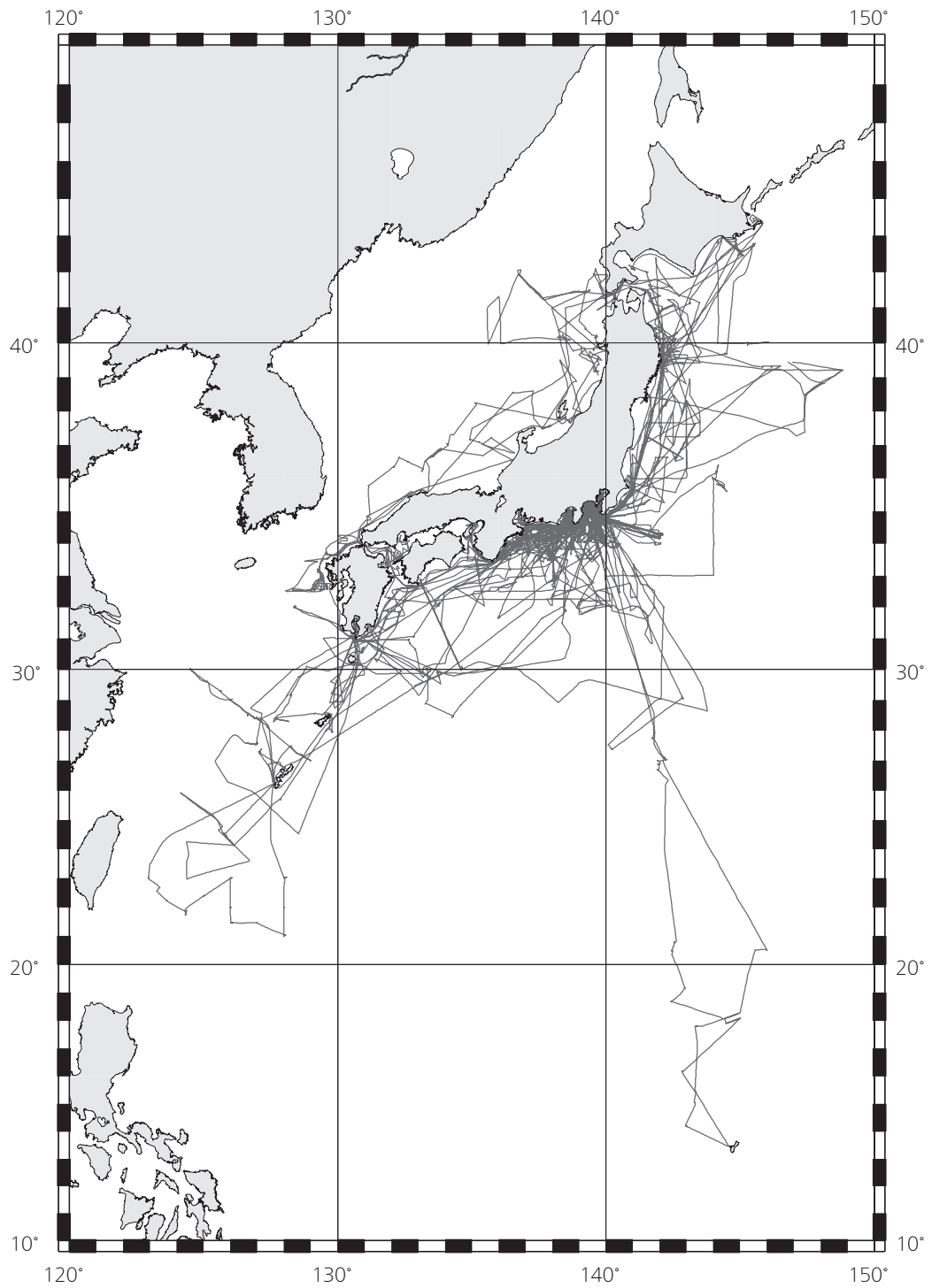
航海番号	航海日程（出港～入港〔寄港〕）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
KT-08-29	11.6(東京)～11.10(東京)	5	相模湾	才野敏郎 海洋研究開発機構	人工衛星による海洋基礎生産モニタリングシステムの相模湾における実運用と利用	11
KT-08-30	11.13(東京)～11.17(鹿児島)	5	遠州灘・熊野灘	白井正明 東京大学海洋研究所	陸域から海域へ流入した洪水流が陸棚域～深海域に与える影響の解明	12
KT-08-31	11.20(鹿児島)～12.2(那覇) (11.24～11.25志布志)	13	東シナ海、西部北太平洋	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	ウナギの産卵回避生態に関する研究	11
KT-08-32	12.7(那覇)～12.12(那覇)	8	南西諸島	市川香 九州大学応用力学研究所	黒潮上流域で相互作用する黒潮と中規模渦の観測的研究	10
KT-08-33	12.15(那覇)～12.19(那覇)	5	沖縄トラフ・沖縄本島周辺海域	大路樹生 東京大学大学院理学系研究科	深海性底生生物の進化古生物学的研究	12
KT-08-34	12.21(那覇)～12.25(鹿児島)	5	東シナ海	小松輝久 東京大学海洋研究所	東シナ海における流れ藻の分布と生態	11
KT-09-1	2009.3.8(別府)～3.10(高知)	3	別府湾	武岡英隆 愛媛大学沿岸環境科学研究センター	堆積魚鱗を用いたカタクティワシ及びマイワシ資源の長期変動に関する研究	10
KT-09-2	3.13(高知)～3.23(東京)	11	伊豆・小笠原海域	松本亜沙子 東京大学海洋研究所	日本海溝及びその周辺での超深海～大深海底生生物相の分布・多様性調査（HADEEP）および相模湾底生無脊椎動物の起源探索	11
● 2009年度						
KT-09-3	2009.4.2(東京)～4.18(東京) (4.10～4.12東京)	17	遠州灘・伊豆諸島域、房総半島沖の黒潮域	小松幸生 東京大学大学院新領域創成科学研究科	遠州灘から伊豆諸島黒潮域におけるイワシ類初期生産にかかわる水塊・生態系維持機構の観測研究	11
KT-09-4	4.21(東京)～4.27(東京)	7	相模湾、伊豆諸島近海、黒潮統流域	永田俊 東京大学海洋研究所	海洋生態系における物質循環と種多様性の機構論的解明	12
KT-09-5	4.30(東京)～5.7(塩釜)	8	三陸沖海域	植松光夫 東京大学海洋研究所	海洋生物活動による微量気体成分の大気海洋間フラックス変動の直接測定と諸過程に関する研究（SOLAS/W-PASS-09航海）	11
KT-09-6	5.10(塩釜)～5.18(塩釜)	9	三陸沖	日野亮太 東北大学大学院理学研究科	海底測地観測と海底地震観測による日本海溝の非地震性すべりの揺らぎの解明	8
KT-09-7	5.20(塩釜)～5.28(八戸)	9	西部北太平洋	佐野有司 東京大学海洋研究所	西部北太平洋深層における物質輸送と拡散および千島海溝周辺のメイオファウナ群集構造の研究	9
KT-09-8	6.1(八戸)～6.9(塩釜)	9	日本海溝海域（三陸沖）、下北半島沖、噴火湾	山野誠 東京大学地震研究所	日本海溝に沈み込む太平洋プレートの温度構造と水の分布の研究および日本沿岸における魚類資源の100年スケール変動を駆動する機構、海洋条件に関する研究	11
KT-09-9	6.12(塩釜)～6.17(東京)	6	黒潮統流南方域	岡英太郎 東京大学海洋研究所	北太平洋亜熱帯モード水に係る物理・化学・生物過程の解明	12
KT-09-10	6.19(東京)～6.29(東京) (6.24～6.25清水)	11	相模湾、駿河湾、黒潮域	小川浩史 東京大学海洋研究所	相模湾・駿河湾・伊豆黒潮周辺海域における栄養塩類・有機物の動態と生物活動との相互作用および有機物の化学的性質に関する研究	14
KT-09-11	7.2(東京)～7.6(東京)	5	東京湾、相模湾、黒潮海域	木暮一啓 東京大学海洋研究所	表層微生物群集の光環境応答メカニズムの解析	11
KT-09-12	7.8(東京)～7.17(横浜)	10	八丈島南方海域	玉木賢策 東京大学大学院工学系研究科	伊豆・小笠原弧明神礁海域における熱水鉱床探査研究	12
KT-09-13	7.24(東京)～7.30(高知)	7	本州南方海域、東京湾	蒲生俊敬 東京大学海洋研究所	本州南方域、黒潮に関連する海洋の生物地球化学過程の探査（GEOTRACES）	12
KT-09-14	8.1(高知)～8.5(鹿児島)	5	瀬戸内海西部、豊後水道	川幡穂高 東京大学大学院新領域創成科学研究科	瀬戸内海西部における古海洋学的研究：温暖化した縄文時代の人間活動と周辺環境の復元	10
KT-09-15	8.8(鹿児島)～8.21(石垣) (8.14～8.15名瀬)	14	鹿児島県薩摩半島沖～石垣島沖に黒潮域	西田周平 東京大学海洋研究所	黒潮域の漂流生態系における食物網の構造と動態に関する研究	9
KT-09-16	8.24(石垣)～8.31(那覇)	8	沖縄トラフ	松田博貴 熊本大学大学院自然科学研究科	琉球列島における海洋環境と極浅海域・深海域生態系の関係に関する検討	12
KT-09-17	9.8(那覇)～9.13(鹿児島)	6	東シナ海、フィリピン海	古谷研 東京大学大学院農学生命科学研究科	貧栄養海域における生物生産「島効果」の再評価	11
KT-09-18	9.15(鹿児島)～9.21(鹿児島)	7	奄美大島東方沖合海流	小針統 鹿児島大学水産学部	沈降粒子の形成・変容過程に与える動物プランクトンの影響評価に関する研究	11
KT-09-19	9.23(鹿児島)～9.28(鹿児島)	6	鹿児島湾	巻俊宏 東京大学生産技術研究所	複数のAUVによる鹿児島湾たぎり噴気帯の広域環境マッピング手法の研究	12
KT-09-20	10.2(鹿児島)～10.13(東京) (10.7～10.8高知)	12	東シナ海及び黒潮流域	原田哲夫 高知大学教育研究部人文社会科学系	黒潮上におけるウミアメンボ類（Halobates 類）の分布・季節変動・繁殖戦略及び環境変動耐性についての研究及び東シナ海における流れ藻の分布に関する研究	17
KT-09-21	10.15(東京)～10.26(塩釜)	12	黒潮統流周辺海域	岩坂直人 東京海洋大学海洋工学部	黒潮統流域における大気海洋双方向作用の観測	12
KT-09-22	10.29(塩釜)～11.8(塩釜)	11	宮城沖	藤本博己 東北大学大学院理学研究科	海底測地観測と海底地震観測による日本海溝の非地震性すべりの揺らぎの解明	5
KT-09-23	11.11(塩釜)～11.17(東京)	7	三陸沿岸域、仙台湾	木村伸吾 東京大学海洋研究所	三陸沿岸域における海洋生物幼生の輸送拡散過程に関する研究	11
KT-09-24	11.20(東京)～11.24(東京)	5	相模湾	豊福高志 海洋研究開発機構	深海底生生物有孔虫殻の化学・同位体組成に記録される情報	10
KT-09-25	11.27(東京)～12.1(東京)	5	相模湾および沖合黒潮域	西田周平 東京大学海洋研究所	相模湾における漂流群集の種多様性と生態機能に関する研究（CoML-CMarZ航海）	11
KT-09-26	12.7(東京)～12.21(大阪)	15	利根川沖・伊勢湾沖	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	新型ポップアップタグによるウナギの産卵回避行動の解明	8

航海番号	航海日程（出港～入港【寄港】）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
訓練航海 KT-10-1	2010.2.10(大阪)～2.18(長崎)	9	南西諸島海域	今井圭理 東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	9
	2.22(長崎)～3.7(東京) (2.28～3.1那覇)	14	東シナ海 黒潮域	小松輝久 東京大学海洋研究所	東シナ海における流れ藻の分布と生態	12
KT-10-2	3.10(東京)～3.14(東京)	5	相模湾、沖合黒潮域	西田周平 東京大学海洋研究所	相模湾における漂流群集の種多様性と生態機能に関する研究 (CoML-CMarZ 航海)	8
KT-10-3	3.17(東京)～0.23(東京)	7	伊豆・小笠原弧明神礁 周辺海域	飯笹幸吉 東京大学大学院新領域 創成科学研究科	明神礁周辺の火山フロント：背弧リフト遷移 域における熱水噴出活動集中探査研究	8
●2010年度						
KT-10-4	2010.4.6(東京)～4.15(塩釜)	10	宮城沖	伊藤喜宏 東北大学大学院理学研 究科	海底測地・地震観測による日本海溝の非地震性 すべりの解明	5
KT-10-5	4.18(塩釜)～4.22(函館)	5	噴火湾、苫小牧沖、下 北半島沖	加三千宣 愛媛大学上級研究員セ ンター	噴火湾及び下北半島沖における古海洋学的研 究	8
KT-10-6	4.25(函館)～5.8(長崎) (5.1～5.2新潟)	14	津軽海峡～五島列島福 江島南沖	土屋正史 海洋研究開発機構	日本海における有孔虫類の遺伝的多様性の調 査および佐渡海盆周辺海域への物質供給増加 の影響調査	18
KT-10-7	5.11(長崎)～5.17(富山)	7	北部東シナ海、対馬海 峡、能登半島沖	木元克典 海洋研究開発機構	日本海南部における現生有殻動物プランク トンの鉛直空間分布と短期的海洋環境変動の 解明	10
KT-10-8	5.20(富山)～5.29(釧路)	10	日本海、オホーツク海、 北海道沖太平洋	小島茂明 東京大学大気海洋研究 所	日本海、オホーツク海、太平洋間の深海底生 物の遺伝的交流に関する系統地理学的研究	11
KT-10-9	6.1(釧路)～6.10(塩釜)	10	三陸沖	藤尾伸三 東京大学大気海洋研究 所	日本東方海域における深層流の時間変動と物 質輸送の研究	7
KT-10-10	6.13(塩釜)～6.21(東京)	9	関東南方海域（房総半 島沖、伊豆諸島東方、 相模湾）	山野誠 東京大学地震研究所	地殻熱流量測定による関東南方沈み込み境界 震源域の温度構造の研究	7
KT-10-11	6.24(東京)～6.28(東京)	5	相模湾、沖合黒潮域	西田周平 東京大学大気海洋研究 所	相模湾における中層漂流群集とマリンスノー の動態に関する研究 (CMarZ航海)	11
KT-10-12	7.1(東京)～7.5(東京)	5	東京湾、相模湾、伊豆 黒潮海域	木暮一啓 東京大学大気海洋研究 所	海洋表層微生物群集の光環境応答メカニズム の解析	10
KT-10-13	7.8(東京)～7.19(東京) (7.14～7.15新宮)	12	相模湾、駿河湾、伊豆 黒潮周辺海域	小川浩史 東京大学大気海洋研究 所	相模湾・伊豆黒潮周辺海域における生元素動態 に関する研究および海洋有機物の化学的性質 と動態に関する研究	12
KT-10-14	7.24(東京)～8.2(清水)	10	三陸海岸沖合海域	佐藤克文 東京大学大気海洋研究 所	三陸海岸沿岸域から沖合域にかけて回遊する ウミガメ類亜生体および稚の採餌生態	6
KT-10-15	8.5(清水)～8.10(清水)	6	駿河湾	田中潔 東京大学大気海洋研究所	駿河湾における海洋循環と海洋生物の分布に 関する研究	10
KT-10-16	8.13(清水)～8.18(鹿児島)	6	熊野灘～土佐湾	大路樹生 名古屋大学博物館	深海底生生物の進化古生物学的研究	12
KT-10-17	8.21(鹿児島)～8.24(鹿児島)	4	鹿児島湾内	佐野有司 東京大学大気海洋研究 所	浅海熱水系における海底堆積物を通じたヘリ ウム・フラックスの研究	8
KT-10-18	8.26(鹿児島)～8.30(鹿児島)	5	鬼界カルデラ周辺域	清川昌一 九州大学大学院理学研 究科	鬼界カルデラのカルデラ底における熱水活動 と海底堆積作用の解明	11
KT-10-19	9.3(鹿児島)～9.14(鹿児島) (9.8平良)	12	東シナ海・フィリピン 海	古谷研 東京大学大学院農学生命 科学研究科	貧栄養海域の生物生産における「島効果」の評 価	12
KT-10-20	9.16(鹿児島)～9.22(鹿児島) (9.19鹿児島)	7	鹿児島湾	巻俊宏 東京大学生産技術研究所	複数のAUVによる鹿児島湾若草カルデラの時 空間的な環境マッピング手法の研究	12
KT-10-21	9.25(鹿児島)～10.3(長崎)	9	東シナ海、西部北太平 洋	津田敦 東京大学大気海洋研究所	北太平洋縁辺海から外洋における生態系の気 候変化に対する応答	11
KT-10-22	10.6(長崎)～10.12(那覇)	7	東シナ海、黒潮域	小松輝久 東京大学大気海洋研究 所	東シナ海における夏季と冬季の流れ藻の分布 に関する研究 外洋性ウミアメンボ属3種の分布と棲み分けに 関する研究	8
KT-10-23	10.15(那覇)～10.21(那覇)	7	南西諸島海域	嶋永元裕 熊本大学沿岸域環境科 学教育研究センター	琉球海溝周辺に生息する小型底生生物群集構 造と海底堆積物組成の空間変異に関する研究 ／堆積層に覆われた海底熱水系における熱水 ブルームの化学組成と微生物群集の関わり関 する研究	12
KT-10-24	10.23(那覇)～10.28(那覇)	6	南西諸島海域	山本啓之 海洋研究開発機構	熱水活動域における微生物ループと動物プラ ンクトン捕食連鎖の構造解析	12
KT-10-25	10.31(那覇)～11.7(東京)	8	九州パラオ海嶺北部～ 西七島海嶺北部（日本 南方海域）	日井明 高知大学理学部	マンガンクラストの観察・採取および化学汚染 部室の調査	10
KT-10-26	11.10(東京)～11.19(塩釜)	10	三陸・宮城泉沖	日野亮太 東北大学大学院理学研 究科	海底測地・地震観測による日本海溝の非地震性 すべりの解明	6
KT-10-27	11.20(塩釜)～12.1(富山)	10	日本海東部	松野健 九州大学応用力学研究所	日本海中深層における鉛直拡散係数の計測と 水平循環の推定	10
KT-10-28	12.4(富山)～12.8(八戸)	5	日本海	加藤真 京都大学大学院地球環境 学舎	深海底ベントスの共生者・寄生者群集の解明	6
KT-10-29	12.11(八戸)～12.22(大阪)	12	房総沖・伊勢湾沖	塚本勝巳 東京大学大気海洋研究 所	新規開発のポップアップタグによるウナギ産 卵回遊行動の解明	9
訓練航海	2011.1.29(大阪)～2.2(横須賀)	5	伊豆小笠原海溝、相模 湾	前田和宏 海洋研究開発機構	海洋観測に関する技術手法の確立	12

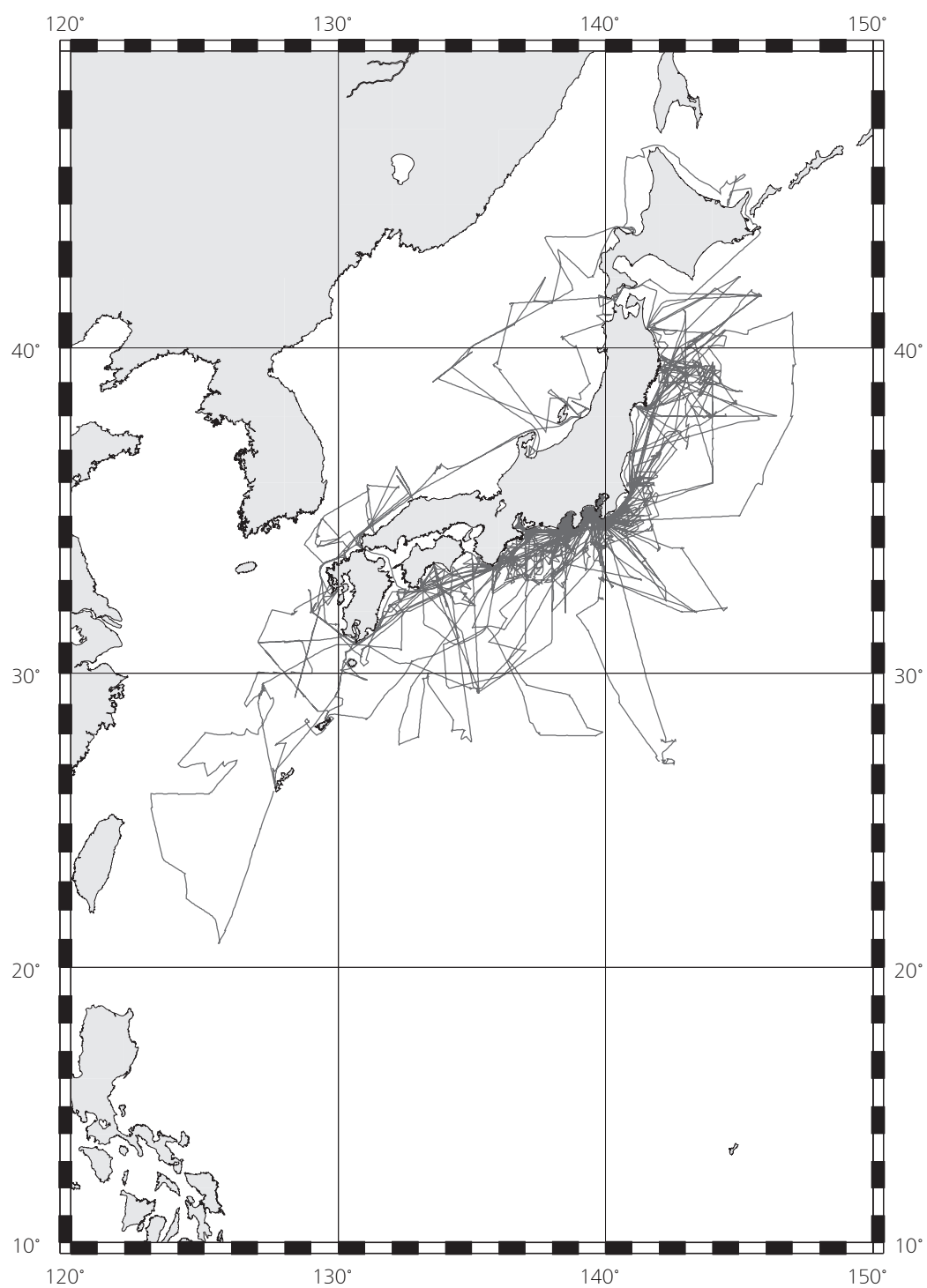
航海番号	航海日程（出港～入港〔寄港〕）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属（主席代理者）	研究主題	研究者数
訓練航海	2.3(横須賀)～2.15(長崎) (2.5～2.7東京, 2.9清水, 2.11～2.12東京)	13	伊豆小笠原海溝、相模湾、駿河湾、遠州灘	前田和宏・長谷川繁行・川淵桃子 海洋研究開発機構	外部委託に継ぎに伴う、運行業務に継ぎの確立	11
KT-11-1	2.18(長崎)～2.24(鹿児島)	7	東シナ海	小松輝久 東京大学大気海洋研究所	東シナ海における夏季と冬季の流れ藻の分布	12
KT-11-2	2.26(鹿児島)～3.2(鹿児島)	5	鹿児島湾	巻俊宏 東京大学生産技術研究所	複数のAUVによる鹿児島湾若草カルデラの時空間的な環境マッピング手法の研究	10
KT-11-3	3.8(東京)～3.12(東京)	5	相模湾、沖合黒潮域	西田周平 東京大学大気海洋研究所	相模湾における中層漂流群集とマリンスノーの動態に案する研究	9
KT-11-4	中止					
●2011年度						
KT-11-5	2011.4.13(東京)～4.24(東京) (4.19～4.29東京)	12	遠州灘、伊豆諸島域、房総半島沖の黒潮域	小松幸生 東京大学大学院新領域創成科学研究科	春季の黒潮下流域におけるNutrient Streamの生態系への効果とイワシ類仔魚の初期減耗過程の解明	11
KT-11-6	4.26(東京)～5.4(函館)	9	東日本沖太平洋	藤本博己 東北大学大学院理学系研究科	海底測地・地震観測による日本海溝の非地震性すべりの解明（震災対応）	9
KT-11-7	5.7(函館)～5.13(函館)	7	北海道東南海域	鈴木光次 北海道大学大学院地球環境科学研究科	春季親潮珪藻ブルーム期の基礎生産特性と生物地球化学過程の動態に関する研究	12
KT-11-8	5.17(函館)～5.24(小樽)	8	オホーツク海(網走湾)、北海道沖日本海	小島茂明 東京大学大気海洋研究所	系統地理と耳石解析によるオホーツク海日本海間における深海底魚類の分散と隔離、すみ分け過程の解明	12
KT-11-9	5.27(小樽)～6.4(境)	9	日本海中部	長谷川和範 国立科学博物館	日本海における深海性動物相の解明と汚染物質の調査	12
KT-11-10	6.7(境)～6.10(長崎)	4	日本海山陰沖	辻本彰 島根大学教育学部	日本海南部対馬暖流域における最近のメイオベントス群集の変化と海水温上昇との関係	12
KT-11-11	6.12(長崎)～6.19(鹿児島)	8	薩摩硫黄島・竹島近海	清川昌一 九州大学理学研究科	鬼界カルデラの形成過程とカルデラ底における堆積作用の解明 浅海熱水系におけるヘリウム・フラックスと深海サンゴの研究	17
KT-11-12	6.22(鹿児島)～6.28(神戸)	7	九州・四国沖	嶋永元裕 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター	九州・四国沖における底生生物の生態学的・系統分類学的研究、および海底堆積物組成の解析	12
KT-11-13	6.30(神戸)～7.2(和歌山)	3	大阪湾	川嶋徳高 東京大学大気海洋研究所	瀬戸内海東部、大阪湾における古海洋学的研究：縄文時代、弥生時代、古墳時代の人間活動と周辺環境の復元	9
KT-11-14	7.4(和歌山)～7.8(新宮)	5	紀伊半島周辺、黒潮流域	猿渡敏郎 東京大学大気海洋研究所	黒潮を介した、小型底魚類の加入・着底機構に関する研究	11
KT-11-15	7.12(新宮)～7.18(清水)	7	南海トラフ周辺海域(紀伊半島沖)	山野誠 東京大学地震研究所	地殻熱流量測定による東南海・南海地震震源域境界付近の温度構造の研究	7
KT-11-16	台風のため中止	5				12
KT-11-17	7.29(東京)～8.5(八戸)	8	三陸沖沿岸海域、震源周辺海域	浜崎恒二 東京大学大気海洋研究所	巨大地震に伴う再堆積過程及び生態系の変化に関する研究（震災対応）	12
KT-11-18	8.6(八戸)～8.13(函館)	8	三陸から道東の沖合海域	渡邊良朗 東京大学大気海洋研究所	親潮系冷水域におけるカタクチイワシの初期生態研究	11
KT-11-19	8.15(函館)～8.20(八戸)	6	日本海東部	松野健 九州大学応用力学研究所	日本海中深層における鉛直拡散係数の計測と水平循環の推定	11
KT-11-20	8.21(八戸)～8.25(八戸)	5	三陸沖	豊福高志 海洋研究開発機構	古溶存酸素proxyの確立：有孔虫の生物多様性・群集組成・殻中のredox sensitiveな元素組成のアプローチ	12
KT-11-21	8.27(八戸)～9.4(八戸) (8.29大槌)	9	東北地方太平洋沖・沿岸	木戸元之 東北大学大学院理学研究科	三陸沖合における海底測地観測、沿岸潮流調査および海鳥の行動生態に関する研究（震災対応）	6
KT-11-22	9.5(八戸)～9.13(東京)	9	茨城県及び福島県東方大陸棚・大陸棚斜面上とその周辺海域	田中潔 東京大学大気海洋研究所	常磐沖沿岸及びその周辺海域における海洋循環と海洋環境に関する研究（震災対応）	9
KT-11-23	9.18(高知)～9.30(鹿児島) (9.24～9.25平良)	13	フィリピン海、東シナ海	佐藤光秀 東京大学大学院農学生命科学研究科	貧栄養海域の生物生産における「島効果」の評価	9
KT-11-24	10.2(鹿児島)～10.8(鹿児島) (10.5～10.6鹿児島)	7	鹿児島湾	巻俊宏 東京大学生産技術研究所	自律型海中ロボット群による鹿児島湾熱水チムニーおよびサツマハオリムシ群集のマルチセンサーマッピング	16
KT-11-25	10.10(鹿児島)～10.15(清水)	6	熊野灘、遠州灘、駿河湾を含む南海トラフ域	豊福貴志 海洋研究開発機構	Lysocline Ecosystem：石灰化と溶解との狭間の生態系	10
KT-11-26	10.16(清水)～10.24(東京)	9	伊豆、小笠原諸島、明神礁周辺海域	飯笹幸吉 東京大学大学院新領域創成科学研究科	伊豆・小笠原弧明神礁周辺海域の火山フロント：背弧リフト域における海底熱水鉱床の調査研究	10
KT-11-27	10.26(東京)～11.3(東京)	9	福島沖、三陸沖	植松光夫 東京大学大気海洋研究所	福島原子力発電所事故により大気・海洋環境へ放出された放射性物質の分布と生物地球化学的挙動の観測（震災対応）	11
KT-11-28	11.10(東京)～11.19(東京)	10	東北沖	藤本博己 東北大学大学院理学研究科	海底測地・地震観測による日本海溝の非地震性すべりの解明	7
KT-11-29	11.21(東京)～11.28(鹿児島)	8	伊豆小笠原諸島海域	山本啓之 海洋研究開発機構	熱水活動域における微生物ループと動物プランクトン捕食連鎖の構造解析	12

航海番号	航海日程（出港～入港【寄港】）	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(主席代理者)	研究主題	研究者数
KT-11-30	11.30(鹿児島)～12.8(那覇)	9	沖縄トラフ及び宮古島 周辺海域	新井晃作 産業技術総合研究所	沖縄島ー宮古島に沈みゆく島嶼に関する地質 層序・構造運動に関する研究及び第四紀黒潮変 動の解明とIODPプロポーザルのサイト・サー ベイ	9
KT-11-31	12.10(那覇)～12.18(那覇)	9	南西諸島海域	塚本勝巳 東京大学大気海洋研究 所	沿岸域におけるウナギの産卵回遊生態と沿岸 回遊生態解明	10
KT-11-32	12.20(那覇)～12.26(鹿児島)	7	東シナ海	小松輝久 東京大学大気海洋研究 所	東シナ海の流れ藻の分布と移動	10
訓練航海	2012.1.19(大阪)～1.24(横須賀)	6	伊豆小笠原・相模湾	稲垣正 東京大学大気海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	5
KT-12-1	3.4(東京)～3.9(東京)	6	三陸沖から相模湾にか けての沿岸域	西田周平 東京大学大気海洋研究 所	沿岸生態系における放射性物質の分布と動態 に関する研究(震災対応)	12
KT-12-2	03.11(東京)～3.16(高知)	6	伊豆七島海域～日本南 方海域	臼井朗 高知大学理学部	鉄マンガン酸化物クラスト形成の時空変動と 海洋循環	7
KT-12-3	03.19(高知)～3.29(東京)	11	東シナ海及び九州、四 国、本州の南岸	小松輝久 東京大学大気海洋研究 所	東シナ海の流れ藻の分布と移動	12

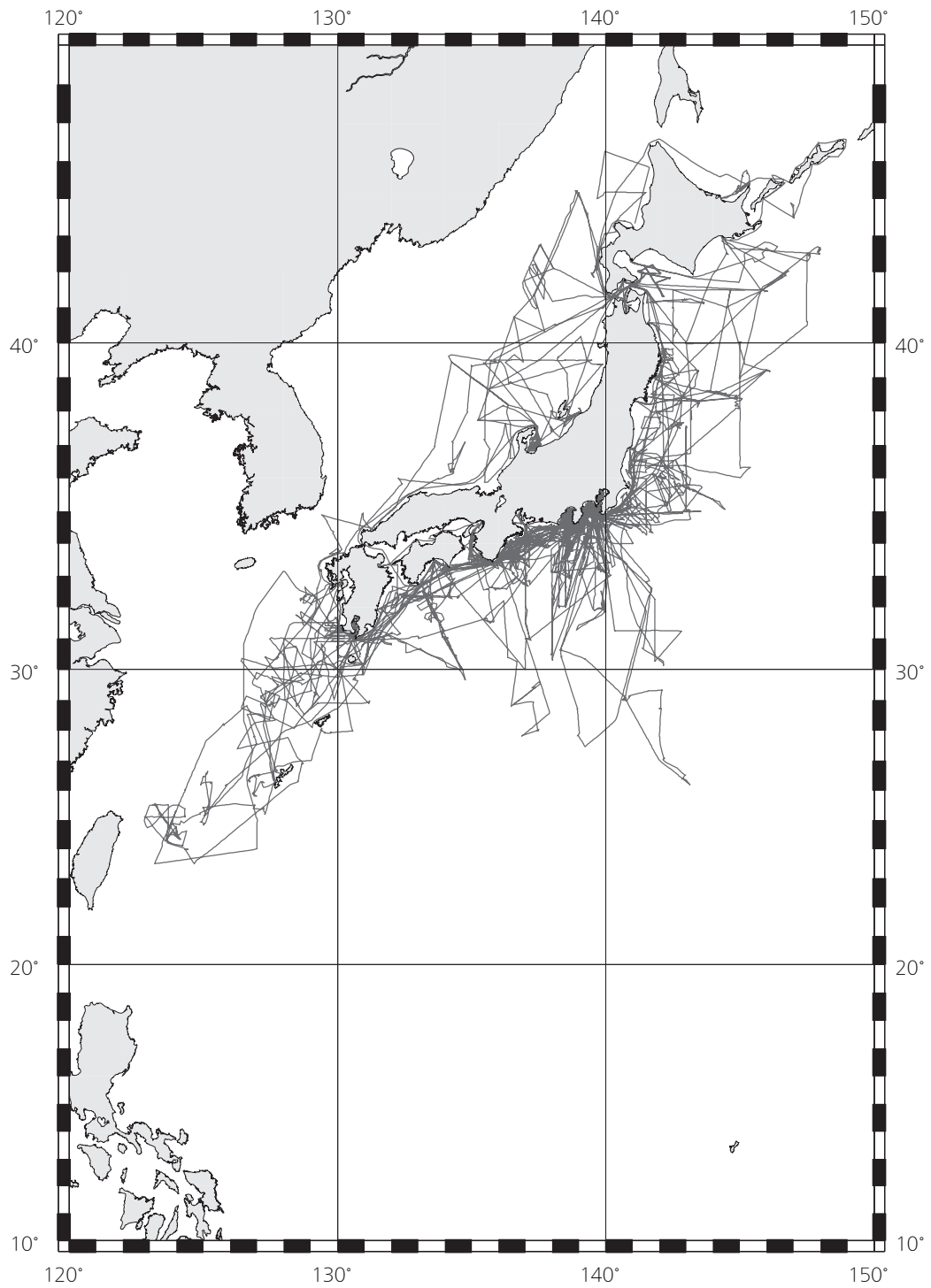
淡青丸航跡図 [1992～1996年度]



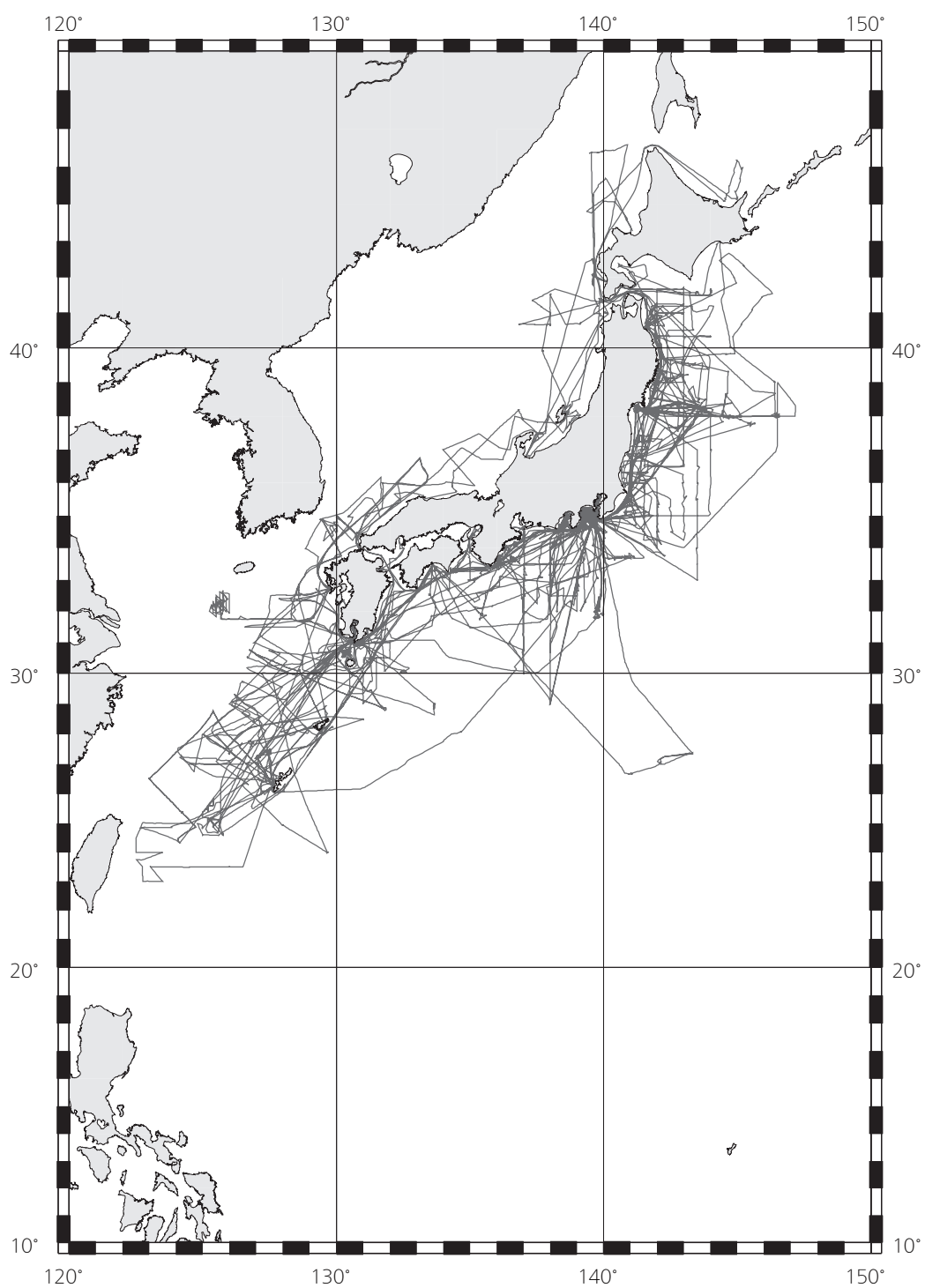
淡青丸航跡図 [1997～2001年度]



淡青丸航跡図 [2002～2006年度]



淡青丸航跡図 [2007～2011年度]



資料2-2-1-2 白鳳丸航海

航海番号	航海日程	日数	研究海域	寄港地・寄港期間	主席研究員	所 属	研 究 主 題	研究者数
● 1992年度								
KH-92-2	1992.5.20～6.26	38	伊豆小笠原孤島弧海溝系	横須賀 6.3～6.9	平 朝彦	東京大学海洋研究所	伊豆・小笠原弧海溝系の地殻構造の研究	31
KH-92-3	7.17～8.10	25	南海トラフ東部及び千島海溝西端部（納沙布岬沖）	釧路 7.25～7.29	小林 和男	東京大学海洋研究所	海溝・トラフの海底微細構造の研究（KAIKO-TOKAI計画ODP）	32
KH-92-4	9.16～10.27	42	西太平洋	オークランド 10.8～10.13 ケアンズ 10.26	野崎 義行	東京大学海洋研究所	西太平洋におけるオーシャンフラックスに関わる地球化学的過程の研究	37
KH-92-5	10.28～12.7	41	西太平洋熱帯海域	ケアンズ 10.31 ラバウル 11.7～11.10	浅井 富雄	東京大学海洋研究所	西太平洋熱帯海域における大気・海洋相互作用に関する研究（TOGA/COARE, WESTPAC）	49
KH-93-1	1993.1.22～3.4	42	中部北太平洋	ホノルル 2.8～2.14	沼地 健一	東京大学海洋研究所	中部北太平洋域の海山の生物群集の研究（WESTPAC）	32
● 1993年度								
KH-93-2	1993.5.13～6.18	37	北太平洋亜熱帯・亜寒帯	函館 5.30～6.4	平 啓介	東京大学海洋研究所	北太平洋の亜熱帯・亜寒帯循環域におけるエネルギー、運動量と物質の輸送過程の研究（WOCE, WESTPAC）	38
KH-93-3	7.8～9.17	72	インド洋	シンガポール 7.17～7.21 ポートルイス 8.10～8.14 ベナン 9.2～9.6	玉木 賢策	東京大学海洋研究所	インド洋中央海嶺の総合地球科学的研究（InterRidge, ODP, WESTPAC）	47
KH-93-4	10.14～12.3	51	西部太平洋中・低緯度海域	ホノルル 11.2～11.9	小池 勲夫	東京大学海洋研究所	西部太平洋中・低緯度海域における生物活動と物質循環に関する研究	40
KH-94-1	1994.2.24～3.22	27	四国沖～房総沖の黒潮海域	横浜 3.8～3.12	青木 一郎	東京大学海洋研究所	多獲性魚類の再生産と加入機構に関する研究	33
● 1994年度								
KH-94-2	1994.5.17～7.7	52	本州東方及び南方海域	塩釜 5.27～5.31 横浜 6.11～6.16	杉本 隆成	東京大学海洋研究所	多獲性魚類及びウナギの再生産と加入機構に関する研究	54
KH-94-3	9.2～10.21	50	西部北太平洋とその隣接海域	横浜 9.23～10.2	平 啓介 野崎 義行	東京大学海洋研究所	海溝域を中心とした物質循環及び海水流動に関する研究（WESTPAC）	64
KH-94-4	11.22～95.2.14	85	南大洋太平洋区	リトルトン 12.9～12.13 ホバート 1.4～1.9 シドニー 1.28～2.1	川口 弘一	東京大学海洋研究所	南大洋の生物生産過程と物質循環過程の総合的研究（SO-GLOBEC, SO-JGOFS）	57
● 1995年度								
KH-95-1	1995.5.12～6.12	32	日本南方及び東方海域	鹿児島 5.21～5.26	平 啓介	東京大学海洋研究所	黒潮の流量・熱輸送と伊豆海嶺東方での流れと水塊の研究	32
KH-95-2	7.7～9.27	83	南西諸島・マリアナ・ミクロネシア・メラネシア海域	アブラ 7.26～7.30 スバ 8.18～8.24 アブラ 9.12～9.15	大和田紘一	東京大学海洋研究所	太平洋熱帯・亜熱帯海域における生物群集及びウナギの回遊生態に関する研究	61
KH-95-3	10.19～11.24	37	北西太平洋	函館 11.3～11.8	小池 勲夫	東京大学海洋研究所	北西太平洋における生元素の循環と生物活動に関する研究（WESTPAC）	49
KH-96-1	1996.2.23～3.21	28	南海トラフ	清水 3.8～3.14	瀬川 爾朗	東京大学海洋研究所	南海トラフ及び銭州海嶺における地球科学（物理、化学、生物）的研究（KAIKO-TOKAI, ODP）	49
● 1996年度								
KH-96-2	1996.5.21～7.1	42	本州東方・南方海域、南海トラフ	横浜 6.7～6.14 坂出 6.28～6.29	青木 一郎	東京大学海洋研究所	海洋生態系のダイナミックスの研究及び深海トラフの地球化学的研究	60
KH-96-3	8.2.～9.3	33	日本海溝、シャツキー海台、黒潮続流域、相模湾	釜石 8.18～8.23	瀬川 爾朗	東京大学海洋研究所	日本海溝、シャツキー海台を含む海域における地球科学的、海洋生物・水産資源学的研究（ODP）	56
KH-96-4	10.17～11.27	42	日本南方・東方海域	横浜 11.10～11.16	川辺 正樹	東京大学海洋研究所	黒潮の水塊と力学特性及び日本東方海域での深層流の研究（WESTPAC）	36
KH-96-5	12.19～97.2.18	62	東部インド洋・南大洋	フリーマントル 1.5～1.11 ベナン 2.3～2.7	蒲生 俊敬	東京大学海洋研究所	インド洋及びその近接海域におけるオーシャンフラックスに係わる地球化学過程の研究	43
● 1997年度								
KH-97-1	1997.5.16～6.18	34	黒潮続流、黒潮・親潮混合域、遠州灘、鹿島灘	塩釜 5.29～6.5	杉本 隆成	東京大学海洋研究所	小型浮魚類の加入量変動機構に関する研究（GLOBEC）	42
KH-97-2	7.9～9.8	62	北部北太平洋	コディアック 8.1～8.5 バンクーバー 8.16～8.22	川口 弘一 小池 勲夫	東京大学海洋研究所	北部北太平洋における生物群集・生産と物質循環に関する研究	40
KH-97-3	10.24～11.11	19	本州東方海域、三陸沖暖水塊		杉本 隆成	東京大学海洋研究所	黒潮親潮混合域の生物生産環境に関する研究（GLOBEC）	33
KH-98-1	1998.1.16～3.16	60	マリアナ海嶺・マリアナ海盆、オントンジャワ海台、北ソロモン海溝周辺海域	ケアンズ 2.3～2.9 ボンベイ 2.27～3.2	平 朝彦	東京大学海洋研究所	ソロモン・マリアナ海域における海洋地殻構造と物質循環に関する研究（ODP）	52

航海番号	航海日程	日数	研究海域	寄港地・寄港期間	主席研究員	所 属	研 究 主 題	研究者数
● 1998年度								
KH-98-2	1998.5.22~7.2	42	マリアナ諸島周辺海域	アブラ 6.2~6.8	塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	マリアナ諸島周辺海域におけるウナギの産卵・回遊と海洋微生物群集に関する研究	51
KH-98-3	7.15~8.14	31	西部北太平洋、オホーツク海・及び日本海	小樽 7.29~8.14	野崎 義行	東京大学海洋研究所	西部北太平洋・オホーツク海・日本海における海洋物質循環ダイナミクスに関する研究	42
KH-98-4	9.7~10.28	52	西部北太平洋（親潮水域、移行域及び黒潮水域）	塩釜 9.21~9.25 釜石 10.12~10.16	川口 弘一 杉本 隆成	東京大学海洋研究所	西部北太平洋における生態系の鉛直構造、生物生産及び物質輸送に関する研究（GLOBEC, JGOFS）	44
KH-99-1	1999.1.14~3.4	50	西部北太平洋熱帯・亜熱帯域	ボンベイ 1.27~1.30 アブラ 2.17~2.22	川辺 正樹	東京大学海洋研究所	北太平洋低緯度域における深層西岸境界流と表層・中層海洋循環の研究	33
● 1999年度								
KH-99-2	1999.5.18~6.10	24	黒潮統流域、黒潮・親潮混合域	塩釜 5.26~5.30	杉本 隆成	東京大学海洋研究所	黒潮親潮混合域の低次生産環境と生物資源変動機構に関する研究（GLOBEC）	39
KH-99-3	6.25~8.25	62	北部北太平洋・ベーリング海	コディアック 7.11~7.14 シアトル 7.22~7.29	小池 勲夫 徳山 英一	東京大学海洋研究所	北部北太平洋・ベーリング海における生元素循環と海洋地質学・地球物理学的研究（JGOFS, ODP）	52
KH-99-4	9.21~10.25	35	日本海	新潟 10.7~10.12	寺崎 誠	東京大学海洋研究所	日本海の生物生産に関する総合的研究（NEAR-GOOS）	48
KH-00-1	2000.1.14~3.10	57	西部北太平洋・南太平洋・スルー海	ブリスベン 2.1~2.6 セブ 2.29~3.4	大和田紘一	東京大学海洋研究所	西部太平洋における海洋生物群集の生態ならびに多様性に関する研究	46
● 2000年度								
KH-00-2	2000.5.19~6.6	19	黒潮統流及びシャツキーライズ周辺域		小松 輝久	東京大学海洋研究所	黒潮統流及びシャツキーライズ周辺域における生物分布とその生息環境	23
KH-00-3	6.20~7.27	38	ハワイ以西の北太平洋（主に中緯度海域）	ホノルル 7.5~7.11	野崎 義行	東京大学海洋研究所	北太平洋の物質循環ダイナミクスとオーシャンフラックスに関する研究	35
KH-00-4	9.5~10.19	45	伊豆諸島・伊豆海嶺東方・四国沖・東シナ海	那覇 9.23~9.29	平 啓介	東京大学海洋研究所	東シナ海の時局変動と本州東方の深層循環の観測研究	50
KH-00-5	11.21~1.2.8	80	インド洋	ベナン 11.30~12.4 アデン 12.21~12.25 チェンナイ 1.12~1.17	徳山 英一	東京大学海洋研究所	インド洋およびその近海海域における海底拡大活動と古環境に関する地球科学的研究	40
● 2001年度								
KH-01-1	2001.6.18~7.27	40	マリアナ諸島周辺海域	鹿児島 7.6~7.12	平 啓介 塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	マリアナ海溝の海水流動と人工湧昇およびウナギの産卵生態と生物多様性に関する研究（新プロ DOBIS 航海）	59
KH-01-2	8.20~10.5	47	熊野海盆・三陸沖・千島海溝・日本海	函館 9.7~9.14	徳山 英一 太田 秀	東京大学海洋研究所	日本海溝の地震発生帯、千島海溝周辺の深海底生生物および熊野海盆・日本海海底堆積物の運搬過程に関する研究	44
KH-01-3	11.27~2.3.1	95	南太平洋・南極海	ウエリントン 12.27~1.2 パート 1.22~1.27 シドニー 2.12~2.16	寺崎 誠	東京大学海洋研究所	中部南太平洋・南大洋の生物活動と生元素の循環に関する研究およびオーストラリア〜南極海嶺の地球物理学的研究	55
● 2002年度								
KH-02-1	2002.5.7~6.24	49	東シナ海・沖縄トラフ	那覇 5.22~5.25 那覇 6.5~6.10 那覇 6.21	杉本 隆成 渡邊 良朗	東京大学海洋研究所	東シナ海における流動と魚類の生態に関する研究および沖縄トラフ西端部における背弧リフトの地球科学的研究	77
KH-02-2	7.5~8.15	42	マリアナ諸島西方海域	コロール 7.26~8.1	塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	ウナギの産卵・回遊生態と海洋生物多様性に関する研究（新プロ DOBIS 航海）	41
KH-02-3	9.9~10.25	47	日本南方海域・東シナ海・日本海	鹿児島 9.22~9.26 博多 10.10~10.14	川辺 正樹	東京大学海洋研究所	黒潮と東シナ海・日本海の海水と流動の研究および四国南方沖における深海底生生物の生態学的研究	64
KH-02-4	11.7~12.18	42	太平洋、セレベス海、スルー海、南シナ海	セブ 11.26~12.2	西田 周平	東京大学海洋研究所	スルー海および周辺海域の生物多様性と物質循環	41
● 2003年度								
KH-03-1	2003.5.13~9.8	119	中部・東部太平洋	ヒロ 5.29~6.1 ホノルル 6.20~6.25 カヤオ 7.19~7.24 パペーテ 8.11~8.16	川辺 正樹 佐野 有司 M. F. Coffin	東京大学海洋研究所	太平洋の海洋長期変動、化学フラックスおよび海台の成因に関する総合的研究	68
KH-03-2	9.30~10.17	18	西部北太平洋		小池 勲夫	東京大学海洋研究所	西部北太平洋における生元素循環と生物活動に関する研究（新プロ DOBIS）	31
KH-03-3	11.11~11.28	18	南部フィリピン海		石井 輝秋	東京大学海洋研究所	フィリピン海南部における地質・地球物理学的研究	34

航海番号	航海日程	日数	研究海域	寄港地・寄港期間	首席研究員	所 属	研 究 主 題	研究数
KH-04-1	2004.3.4~3.22	19	日本南方および東シナ海の黒潮周辺域	鹿児島 3.13~3.14	杉本 隆成	東京大学海洋研究所	黒潮流域における低次生産と物質輸送過程に関する研究	31

●2004年度

KH-04-2	2004.5.13~7.6	55	中西部太平洋, 北西部太平洋	アブラ 5.25~5.27 アブラ 6.3~6.10	塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	マリアナ・中西部太平洋におけるウナギの産卵回遊生態に関する研究、フィリピン海の海洋循環に関する古生物学的研究および自律型海中ロボットによるマリアナトラフ熱水地帯観測研究 (DOBIS航海)	61
KH-04-3	7.13~8.27	46	北西部太平洋	釧路 8.5~8.9	津田 敦	東京大学海洋研究所	西部亜熱帯太平洋における鉄濃度調節に対する生物地球化学的応答の研究	41
KH-04-4	9.7~11.15	70	西部北太平洋	アブラ 9.28~10.3 東京 10.28~11.3	川辺 正樹	東京大学海洋研究所	西部北太平洋亜熱帯域の深層循環流に関する海洋物理学的研究および西太平洋海底の地球物理学的研究	43
KH-04-5	11.29~5.3.22	114	南大洋, 太平洋	ホバート 12.14~12.18 オークランド 1.15~1.20 スバ 2.11~2.16 ボンベイ 3.11~3.15	蒲生 俊敬 佐野 有司 木暮 一啓	東京大学海洋研究所	南太平洋における微量元素マッピング及び生物地理に関する総合研究 (GEOTRACES およびDOBIS)	76

●2005年度

試験・訓練	2005.5.1~5.6		南西諸島海域, 九州南方太平洋		稲垣 正	東京大学海洋研究所	海洋観察に関する技術手法の確立	15
KH-05-1	5.10~7.31	83	マリアナ・中西部太平洋・フィリピン海・琉球	那覇 5.26~5.29 アブラ 6.13~6.15 アブラ 6.27~6.30 アブラ 7.15~7.17	塚本 勝巳 太田 秀 沖野 郷子	東京大学海洋研究所	琉球海溝付近・沖縄背弧海盆の深海底生物群集の生態学的・系統分類学研究および表層堆積物の圧密成過程の研究/マリアナ・中西部太平洋におけるウナギの産卵回遊生態に関する研究/フィリピン海南部の構造とテクトニクスに関する研究	50
KH-05-2	8.8~9.21	45	中部北太平洋	ホノルル 8.29~9.2	小池 勲夫	東京大学海洋研究所	中部北太平洋における生物地球化学的プロセスの南北断面観測	40
KH-05-3	9.27~11.14	49	日本海溝・千島海溝周辺海域	塩釜 10.5~10.6 塩釜 10.17~10.22	藤本 博己	東北大学大学院理学研究科	日本海溝・千島海溝域における海洋底沈み込み過程に関する測地・地球物理学的研究	27
KH-05-4	11.17~12.28	42	北西太平洋	塩釜 12.11~12.15	川辺 正樹	東京大学海洋研究所	北西太平洋亜熱帯域の海洋循環と水塊の研究	28
KH-06-1	2006.1.11~3.17	66	北西太平洋 (黒潮統流域及び南側再循環流域)	東京 1.27~1.30 東京 2.18~2.21	安田 一郎	東京大学海洋研究所	黒潮統流域・再循環海域における水塊形成変動・生物生産・大気海洋相互作用・テクトニクスの研究	46

●2006年度

試験・訓練	2006.5.11~5.16	6	下関沖, 四国沖, 熊野灘, 駿河湾		稲垣 正	東京大学海洋研究所	海洋観察に関する技術手法の確立	
KH-06-2	6.2~9.5	96	マリアナ・中西部太平洋・北西太平洋・ジャツキー海台・フィリピン海・琉球	鹿児島 6.13~6.14 那覇 6.23~6.26 アブラ 7.12~7.15 アブラ 7.27~7.30 アブラ 8.12~8.15	塚本 勝巳 植松 光夫 大竹 二雄 小松 輝久	東京大学海洋研究所	西部北太平洋における大気・海洋間の生物地球化学的相互作用と仔稚魚の輸送環境, 表層生態系ならびにウナギの産卵回遊生態に関する研究	105
KH-06-3	9.14~10.23	40	茨城沖・宮城沖・南海トラフ・奄美海台~四国海盆北西部	横浜 9.25~9.29 横浜 10.21~10.23	芦 寿一郎	東京大学海洋研究所	南海トラフ活断層, 茨城沖・宮城沖プレート境界, 北太平洋古海洋に関する地質・地球物理学的研究 (IODP)	36
KH-06-4	11.2~7.3.7	126	インド洋・東地中海	ポートルイス 11.23~11.26 ポートルイス 12.4~12.7 ポートルイス 12.23~12.26 ポートルイス 1.5~1.7 ピレウス 1.21~1.26 ピレウス 2.5~2.8 横浜 3.5~3.7	青山 潤 玉木 賢策 徳山 英一	東京大学海洋研究所 東京大学工学系研究科 東京大学海洋研究所	インド洋におけるウナギ属魚類 <i>Anguilla</i> spp. の産卵・回遊生態の解明 インド洋中央海嶺口ドリゲスセグメント地球科学総合探査 現行テクトニクスが支配する東地中海の地質学的・生物学的研究	90

●2007年度

KH-07-1	2007.4.3~6.8	67	親潮域, 北西太平洋	函館 5.4~5.9	池田 勉 川辺 正樹	北海道大学大学院水産科学研究院 東京大学海洋研究所	親潮周辺海域の低次生物生産過程の高精度解析 西部北太平洋における水塊の形成・輸送・変質過程の研究	57
試験・訓練	7.20~7.27	8	熊野灘, 四国沖, 伊豆小笠原海溝		蒲生 俊敬	東京大学海洋研究所	海洋観察に関する技術手法の確立	25
KH-07-2	8.3~10.1	60	中西部太平洋, 北西太平洋	アブラ 8.19~8.21 アブラ 8.29~9.1 アブラ 9.15~9.18	塚本 勝巳 小原 泰彦 塚本 勝巳 石塚 治	東京大学海洋研究所 海上保安庁海洋情報部 東京大学海洋研究所 産業技術総合研究所	ウナギ <i>Anguilla japonica</i> の産卵生態の全貌解明/バレスペラ海盆の海洋コアコンプレックスから探る背弧海盆リソスフェアの組成と構造の解明	67

航海番号	航海日程	日数	研究海域	寄港地・寄港期間	主席研究員	所 属	研 究 主 題	研究者数
KH-07-3	10.12~11.21	41	三陸沖日本海溝	塩釜 10.23~10.27 塩釜 11.9~11.10	藤本 博己 日野 亮太	東北大学大学院理学研究科 東北大学大学院理学研究科 東京大学地震研究所	日本海溝近傍における沈み込み過程の研究	38
KH-07-4	12.13~8.3.14	93	インド洋、南極海インド洋区	ポートルイス 1.3~1.6 ケープタウン 1.27~1.31 フリーマントル 2.26~3.1	篠原 雅尚 原田 哲夫 島 伸和 野木 義史	高知大学教育学部 神戸大学内海域環境教育研究センター 国立極地研究所	ウミアメンボ <i>Halobates micans</i> の3大洋間分布比較および環境応答性における地理的変異についての生理・生態学的研究/マンツルの組成の違いに対応した中央海嶺拡大様式の変化の研究/南大洋の環境変動に関する総合研究	41

●2008年度

試験・訓練	2008.5.9~5.15	7	熊野灘、八丈島北東沖、房総沖		稲垣 正	東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	11
KH-08-01	5.21~7.14	55	フィリピン海	那覇 6.15~6.19	塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	ニホンウナギの回遊と産卵に関する研究	35
KH-08-02	7.29~9.15	49	西部北太平洋	釧路 8.19~8.23	植松 光夫 小川 浩史	東京大学海洋研究所	西部北太平洋における大気と海洋の物質循環・生態系の相互作用 (SOLAS/IMBER航海)	59
KH-08-03	9.24~11.7	45	日本南方・東方海域	塩釜 10.6~10.9	川辺 正樹 望月 公廣	東京大学海洋研究所 東京大学地震研究所	日本東方海域における水塊の形成・輸送・変質過程の研究及び房総沖における海洋プレート沈み込みに関する地質学的研究	46

●2009年度

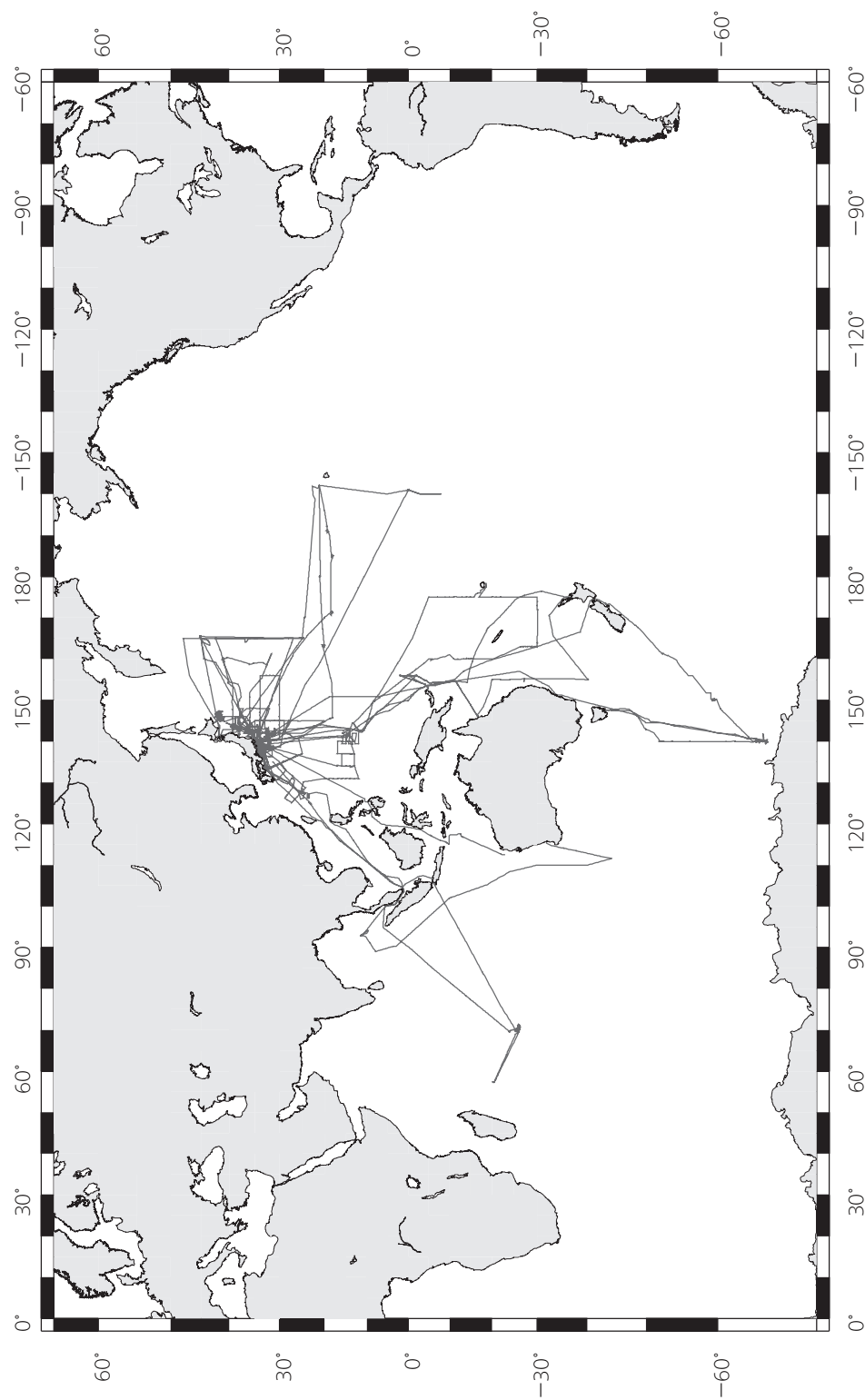
試験・訓練	2009.7.16~7.22	7	熊野灘、八丈島北東沖、房総沖		今井 圭理	東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	17
KH-09-01	4.15~5.5	21	フィリピン海		塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	ニホンウナギの回遊と産卵に関する研究	31
KH-09-02	5.14~6.3	21	フィリピン海		塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	ニホンウナギの回遊と産卵に関する研究	30
KH-09-03	7.27~8.6	11	房総沖		篠原 雅尚	東京大学地震研究所	房総沖~大島・三宅島近海域における海洋プレートの沈み込みに関する地震学的研究	18
KH-09-04	8.12~9.25	45	北太平洋亜寒帯、アリューシャン・ベーリング海域		安田 一郎	東京大学海洋研究所	アリューシャン列島付近の潮汐混合の実測と強混合域での水塊変質・生態系の研究	36
KH-09-05	11.6~10.3.29	144	インド洋、南極海、セレーベス海	コーチン 11.24~11.27 ポートルイス 12.16~12.19 ケープタウン 1.10~1.14 ポートルイス 1.26~1.2	蒲生 俊敬 小畑 元 蒲生 俊敬 沖野 郷子	東京大学海洋研究所 東京大学海洋研究所	インド洋の微量元素・同位体分布の生物地球化学的縦断観測	53
				ポートルイス 2.10~2.14	大竹 二雄	東京大学海洋研究所	マンツルの組成の違いに対応した拡大様式の変化の研究：南西インド洋海嶺 26~39° E	15
							インド洋におけるウナギ属魚類 <i>Anguilla</i> spp. の産卵・回遊生態の解明	29
				ペノア 2.25~3.1 ビトン 3.20~3.23	青山 潤	東京大学海洋研究所	スラウェシ島種変海域における熱帯ウナギの産卵場の特定と回遊行動の追跡	29

●2010年度

試験・訓練	2010.5.9~5.15	7	熊野灘、八丈島北東沖、房総沖、駿河湾、伊豆・小笠原海溝		稲垣 正	東京大学大気海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	21
KH-10-1	5.18~6.4	18	西部太平洋		津田 敦	東京大学大気海洋研究所	熱帯・亜熱帯太平洋におけるエアロゾル、微量元素、海洋生物の生物地球化学的相互作用の研究および海洋における漂流プラスチック由来の化学物質汚染の調査・研究	34
KH-10-2	6.11~7.23	43	西部太平洋	函館 6.19~21 博多 7.14~17 横浜 7.23	張 勁	富山大学大学院工学研究部	日本近海における微量元素・同位体分布の生物地球化学的縦断観測 (極東・アジア GEOTRACES 計画)	52
KH-10-3	7.29~8.25	28	相模・房総、南海トラフ	横浜 7.29 横浜 8.25	芦 寿一郎	東京大学大気海洋研究所	IODP地震発生帯掘削孔周辺での地球科学総合観測	24
KH-10-4	9.1~10.15	43	中部太平洋、マニヒキ海台、赤道周辺海域	ホノルル 9.14~9.18 横浜 10.15	中村 恭之 原田 哲夫	東京大学大気海洋研究所 高知大学教育学部	太平洋におけるウミアメンボの生態、海洋有殻プランクトンの多様性、海洋変動および海台の成因に関する研究	18

航海番号	航海日程	日数	研究海域	寄港地・寄港期間	主席研究員	所 属	研 究 主 題	研究数
KH-10-5	10.21~11.19	30	スマトラ北西沖, インド洋	横浜 10.21 シンガポール 10.29~10.30 パダン 11.8 ポートルイス 11.19	平田 賢治	気象研究所	巨大津波の発生様式と発生履歴を探索: スマトラ北西沖外苑隆起帯の総合的調査/外洋棲ウミアメンボの分布及び環境応答性に果たす海象・気象動態の役割についての生理・生態学的研究	13
KH-10-6	11.23~12.13	21	インド洋	ポートルイス 11.23 ポートルイス 12.13	沖野 郷子	東京大学大気海洋研究所	インド洋海底熱水系の総合調査	32
KH-10-7	12.17~11.1.17	32	インド洋, 南極海インド洋区	ポートルイス 12.17 フリーマントル 1.17	野木 義史	国立極地研究所	複合分野による南極海インド洋区の総合調査	22
KH-11-1	2011.1.21~2.9	20	オーストラリア西岸域, ティモール海	フリーマントル 1.21 ポートダーウィン 1.30~1.31 清水 2.9	横山 祐典	東京大学大気海洋研究所	インドネシア多島海およびティモール海における海水準・古海洋研究	15
KH-11-2	2.11~2.18	8	茨城~房総沖	清水 2.11	望月 公廣	東京大学地震研究所	茨城沖に沈みこんだ海山の構造と周辺の詳細な地震活動	14
KH-11-3	2.25~3.23	27	黒潮続流域, 伊豆海嶺近傍域	晴海 3.11~3.13 (3.14~3.23震災のため中止)	安田 一郎 豊田 邦夫	東京大学大気海洋研究所 東海大学海洋学部	黒潮続流域における浮魚仔稚の輸送環境および大気海洋双方向作用の解明	25
●2011年度								
試験・訓練	2011.5.7~5.13	7	熊野灘, 八丈島北東沖, 房総沖, 駿河湾, 伊豆・小笠原海溝		田中 隆	海洋研究開発機構	海洋観測に関する技術手法の確立	31
KH-11-4	5.20~6.5	17	マリアナ・フィリピン海域		塚本 勝巳	東京大学大気海洋研究所	ニホンウナギの産卵場形成と資源変動メカニズムの解明	27
KH-11-5	6.7~6.21	15	伊豆, 小笠原諸島海域		飯笹 幸吉	東京大学大学院新領域創成科学研究科	小笠原火山弧中軸部の精密地形マッピングに基づく島弧リフトプロセスの研究と熱水鉱床ポテンシャル評価	28
KH-11-7	7.16~8.4	20	西部北太平洋, 福島, 三陸沖		張 勁	富山大学大学院工学研究部	西部北太平洋における微量元素・同位体分布の生物地球化学的研究: 極東・アジアGEOTRACES計画II(震災対応)	31
KH-11-8	8.12~10.4	54	北太平洋北方海域	サンフランシスコ 9.5~9.8	川辺 正樹	東京大学大気海洋研究所	太平洋海洋循環の深層オーバーターンと表層サブダクションの研究	27
KH-11-9	10.14~11.23	41	南海トラフ, 東北沖日本海溝, 日本海東縁上越海盆	台場ライナー埠頭 10.14 晴海 11.2~11.5 台場ライナー埠頭 11.23	松本 良 日野 亮太 芦 寿一郎	東京大学大学院理学系研究科 東北大学大学院理学研究科 東京大学大気海洋研究所	南海トラフ, 日本海溝, 日本海東縁における活断層・地震・地殻変動・メタンハイドレート・底生生物の地質・地球物理・生物学的研究	46
KH-11-10	12.1~12.1.25	56	南北熱帯・亜熱帯太平洋	ホノルル 12.21~12.24 カヤオ 1.25	古谷 研 津田 敦	東京大学大学院農学生命科学研究科 東京大学大気海洋研究所	太平洋熱帯・亜熱帯海域におけるプランクトン群集動態および生物地球化学過程に関する研究	40
KH-12-1	2012.1.29~3.5	37	太平洋赤道海域, 特に東部海域	カヤオ 1.29 ホノルル 2.20~2.23	植松 光夫	東京大学大気海洋研究所	太平洋赤道高生物生産海域における大気海洋間の物質循環と成層圏とのリンゲージおよびウミアメンボの生理・生態学的研究	28

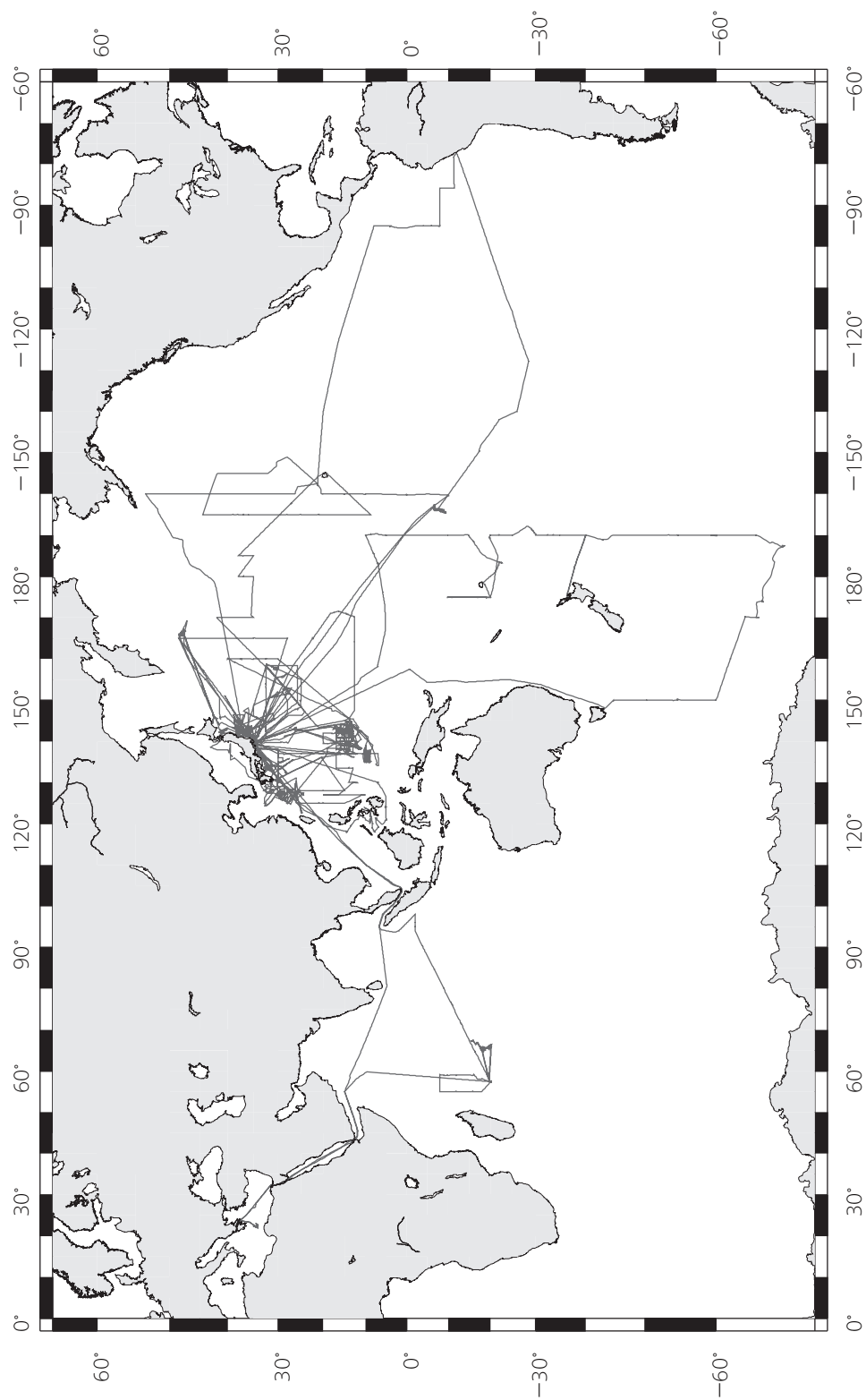
白鳳丸航跡図 [1992～1996年度]



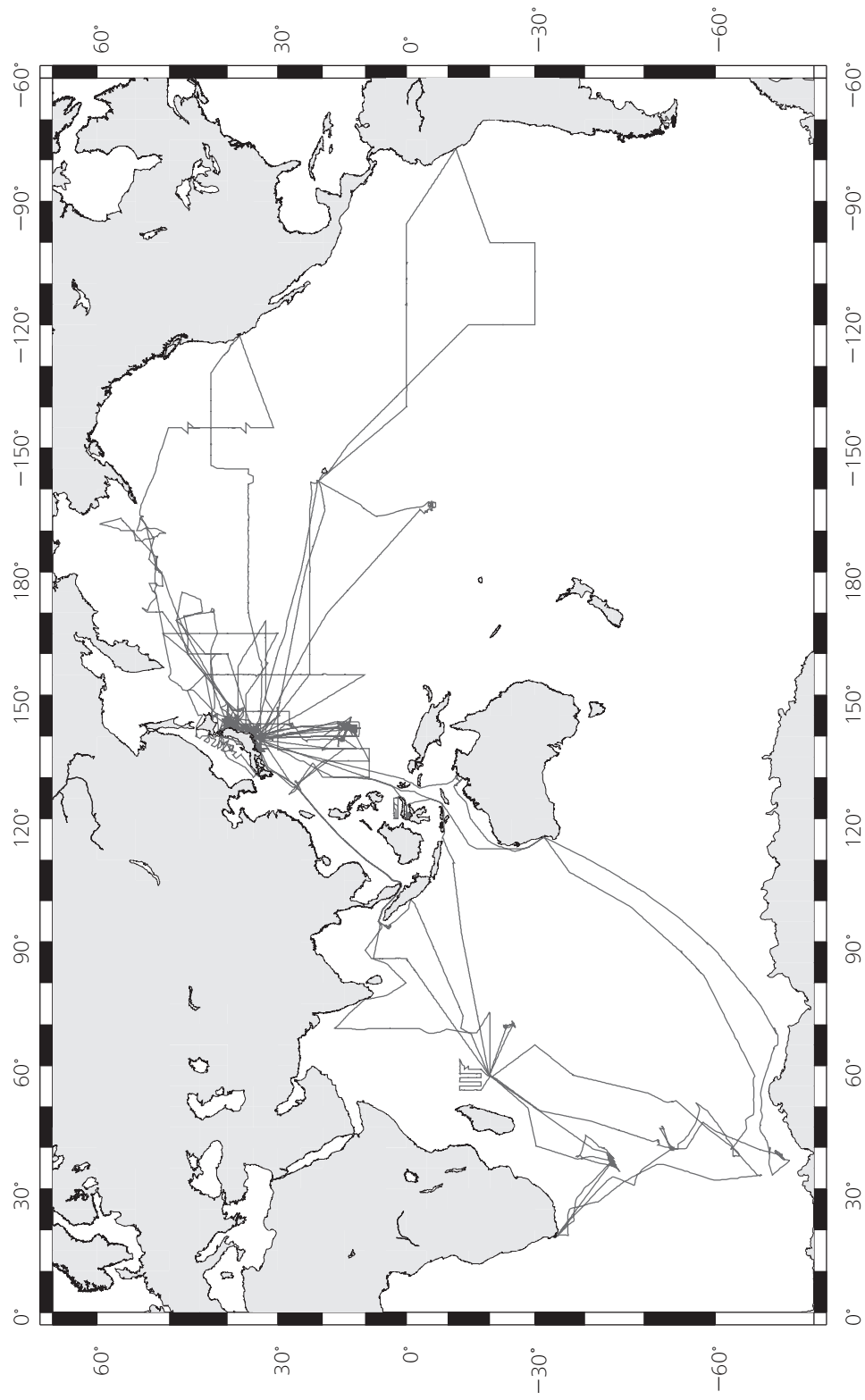
白鳳丸航跡図 [1997～2001年度]



白鳳丸航跡図 [2002～2006年度]



白鳳丸航跡図 [2007～2011年度]



資料2-2-2 陸上施設関連

資料2-2-2-1 研究集会

●海洋研究所（中野）[1990.4～2010.3]

*『東京大学海洋研究所30年史』未掲載の1990・1991年度のデータも含めた

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1990. 5.29～ 5.30	フィリピン海とその周辺海域の地球科学—ODPの掘削をおえて	藤 岡 換太郎	127
1990. 5.31～ 6. 1	遺伝子操作生物の天然への放出に関する研究会	木 暮 一 啓	185
1990. 6. 8	東京湾の物質輸送過程	柳 哲 雄	40
1990. 7. 3	浮魚類の再生産機構と環境の役割	青 木 一 郎	70
1990. 8.21～ 8. 22	浅海底ベントスの種間関係および群集生態	玉 置 昭 夫	76
1990. 9. 5	ODP日本海ワークショップ	玉 木 賢 策	28
1990. 9. 7	深海ステーション	瀬 川 爾 朗	198
1990.10. 8	海中無人調査計測機シンポジウム（第7回海中海底工学フォーラム）	浦 環	80
1990.10.25～10.26	深海における発光現象の解析	大和田 紘 一	57
1990.11. 9	海藻研究における最近の進歩	横 浜 康 継	65
1990.11.13～11.15	地球の過去の緩急変動リズムと綫状構造	伊 東 敬 祐	62
1990.12.10～12.11	底生無脊椎動物の幼生の親個体群への加入過程——分布、着底、定着および加入	関 口 秀 夫	64
1990.12.12～12.13	数値シミュレーション・数理的手法を主とした地球内部ダイナミクスの研究	藤 本 博 己	58
1990.12.21	海洋における物質循環と地球環境	野 崎 義 行	69
1990.12.25	流れの構造と水産動植物の分布と移動の研究	河 合 英 夫	35
1991. 1.11	人工衛星による海色リモートセンシングの現状と将来展望	福 島 甫	40
1991. 1.22～ 1.23	海洋底地球科学最近の進歩	小 林 和 男	110
1991. 1.24～ 1.25	海底ケーブルの地球科学的利用	笠 原 順 三	90
1991. 6. 5	遺伝子情報をもとにした自然生態系の解析	木 暮 一 啓	52
1991. 7.11～ 7.12	オーシャンフラックス——地球圏・生物圏におけるその役割	野 崎 義 行	200
1991. 9. 2～ 9. 3	魚類内分泌学ワークショップ	金 子 豊 二	160
1991.10. 7	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	132
1991.11.25～11.26	海洋性島弧の発達史と背弧拡大——伊豆・小笠原弧の最近の地球科学	藤 岡 換太郎	93
1991.11.27～11.28	深海底調査研究の現状と将来	末 廣 潔	83
1991.12. 9	生物の分布・成長の解析のための流れの測定法	社 多 哲	72
1991.12.10	沿岸漁業資源培養と海洋循環	坂 本 亘	59
1991.12.12	三浦・房総半島とその周辺海域の地球科学	蟹 江 康 光	44
1991.12.16	浮魚資源の再生産と加入機構	青 木 一 郎	74
1992. 1.16～ 1.17	大陸・海洋境界域の電磁気現象	瀬 川 爾 朗	44
1992. 1.23	海洋生命科学における実験生物	森 沢 正 昭	47
1992. 1.24	海洋生物の系統保存とジーンバンク	嵯 峨 直 恒	42
1992. 2.22	気候変動が海洋生態系の変動に及ぼす影響のダイナミクス	杉 本 隆 成	98
1992. 3.16～ 3.17	大気海洋相互作用に関するシンポジウム	鳥 羽 良 明	70
1992. 3.18	相模湾およびその周辺域のサイモテクトニクス	徳 山 英 一	71
1992. 3.23	Inter Ridge（国際海嶺研究計画）シンポジウム	藤 本 博 己	50
1992. 3.24	ワークショップ——太平洋の地質・地球物理と深海掘削	西 村 昭	45
1992. 3.26～ 3.27	地球ダイナミクスと海洋ダイナミクス	瀬 川 爾 朗	52
1992. 4.22～ 4.23	高圧生物化学——水溶液から深海生物まで	谷 口 吉 弘	42
1992. 7.24	東京湾から外洋への物資輸送——東京湾口の沈降粒子のキャラクタリゼーション	柳 哲 雄	40
1992. 7.31	活動的海洋底と生命の進化	柳 川 弘 志	48
1992.10. 5	海中無人調査計測機シンポジウム	前 田 久 明	173
1992.10. 6	暖水塊の物理・化学・生物過程——ストリーマーの構造と機能を中心に	遠 藤 宣 成	32

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1992.11. 4	種を考える——ホヤでのアプローチ	中 内 光 昭	39
1992.11.24 ~ 11.25	中部熱帯太平洋の生物生産	寺 崎 誠	75
1992.12. 3	海洋学へのCG・GIS技術の効果的利用	斉 藤 誠 一	54
1992.12. 8	海洋生態系の変動機構——GLOBECの重要課題と方法	杉 本 隆 成	67
1992.12.17 ~ 12.18	分子生物学的アプローチによる水産生物の系統と進化	沼 知 健 一	162
1992.12.21 ~ 12.22	相模湾周辺の地球科学およびシロウリガイ属コミュニティ	蟹 江 康 光	64
1992.12.24 ~ 12.25	幼生分散と流れ——海産ベントス個体群の存続機構	向 井 宏	106
1993. 1.12	地球環境と微生物生態——物質環境研究への新しいアプローチ	加 藤 憲 二	43
1993. 1.18 ~ 1.19	わが国における古海洋学研究の現状	大 場 忠 道	60
1993. 2. 5	大洋中央海嶺系研究ワークショップ	藤 井 敏 嗣	44
1993. 2. 8	測地学と地球環境	瀬 川 爾 朗	28
1993. 3. 4	南西太平洋の地球化学	野 崎 義 行	16
1993. 3.23 ~ 3.24	大洋底のグローバルダイナミクス——我々はどこまで理解したか	小 林 和 男	180
1993. 5.13 ~ 5.14	海洋生物における硬組織研究の新しい展開	大 越 健 嗣	68
1993. 6. 2 ~ 6. 3	東北日本横断テクトニクス	堀 田 宏	97
1993. 8. 2	水生動物の行動と神経系	宗 宮 弘 明	48
1993. 8.30	マグロ類の分類・生態・資源	中 村 泉	62
1993. 8.31	GLOBECのための新しい生物観測手法	青 木 一 郎	51
1993. 9.20 ~ 9.21	無脊椎動物のホルモン——構造と作用	長 澤 寛 道	103
1993. 9.29 ~ 9.30	ウナギの生物学と白鳳丸研究航海の展望について	大 竹 二 雄	85
1993.10.12	海中無人調査計測機シンポジウム	前 田 久 明	184
1993.11.11 ~ 11.12	火山活動と地殻応力場	小 山 真 人	131
1993.11.16 ~ 11.17	海洋と固体地球の研究——TOPEX/POSEIDON海面高度計データの利用	今 脇 資 郎	60
1993.11.18 ~ 11.19	海嶺衝突と地質的影響	平 朝 彦	96
1993.11.24 ~ 11.25	栽培漁業の課題と展望——種苗放流事業の進展を防げる原因と解決手法	松 宮 義 晴	269
1993.12.21	黒潮・親潮変動に対する浮魚資源の応答過程——魚種交替の契機を探る	中 田 英 昭	50
1994. 1.10 ~ 1.11	自然環境下でのバクテリアの増殖とサバイバル——From log to stationary phase	片 山 葉 子	63
1994. 1.13 ~ 1.14	わが国における古海洋学研究の発展	大 場 忠 道	112
1994. 1.17 ~ 1.18	海洋観測国際共同研究計画（GOOS）——その成果と展望	平 啓 介	70
1994. 1.24 ~ 1.25	深海生態系と表層形態の相互作用——GLOBECとJGOFSの接点	川 口 弘 一	84
1994. 1.26	黒潮沿岸域の流動と海水交換・魚卵稚仔輸送	松 山 優 治	41
1994. 2.14 ~ 2.15	炭酸塩の堆積相、生物相、化学組成と環境変動	松 本 良	35
1994. 3.11	ガスハイドレート BSR の実態と地球化学的意義	徳 山 英 一	100
1994. 6.29 ~ 7. 1	西太平洋大気海洋相互作用（J-COARE）	住 明 正	53
1994. 9. 5	カジキ類の分類・生態・資源・漁業	中 村 泉	55
1994. 9.29	海水中の微量元素の地球化学	野 崎 義 行	40
1994.10. 3	海中無人調査計測器	前 田 久 明	55
1994.11. 1 ~ 11. 2	砂浜海岸の生態系と物理環境	荻 野 静 也	153
1994.11. 7 ~ 11. 8	海洋観測国際共同研究計画（GOOS）	平 啓 介	76
1994.11.10 ~ 11.11	衛星高度計による海洋と固体地球の研究	福 田 洋 一	56
1994.11.15 ~ 11.16	陸橋とヒトと生物の渡来	木 村 政 昭	98
1994.11.17 ~ 11.18	魚類の成育・適応機能と遺伝子	竹 井 祥 郎	173
1994.12. 5	GLOBEC：気候と海洋生態系の変動——既往資料解析を中心に	杉 本 隆 成	49
1994.12. 6	北太平洋亜寒帯水域および移行水域の低次生産とそのモデリング	岸 道 郎	45
1994.12. 7 ~ 12.8	漁業生態系モデルによる水産資源評価	松 田 裕 之	156
1994.12.14	東京湾・大阪湾から太平洋への物質フラックス	柳 哲 雄	25

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1994.12.15 ~ 12.16	海産底生無脊椎動物の幼生の親個体群への加入過程	関 口 秀 夫	44
1995. 1.12 ~ 1.13	カレイ目魚類の変態——その構造と意義	南 卓 志	128
1995. 1.19 ~ 1.20	干潟の生物群集及び干潟の物質循環と浄化機能	菊 池 泰 二	95
1995. 1.26 ~ 1.27	古海洋学の大いなる発展	大 場 忠 道	151
1995. 2.20 ~ 2.21	中央海嶺のダイナミクス	藤 本 博 己	76
1995. 3.24	海底活断層のイメージングとその活動履歴	岡 村 真	40
1995. 5.29 ~ 5.30	フジツボ類研究の現状と発展	山 口 寿 之	98
1995. 6.29 ~ 6.30	東海地域・衝突——沈み込み帯のテクトニクス	末 廣 潔	89
1995. 7. 1	炭酸塩の地球化学——炭酸塩の多形形成から生物作用まで	一 國 雅 巳	53
1995.10.16	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	178
1995.11. 3	沿岸生態系の保護と修復	向 井 宏	82
1995.11. 6 ~ 11. 7	「海洋観測国際共同研究計画（GOOS）」における海洋測定システムの開発と設計	杉ノ原 伸 夫	66
1995.11. 7 ~ 11. 8	北太平洋の低次生産環境変動の定期航路船によるモニタリング	木 村 伸 吾	56
1995.11.21 ~ 11.22	バイオミネラリゼーション——反応過程の解析と有機マトリックス研究	長 澤 寛 道	111
1995.11.27 ~ 11.28	板鰐類の分類・生態・資源に関する研究	田 中 彰	128
1995.11.29	マイクロデータロガー利用による動物行動研究	内 藤 靖 彦	41
1995.11.30	通し回遊現象	塚 本 勝 巳	64
1995.12. 1	地球規模の海洋生態系変動（GLOBEC）地球環境変化への応答過程モデル化にむけて	中 田 英 昭	43
1995.12. 7 ~ 12. 8	漁業から独立した資源評価手法——海洋生物個体群生態研究法の進展を目指して	白木原 國 雄	178
1995.12.13 ~ 12.14	海面高度計データの海洋・個体地球研究への応用	久保田 雅 久	176
1996. 1.16 ~ 1.17	古海洋学の現状と将来——我々は何をなすべきか	小 泉 格	135
1996. 2. 5 ~ 2. 7	中央海嶺研究——最近の成果と今後の計画	藤 岡 換太郎	121
1996. 2.20 ~ 2.21	天然ガスハイドレート——深海掘削のODP Leg164の成果と国内研究開発の現状	奥 田 義 久	140
1996. 2.22 ~ 2.23	南大洋の生物生産過程と物質循環過程	川 口 弘 一	46
1996. 2.26	海洋同位体地球化学の展望	天 川 裕 史	31
1996. 7. 8 ~ 7. 9	21世紀地球化学への挑戦——深海掘削の新たな展開	平 朝 彦	171
1996. 9.19 ~ 9.20	梅雨末期のメンスケール雲システムと集中豪雨	木 村 龍 治	47
1996.10.21	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	178
1996.11. 5	人工衛星による水色リモートセンシングを活用した海洋研	才 野 敏 郎	68
1996.11.12 ~ 11.13	動物の変態——現象とその分子機構	渡 邊 俊 樹	70
1996.11.19	地下水挙動の長期予測の可能性——その現状と展望	徳 永 朋 祥	50
1996.11.26 ~ 11.27	大気・海洋変動に伴う地球ダイナミクス変動	大 江 昌 嗣	65
1996.11.28	海洋生態系のダイナミクスと計測手法	青 木 一 郎	59
1996.11.29	地球規模の海洋生態系変動（GLOBEC）——暖水塊及び黒潮親潮移行域の生物生産と環境	遠 藤 宣 成	34
1996.12. 2	地球規模の海洋生態系変動（GLOBEC）——小型魚類の資源変動機構	和 田 時 夫	42
1996.12. 5 ~ 12. 6	南大洋の生物生産過程と物質循環過程（SO-GLOBEC, J GOFS）	川 口 弘 一	27
1996.12. 5 ~ 12. 6	資源管理の数理的研究の展開	原 田 泰 志	164
1996.12. 9 ~ 12.10	世界海洋観測システム設計のための研究会	川 辺 正 樹	97
1996.12.12 ~ 12.13	再放流と投棄魚の科学——資源・漁業管理における諸問題	二 平 章	228
1997. 1.10	安定同位体による海洋生物研究の展望	南 川 雅 男	50
1997. 1.13 ~ 1.14	環境変動の共鳴箱としての湖沼・内湾堆積物	鳥 居 雅 之	98
1997. 2.27 ~ 2.28	炭素塩の同位体化学	松 田 博 貴	95
1997. 5. 8 ~ 5. 9	水産科学と海洋科学	塚 本 勝 巳	164
1997. 5.21 ~ 5.22	ヒザラガイの生物学	大 越 健 嗣	136

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1997. 5.30	魚類の成育・適応機能と遺伝子	川 内 浩 司	73
1997. 6.26 ~ 6.27	原索動物の最新生物学と研究基盤の整備	窪 川 かおる	110
1997. 9.16	外洋低次生産系の動的構造と栄養塩変動に対する応答	鈴 木 款	34
1997. 9.29	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	213
1997.11.11 ~ 11.12	海面高度計データを基にした海洋と固体地球の研究	今 脇 資 郎	70
1997.11.13 ~ 11.14	海洋観測国際共同研究計画 (GOOS)——研究成果およびその総括	日比谷 紀 之	86
1997.11.15 ~ 11.16	魚類の環境適応	岩 田 宗 彦	175
1997.11.19	底魚群集の構造と機能を探る	堀 川 博 史	66
1997.11.20 ~ 11.21	魚類の変態機構と生残への適応	沖 山 宗 雄	152
1997.12. 2	海鳥海獣とその餌生物との多様なスケールにおける相互作用	綿 貫 豊	47
1997.12. 9 ~ 12.10	Sediment-Water interfaceの動態に関する研究——相模湾を例として	北 里 洋	46
1997.12.11 ~ 12.12	21世紀水産資源科学への挑戦——資源保全へ向けての新たな展開	松 宮 義 晴	214
1997.12.17	白亜紀以降の気候変動——No.3ケイ素循環	中 森 亨	21
1998. 1. 8 ~ 1. 9	気候のレジーム・シフトに対する海洋生態系の応答	杉 本 隆 成	54
1998. 2.24	沿岸油濁の生態系への負荷とその影響	大和田 紘 一	86
1998. 3. 5 ~ 3. 6	炭酸塩の希土類元素地球化学	相 沢 省 一	62
1998. 3. 9	わが国における鯨類研究の最近の動向と今後の展開	吉 岡 基	125
1998. 3.25 ~ 3.27	KAICO-TOKAI国際シンポジウム	徳 山 英 一	302
1998. 5.14 ~ 5.15	黒潮親潮移行域の低次生産機構——白鳳丸による1997年秋の観測成果を中心に	遠 藤 宣 成	100
1998. 8. 3	科学潜水による海洋生物の観測と行動記録解析	金 本 自由生	30
1998.10. 6 ~ 10. 7	大陸形成の現行過程と地球物理循環	徳 山 英 一	100
1998.10.26	第2回VNC研究会	木 暮 一 啓	80
1998.11. 4 ~ 11. 5	沿岸海洋環境の変化と生態系の変化	古 谷 研	30
1998.11. 6	縁辺海観測国際協同研究計画	平 啓 介	70
1998.11.19 ~ 11.20	板鰐類研究における近年の動向	谷 内 透	50
1998.11.24 ~ 11.25	ウナギのライフサイクルの解明と制御	塚 本 勝 巳	40
1998.11.26	黒潮・親潮移行域における浮魚類の分布・生態と海洋環境	渡 邊 良 朗	60
1998.12. 9 ~ 12.10	新海洋秩序時代における水産資源の保全と管理	立 川 賢 一	100
1998.12.11	水産学の空白領域	清 野 聡 子	40
1998.12.14 ~ 12.15	海洋生物におけるバイオミネラル化の分子生物学	都 木 靖 彰	50
1998.12.17 ~ 12.18	古海洋学	岡 田 尚 武	100
1998.12.21	黒潮前線の変動に伴う外洋・沿岸相互作用	中 田 英 昭	50
1999. 1.26 ~ 1.27	生物と映像の現状と未来	窪 川 かおる	100
1999. 2. 5	船舶を用いた海洋大気観測の現状と将来	植 松 光 夫	30
1999. 3. 2 ~ 3. 3	分子海洋学——分子生態学と海洋学の接点	小 島 茂 明	80
1999. 3. 7	海洋物質循環ダイナミクス	野 崎 義 行	50
1999. 3. 9 ~ 3.10	北部北太平洋における生元素循環の特性	小 池 勲 夫	50
1999. 3.18 ~ 3.19	活動的海洋底から海洋への熱・物質フラックス評価	石 橋 純一郎	50
1999. 5.13 ~ 5.14	軟体動物の最近の動向と将来	斎 藤 寛	134
1999. 6.16	地下生物圏シンポジウム	長 沼 毅	56
1999. 9. 9 ~ 9.10	多獲性魚類の加入を巡るBottom upとTop down制御	杉 本 隆 成	81
1999. 9.13 ~ 9.14	ウナギ資源の管理状況と保全対象	立 川 賢 一	256
1999. 9.22	森と海の関わり——陸所生態系の内容に対する沿岸生態系の応答	向 井 宏	57
1999.10.18	第24回中海海底工学フォーラム	浦 環	180
1999.11. 1	第3回VNC研究会	木 暮 一 啓	60
1999.11.11 ~ 11.12	縁辺海における海洋環境モニタリング	川 辺 正 樹	65

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1999.11.24～11.25	海面変動と遺跡・文明	木村政昭	123
1999.11.29～11.30	中央海嶺研究ワークショップ	木村政昭	63
1999.12. 8	生態学および水産学における統計的方法の新しい展開	粕谷英一	89
2000. 1.11～ 1.21	古海洋学	岡田尚武	167
2000. 3.13	マイクロブ堆積物から見た地球環境と生物進化	松本良	45
2000.10.10	第26回海中海底工学フォーラム	浦環	215
2000.10.27	海洋生物の生理機能の比較分子生物学	浦野明央	36
2000.11. 9～11.10	生体鉱物の形成機構に関する研究集会	佐俣哲郎	76
2000.11.16～11.17	縁辺海モニタリング	平啓介	70
2000.11.16～11.17	ニシン科魚類の繁殖生態と資源変動	渡邊良朗	97
2000.11.21～11.22	魚類神経科学研究の現状と展望	植松一真	91
2000.11.27	第4回VNC研究会	木暮一啓	70
2000.11.28～11.29	地球流体における渦の動態と力学	和方吉信	82
2000.12. 4～12. 5	海洋における窒素循環——その21世紀の海洋学における展望	南川雅男	56
2000.12. 7～12. 8	個体群管理の最前線＝漁業管理、害虫防除、野生動物管理を貫く理論と実践	松田裕之	104
2000.12. 8～12. 9	渓流漁の資源管理：現在・過去・未来	原田泰志	195
2000.12.14～12.15	板鰓類の系統・分類および生態・生理	田中彰	134
2000.12.19～12.20	動物プランクトンの採集・計測法と浅海域海底表層モニタリング法の現状と課題	寺崎誠	43
2000.12.22～12.23	海洋生命系のダイナミクス	塚本勝巳	204
2001. 1.11～ 1.12	2000年度古海洋学シンポジウム	高橋孝三	174
2001. 1.15～ 1.16	海洋生物生産の加速による炭素固定と大気との相互作用	中山英一郎	71
2001. 2.15	生物学と映像・画像技術の現状と未来——その2	窪川かおる	40
2001. 2.20～ 2.21	海底地下水湧出	谷口真人	73
2001. 3. 8	日本海溝海溝軸の地質学、生物学、地球化学——学術的研究の推進のための研究集会	小島茂明	27
2001. 3.13～ 3.14	海洋の生物地球化学的物質循環研究における環境放射性核種の有用性	鈴木款	18
2001. 3.16～ 3.17	黒潮の生物輸送と生産機能	小林雅人	56
2001. 7.23～ 7.24	黒潮および黒潮周辺域の浮魚資源変動とその計測・モデリング	小松輝久	68
2001.10. 4～10. 5	森と海の相互作用	向井宏	88
2001.10.15	第28回海中海底工学フォーラム	浦環	204
2001.11. 6～11. 7	Sulu海および周辺海域の生物多様性と物質循環	西田周平	87
2001.11. 8～11. 9	日本周辺縁辺海の海洋環境	道田豊	88
2001.11.15～11.16	鉄散布実験による海洋生態系と大気組成への影響	植松光夫	115
2001.12. 6	湖沼における遊漁と資源管理	松石隆	58
2001.12.10～12.11	黒潮の生物輸送と生産機能	杉本隆成	93
2001.12.12～12.13	アワビ類資源の現状と展望	河村知彦	174
2002. 1.10～ 1.11	古海洋学シンポジウム	高橋孝三	209
2002. 2.25	第5回VNC研究会——生きているのに培養できない細菌の生理状態についての研究会	木暮一啓	85
2002. 6.26～ 6.27	気候-海洋-海洋生態系のレジーム・シフトの実態とメカニズム解明へのアプローチ	稲掛伝三	156
2002. 6.27～ 6.28	南太平洋における物質循環	野崎義行	88
2002. 8.22～ 8.23	海洋生物の変動——自然変動のしくみ、人間活動のインパクト、変動する資源の管理	渡邊良朗	67
2002.10.21	第30回海中海底工学フォーラム	浦環	224
2002.11. 7～11. 8	シンポジウム 縁辺海の海洋環境モニタリング	藤尾伸三	74
2002.11. 8	沿岸性小型鯨類スナメリの生態と保全	白木原美紀	87

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
2002.11.21 ~ 11.22	内水面における魚類の移植・放流と資源管理	立 川 賢 一	186
2002.12. 5 ~ 12. 6	板鰓類研究の展望	田 中 彰	106
2002.12.19	生物の移動・回遊	塚 本 勝 巳	123
2002.12.25 ~ 12.26	地球流体における対流——その動態・構造と力学	松 田 佳 久	80
2003. 1. 9 ~ 1.10	2002年度古海洋学シンポジウム	尾 田 太 良	200
2003. 1.23 ~ 1.24	海洋発光生物研究の現状と展望	和 田 実	113
2003. 2.27 ~ 2.28	背弧海盆・島弧・海溝系の発達過程——フィリピン海を中心に	石 井 輝 秋	70
2003. 3.26	海洋生物資源変動に係わる環境研究の今後の課題——気候変動・人間活動・地球温暖化の影響を中心に問題点を探る	杉 本 隆 成	25
2003. 3. 4 ~ 3. 5	動物個体数変動様式の南北差	渡 邊 良 朗	142
2003.10.20	第32回海中海底工学フォーラム	浦 環	218
2003.11. 6 ~ 11. 7	Sulu 海および周辺海域の生物多様性と物質循環	西 田 周 平	91
2003.11.18 ~ 11.19	海洋・大気間の物質相互作用計画 (SOLAS) の立案	植 松 光 夫	50
2003.11.20 ~ 11.21	藻類に見る陸上植物の基本的性質と藻類の活用に見る機構解明へのアプローチ——連続的形質を解剖する	三 室 守	60
2003.11.26	多魚種資源管理の諸問題	白木原 國 雄	150
2003.11.27 ~ 11.28	生態系保全と水産資源の持続的管理——可能性と展望	梶 山 雅 秀	132
2003.12. 2 ~ 12. 3	流れ藻の分布と生態	小 松 輝 久	73
2003.12.11 ~ 12.12	海洋GISと空間解析——そのサイエンスと未来	齋 藤 誠 一	120
2004. 1. 8 ~ 1. 9	古海洋学シンポジウム	尾 田 太 良	130
2004. 7.29 ~ 7.30	ウナギの資金と保全	塚 本 勝 巳	191
2004. 9. 2 ~ 9. 3	海洋の微量元素・同位体研究の最新動向と将来展望	蒲 生 俊 敬	42
2004.10.18	第34回海中海底工学フォーラム	浦 環	225
2004.11. 4	野生生物資源の持続的利用と予防原則	松 石 隆	72
2004.11. 5	順応的管理と理論と実践	勝 川 俊 雄	49
2004.11.15 ~ 11.16	大気・海洋間の生物地球化学的循環過程 (SOLAS)	津 田 敦	72
2004.12. 2	地球規模海洋生態系変動研究 (GLOBEC) ——海洋生態系の総合診断と将来予測	桜 井 泰 憲	50
2004.12.13 ~ 12.14	境界動物の生物学	森 沢 正 昭	77
2004.12.17 ~ 12.18	地球流体における渦の構造、動態と力学	和 方 吉 信	74
2004.12.20 ~ 12.21	ホンダワラ類の分布と生態	鰐 坂 哲 朗	57
2005. 1. 8 ~ 1. 9	2004年度古海洋学シンポジウム	長谷川 四 郎	156
2005. 1.20	南海トラフ地震発生帯の深海掘削	芦 寿一郎	62
2005. 2.15 ~ 2.16	板鰓類研究の現状と将来	田 中 彰	127
2005. 3. 7 ~ 3. 8	東北日本と伊豆小笠原弧の地殻——マントル構造とマグマ—— サブダクションファクトリーにおける物質循環解明に向けて	石 井 輝 秋	170
2005. 7.22	海洋生物地球化学と生態系研究の統合研究に向けて	齋 藤 宏 明	31
2005.10. 5 ~ 10. 6	非静力学数値モデルの現状と将来展望	岩 崎 俊 樹	146
2005.10.17 ~ 10.18	西部北太平洋における鉄散布実験 (SEEDS II) に関する国際ワークショップ	津 田 敦	39
2005.10.28	第36回海中海底工学フォーラム	浦 環	157
2005.11.10 ~ 11.11	低水準期にある浮魚資源の管理	桜 本 和 美	157
2005.12. 5 ~ 12. 6	水生生物研究機関としての水族館——その研究資源活用の可能性	猿 渡 敏 郎	222
2005.12. 9	海洋生態系動態研究の将来展望	池 田 勉	32
2006. 1.11	海産藻類の光合成系と生産性の再評価	三 室 守	36
2006. 1.12 ~ 1.13	2005年度古海洋学シンポジウム	安 田 尚 登	106
2006. 1.26 ~ 1.27	太平洋および南極海の微量元素・同位体と生物地球化学サイクル (GEOTRACES計画)	蒲 生 俊 敬	87
2006. 2. 9 ~ 2.10	流れ藻研究最前線	小 松 輝 久	41

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
2006. 7. 6 ~ 7. 7	鯨骨生物群集研究の最前線——海底に沈んだ鯨が育む生態系	藤 原 義 弘	146
2006. 9.26 ~ 9.27	ウナギ資源の現状と保全	塚 本 勝 巳	175
2006.10.27	第38回海中海底工学フォーラム	浦 環	179
2006.11. 6 ~ 11. 7	全海洋動物プランクトンセンサスワークショップ	西 田 周 平	79
2006.11. 9 ~ 11.10	中央海嶺研究のグローバルな展開 InterRidge-Japan 研究発表会	沖 野 郷 子	102
2006.11.22	漁業管理におけるリスク評価と合意形成のための社会経済学的アプローチ	松 田 裕 之	104
2006.11.29	地球規模海洋生態系変動研究 (GLOBEC) ——温暖化を軸とする海洋生物資源変動のシナリオ	桜 井 泰 憲	86
2006.11.30 ~ 12. 1	軟骨魚類を探る	田 中 彰	189
2006.12. 7 ~ 12. 8	浅海域資源の管理と増殖の現状と課題	渡 邊 良 朗	178
2006.12.18 ~ 12.19	北太平洋の生態学的および生物地球化学的特徴	齊 藤 宏 明	123
2007. 1.12 ~ 1.13	2006年度古海洋学シンポジウム	安 田 尚 登	167
2007. 1.25 ~ 1.26	脊索動物の進化と脊椎動物の起源	窪 川 かおる	128
2007. 2.19 ~ 2.20	海洋プレートと島弧の深部構造——IODP 超深度掘削へ向けて	石 井 輝 秋	119
2007. 3.27 ~ 3.28	地球流体における波動と対流の学力	松 田 佳 久	67
2007. 6.11 ~ 6.12	マアジ仔稚魚の初期生態と東シナ海から日本沿岸への輸送機構	高 柳 和 史	113
2007. 6.21 ~ 6.22	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	川 幡 穂 高	105
2007. 6.25	温室地球における生命と環境の共進化——酸化還元境界の変動と生物進化	北 里 洋	25
2007. 8. 8	南海トラフ巨大地震発生帯の掘削科学 (IODP)	芦 寿一郎	78
2007. 8.23 ~ 8.24	アワビ類栽培漁業の検証と今後の展望	河 村 知 彦	165
2007.10.26	第40回海中海底工学フォーラム	浦 環	262
2007.10.30 ~ 10.31	海底拡大系の総合研究	島 伸 和	124
2007.11.15 ~ 11.16	魚類の適応と進化の統合生物学——遺伝子から行動まで	安 東 宏 徳	115
2007.11.28	シュミレーションを用いた水産資源の管理——不確実性への挑戦	平 松 一 彦	77
2007.11.30 ~ 12. 1	発光生物研究の展開と教育への応用——光がつなぐ科学と教育	和 田 実	108
2007.12. 6 ~ 12. 7	環境問題と水族館 その現状、課題、そして将来展望	猿 渡 敏 郎	186
2007.12.20 ~ 12.21	繁殖特性の時空間的変異が個体群動態へおよぼす影響	栗 田 豊	126
2008. 1. 7 ~ 1. 8	古海洋学シンポジウム	安 田 尚 登	174
2008. 1.17 ~ 1.18	微量元素と同位体による海洋の生物地球化学的研究 (GEOTRACES 計画) ——その最新動向と今後の方針	蒲 生 俊 敬	85
2008. 1.28	西部北太平洋亜寒帯・亜熱帯域の特徴と相互作用	齊 藤 宏 明	69
2008. 3.14	地球規模海洋生態系変動研究 (GLOBEC) 温暖化を軸とする海洋生物資源変動のシナリオ2	岸 道 郎	28
2008. 3.24 ~ 3.25	海洋リソスフェア学シンポジウム——海洋底深部構造と進化過程解明に向けて	阿 部 なつ江	58
2008. 3.25	選択的漁獲に対する海洋生物資源の進化的対応に関する研究	渡 邊 良 朗	14
2008. 5.22 ~ 5.23	潮汐混合とオホーツク海・ベーリング海の物理・化学・生物過程	安 田 一 郎	62
2008. 6.13	生理、行動、分子から見た海棲哺乳類の生物学——最近の話題から	村 山 司	101
2008. 6.19 ~ 6.20	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	川 幡 穂 高	95
2008. 6.25 ~ 6.26	駿河湾・相模湾の生態系に対する気象と黒潮変動の影響	杉 本 隆 成	98
2008. 7.31	太平洋の海洋循環と力学過程	川 辺 正 樹	37
2008. 8. 4	水塊構造の時空間変動と高頻度連続観測による親潮生態系の動態解明	小 針 統	31
2008.10.10	第42回海中海底工学フォーラム	浦 環	193
2008.10.30 ~ 10.31	InterRidge-Japan 研究集会 海底拡大系の総合研究——海底拡大系における海洋地殻内流体	石 橋 純一郎	113
2008.11.19	海と畑と森のDNA多型研究	猿 渡 敏 郎	69
2008.11.20 ~ 11.21	我が国における刺胞動物研究	三 宅 裕 志	185
2008.12. 1	ゾーニング——使い分けや棲み分けによる漁場・資源管理	原 田 泰 志	44
2008.12.11 ~ 12.12	亜熱帯海洋学の最前線	津 田 敦	62

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2008.12.11 ~ 12.12	板鰓類の魅力と多様性	田 中 彰	186
2009. 1. 8 ~ 1. 9	古海洋シンポジウム	佐 藤 時 幸	168
2009. 1.22 ~ 1.23	「微量元素海洋学」事始——海洋の微量元素・同位体研究の動向と今後の展望（GEOTRACES計画）	蒲 生 俊 敬	97
2009. 3. 5 ~ 3. 6	地球流体における構造の組織化とパターン形成の力学	和 方 吉 信	51
2009. 3.16	ポストGLOBECをどのように展開するか	桜 井 泰 憲	23
2009. 3.24	藻場研究の今——分布・生態から磯焼け対策・利用まで	小 松 輝 久	43
2009. 4.23 ~ 4.24	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	鈴 木 淳	114
2009. 5.21	DNA情報にもとづく種査定技術とその応用	町 田 龍 二	41
2009. 6. 4 ~ 6. 5	北太平洋亜熱帯モード水の物理・化学・生物過程	岡 英太郎	90
2009. 6.29 ~ 6.30	微量元素・同位体を用いた海洋の生物地球化学研究の最新動向と展望	小 畑 元	67
2009.10. 7	掘削科学および関連分野の現状と将来	川 幡 穂 高	62
2009.10. 9	第44回地中海底工学フォーラム	浦 環	277
2009.10.29 ~ 10.30	海底拡大系の総合研究——InterRidge Japan研究会——海底熱水が繋ぐ地圏・水圏・生命圏	熊 谷 英 憲	104
2009.11. 9 ~ 11.10	水生生物の異時性に関する研究——現状の把握と今後の展望	猿 渡 敏 郎	43
2009.11.20	海底地盤変動学のススメ——地形学・地質学・地盤工学からのアプローチ	川 村 喜一郎	64
2009.11.25	水産資源管理における再生産関係の利用の現状と問題点——理論的・実用的立場から	木 所 英 昭	50
2009.11.26 ~ 11.27	1970年代の黒潮親潮域において海洋生態系のレジームシフトはいつおこったのか——フンボルト海流域との比較	渡 邊 良 朗	76
2009.12. 7 ~ 12. 8	水族館における水生生物研究と教育——現状と展望	猿 渡 敏 郎	175
2009.12.11 ~ 12.12	白鳳丸航海KH-08-2 データシンセシス	津 田 敦	75
2009.12.21 ~ 12.22	新しい海洋区分の創設に向けた生物地球化学と生態学の総合研究	齊 藤 宏 明	88
2010. 1. 5 ~ 1. 6	沿岸海洋生物の広域動態研究の最前線	仲 岡 雅 裕	92
2010. 1. 7 ~ 1. 8	古海洋学シンポジウム	佐 藤 時 幸	144
2010. 1.14	pHからみた地球環境——酸性からアルカリ性までの水と生物地球化学	井 上 麻夕里	23
2010. 3.23	東シナ海を主としたガラモ場と流れ藻の分布と生態	青 木 優 和	21

●海洋研究所（大槌）[1990.4 ~ 2010.3]

*『東京大学海洋研究所30年史』未掲載の1990、1991年度のデータも含めた

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
1990. 9.25 ~ 9.26	北日本の異常気象——日本海豪雪を中心に	浅 井 富 雄	114
1990. 9.26 ~ 9.27	北西太平洋の海洋循環と混合水域の海況変動	力 石 国 男	51
1991. 7. 3 ~ 7. 4	生物の光信号伝達機構の研究における海藻の利用	渡 辺 正 勝	23
1991. 9.24 ~ 9.25	北日本の異常気象——季節変化の不規則性を中心として	木 村 龍 治	34
1991. 9.26 ~ 9.27	北西太平洋の海洋循環と混合水域の海況変動	力 石 国 男	38
1991.10.22 ~ 10.23	フジツボ類生態、生物地理、防除に関する研究会	山 口 寿 之	41
1992. 3.10 ~ 3.11	大槌湾及び隣接海域における底性動物群集とその生活史	竹 内 一 郎	33
1992. 9. 8 ~ 9. 9	北日本の異常気象——大気・海洋・雪氷の相互作用を中心として	力 石 国 男	33
1992. 9.10 ~ 9.11	亜寒帯循環と北太平洋中層水	友 定 彰	46
1993. 3.10 ~ 3.11	大槌湾生態系の構造と機能	平 野 禮次郎	50
1993. 3.25 ~ 3.26	海洋微生物の増殖と飢餓	芝 恒 男	30
1993. 7.14 ~ 7.16	オキアミ資源研究会	黒 田 一 紀	117
1993. 7.19 ~ 7.22	通し回遊魚の生活史パターンの解析に基づく資源動態モデルの構築	塚 本 勝 巳	79
1993.10.12 ~ 10.14	循環要因が大型海藻類の生理活性におよぼす影響に関する研究の現況と今後の課題	齋 藤 宗 勝	27
1993.11.16 ~ 11.17	ヤマセの研究の過去・現在・未来	川 村 宏	72
1993.11.18 ~ 11.19	亜寒帯循環と北太平洋中層水	友 定 彰	124
1994. 3.10 ~ 3.11	大槌湾生態系の構造と機能——生物群集、生活史、生産	平 野 禮次郎	60

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1994. 8.24	ヤマセ現象を構成する各要素の物理過程	川 村 宏	16
1994. 8.25 ~ 8.26	親潮とその周辺海域の構造と力学	岩 尾 尊 徳	68
1994.10.25 ~ 10.26	端脚類研究の可能性を探る	松 政 正 俊	34
1995. 3. 8 ~ 3.10	三陸沖の生物多様性と環境	宮 崎 信 之	40
1995. 8.22 ~ 8.23	日本の異常気象と大規模大気・海洋循環場	花 輪 公 雄	40
1995. 8.24 ~ 8.25	親潮とその周辺海域の構造と力学	岩 尾 尊 徳	44
1996. 9.24	大槌湾および沿岸における生態学的研究——化学物質による海洋汚染と毒性影響	山 本 義 和	18
1996.11.12 ~ 11.13	北西太平洋を中心とするグローバルな大気海洋相互作用	関 根 義 彦	40
1996.11.14 ~ 11.15	北太平洋西部亜寒帯循環域の変動と力学	川 崎 康 寛	41
1997. 2.21	海藻現存量の調査法の現状と問題点	飯 泉 仁	62
1997.10. 7 ~ 10. 8	寒流域の階層藻場における生物群集構造の制御機構	仲 岡 雅 裕	80
1997.11.17 ~ 11.18	日本周辺の北西太平洋を中心とするグローバルな大気海洋相互作用	関 根 義 彦	40
1997.11.18 ~ 11.19	北太平洋西部亜寒帯循環域の変動と力学	川 崎 康 寛	46
1997.12. 1	海棲哺乳類ストランディングシンポジウム	山 田 格	63
1998. 8.19 ~ 8.20	北太平洋亜寒帯域及びその周辺海域の循環と水塊過程	須 賀 利 雄	40
1998. 8.20 ~ 8.21	北日本の気象と海象	児 玉 安 正	20
1998. 8.24 ~ 8.25	吸収係数測定法ワークショップ	岸 野 元 彰	40
1998.10.15 ~ 10.16	水生生物の異時性に関する研究の現状	猿 渡 敏 郎	15
1999. 1.25 ~ 1.26	海藻現存量調査手法の現状と問題点——リモートセンシング	小 河 久 朗	30
1999. 8.18 ~ 8.19	北日本の気象と海象	児 玉 安 正	88
1999. 8.19 ~ 8.20	北太平洋亜寒帯域およびその周辺海域の循環と水塊過程	須 賀 利 雄	100
2000. 8.23 ~ 8.24	豪雨と海況	渡 辺 明	183
2000. 8.24 ~ 8.25	北太平洋北西部とその縁辺海の水塊変動と循環	岩 坂 直 人	
2000.10.23 ~ 10.25	棘皮動物ウニ類のボディプラン確立過程におけるシグナル伝達	雨 宮 明 南	75
2001. 3. 7 ~ 3. 9	北海道、東北沿岸域の海藻藻場ワークショップ	相 生 啓 子	53
2001. 8.22	北太平洋北西部とその縁辺海の水塊変動と循環	岩 坂 直 人	44
2001. 8.23	降水システムと降水変動	渡 辺 明	42
2002. 2.28	葉上性甲殻類の生態学——課題と展望	岩 崎 望	20
2002. 8.21	北太平洋西部亜寒帯循環系の変動と大気場の関係	三 宅 秀 男	35
2002. 8.22	モンスーンと東アジア（季節サイクルとその変動）	加 藤 内蔵進	49
2003. 8.20	北太平洋西部亜寒帯循環系の変動と大気場の関係	三 宅 秀 男	44
2003. 8.21 ~ 8.22	モンスーンと東アジア（季節サイクルとその変動）Part II	加 藤 内蔵進	31
2003.11. 6 ~ 11. 7	藻場生態系の維持と再生に関する水産学および工学分野での研究の現状と今後の展望	難 波 信 由	57
2004. 8.24 ~ 8.25	2003年夏の異常気象に関する研究集会	立 花 義 裕	44
2004. 8.25 ~ 8.26	北太平洋における表層水塊過程	植 原 量 行	52
2004.10.28 ~ 10.29	寒流系コンブ類藻場の保全とコンブ産業の今後——可能性と展望	難 波 信 由	39
2005. 8.31 ~ 9. 1	北太平洋における表層水塊過程	植 原 量 行	77
2005. 9. 1 ~ 9. 2	冷夏猛暑に代表される夏季異常気象研究の統合	立 花 義 裕	79
2005. 9.29 ~ 9.30	台風のライフサイクル——発生から温低化まで	大 淵 済	60
2006. 8.21 ~ 8.22	オホーツク海の変動とその親潮海域への影響	河 野 時 廣	64
2006. 8.22 ~ 8.23	西部北太平洋海域における大気海洋相互作用	谷 本 陽 一	92
2006. 9.12 ~ 9.13	台風の力学——何が理解されていないのか？	大 淵 済 (中澤 哲夫)	64
2007. 8.20 ~ 8.22	三陸の海——その魅力と生物学	佐 藤 矩 行	161
2007. 8.29 ~ 8.30	親潮～混合域の観測研究 ——最新手法の成果と利用	河 野 時 廣	69
2007. 8.30 ~ 8.31	西部北太平洋海域における大気海洋相互作用II ——黒潮統流域におけるフラックス観測	根 田 昌 典	79

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2008. 8.21 ~ 8.22	水圏生態系の生産力に関わる研究の現状と展望	林 崎 健 一	31
2008. 9.10 ~ 9.11	親潮～混合域の観測研究 ——「親潮」認識の再確認	宮 尾 孝	54
2008. 9.11 ~ 9.12	中緯度における大気海洋結合に関する数値モデル実験と観測的研究のレビュー	谷 本 陽 一	50
2009. 8.19 ~ 8.20	北海道周辺から本州東方海域の諸現象とその時間的変動	宮 尾 孝	37
2009. 8.20 ~ 8.21	中緯度大気海洋相互作用における時空間スケール階層構造	谷 本 陽 一	47
2009. 8.27 ~ 8.28	水圏生態系の生産力解析——陸と海との連関	林 崎 健 一	30
2009. 8.29 ~ 8.30	大槌湾の生態系保全と持続的な利用を目指した研究の現状と展望	後 藤 友 明	106

●大気海洋研究所（柏）

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2010. 6.24 ~ 6.25	ウナギ——その生物学と資源保全	塚 本 勝 巳	176
2010.10. 1	第46回海中海底工学フォーラム	浦 環	211
2010.10.19 ~ 10.20	水生生物の性的二型 適応と進化	猿 渡 敏 郎	58
2010.11. 1 ~ 11. 2	南海トラフ海溝型巨大地震の新しい描像——大局的構造と海底面変動の理解	芦 寿一郎	83
2010.11. 4 ~ 11. 5	海底拡大系の総合研究 ——InterRidge Japan研究会	沖 野 郷 子	92
2010.11.30 ~ 12. 1	潮汐混合とオホーツク海・ベーリング海の物理・化学・生物過程——白鳳丸KH-09-4航海・おしよ丸・クロモフ2006/2007シンセシス	安 田 一 郎	67
2010.12. 1	漁業情報を用いた水産資源の評価と管理	平 松 一 彦	54
2010.12. 9 ~ 12.10	地球流体における流の変動性と持続性の力学	松 田 佳 久	52
2011. 1. 6 ~ 1. 7	2010年度古海洋シンポジウム	北 里 洋	164
2011. 1.11 ~ 1.12	日本列島周辺に分布するテフラのデータベース整備にむけて	鈴 木 毅 彦	67
2011. 2. 7	中西部太平洋におけるカツオの生態と資源	二 平 章	69
2011. 2.10	バイオミネラリゼーションと石灰化 ——遺伝子から地球環境まで	鈴 木 淳	46
2011. 2.11	地球生命科学の夢ロードマップ ——古環境研究から未来環境を予測する	井 上 麻夕里	71
2011. 9. 7 ~ 9. 8	南海トラフ海溝型巨大地震の新しい描像——大局的構造と海底面変動の理解（その2）	朴 進 午	73
2011. 9.13	大気・海洋間の生物地球化学的循環過程のリンケージ——W-PASS最終シンポジウム	津 田 敦	33
2011. 9.16	太平洋クロマグロ資源の有効利用に向けた取り組み	松 田 裕 之	43
2011.10. 3 ~ 10. 4	亜熱帯太平洋のプランクトン生態系および物質循環に関する比較海洋学	古 谷 研	66
2011.10. 3 ~ 10. 4	東シナ海および琉球弧の地史と古環境	松 本 剛	54
2011.10. 4 ~ 10. 6	Workshop on Ocean Mantle Dynamics: from Spreading Center to Subduction Zone	島 伸 和	202
2011.10.14	第48回海中海底工学フォーラム	浦 環	195
2011.11. 1 ~ 11. 2	InterRidge-Japan研究会 海底拡大系の総合研究	砂 村 倫 成	93
2011.11.18	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	中 島 礼	55
2011.12. 8 ~ 12. 9	電子標識を用いた高度回遊性魚類の生態研究の現状	北 川 貴 士	51
2011.12.12 ~ 12.13	生物多様性と水族館 研究・展示・啓発活動	猿 渡 敏 郎	193
2011.12.16	混獲と生物多様性保全——非意図的漁獲をいかに軽減するか？	松 下 吉 樹	53
2012. 1. 5 ~ 1. 6	2011年度古海洋シンポジウム	北 里 洋	110
2012. 3. 7	大気海洋学の夢ロードマップ——2050年の未来にむけて	川 幡 穂 高	71
2012. 3. 8 ~ 3. 9	白鳳丸クリーン観測による微量元素・同位体研究の現状と展望 (GEOTRACES計画)	蒲 生 俊 敬	54

●大気海洋研究所（大槌）

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2010. 8. 3 ~ 8. 4	北太平洋とその周辺海域における循環と水塊過程	岡 英太郎	50
2010. 8. 4 ~ 8. 5	近年の北日本を中心とする異常気象に関わる大気海洋過程	本 田 明 治	58

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
2010. 8.24 ~ 8.25	水圏の生産力解析	林 崎 健 一	28
2010. 9.14 ~ 9.15	日本気象学会THORPEX研究連絡会第4回研究集会 太平洋・アジア域に 影響を与える気象	榎 本 剛	24
2011. 8.27	水圏の生産力解析——漁業における三陸の復興に向けて	林 崎 健 一	34
2011. 9.13 ~ 9.14	台風セミナー 発生過程と非軸対称構造の力学	柳 瀬 亘	41
2011.11.11 ~ 11.12	黒潮・親潮統流域の循環と水塊過程	岡 英太郎	63
2011.11.12 ~ 11.13	北日本を中心とした降水・降雪特性に関わる海洋大気陸面過程	本 田 明 治	68

資料2-2-2-2 外来研究員の研究課題数等

●海洋研究所／大気海洋研究所

(): 中止数で内数

年度	外来研究員（中野／柏）・共同利用研究員 （国際沿岸海洋研究センター（大槌））			研究集会（中野／柏）		研究集会 （国際沿岸海洋研究センター（大槌））	
	中野／柏	国際沿岸海洋研究センター（大槌）		件数	のべ利用人数	件数	のべ利用人数
	件数	件数	のべ利用人数				
1992	91	49	—	18	1273	2	79
1993	79	44	—	20	1809	6	208
1994	88	37	—	19	1568	4	158
1995	73	41	—	19	1836	2	125
1996	84	41	—	17	1543	4	161
1997	68	48	(利用者数 公募内・外)	20	2236	4	229
1998	68	47	219	22	2042	5	239
1999	74	51	239	13	1376	2	188
2000	68	49	195	26(2)	1932	4	311
2001	50	46	242	11	1269	5	230
2002	48	41	362	14	1599	2	84
2003	43	42	199	12	1166	3	132
2004	37	36	236	14	1424	3	132
2005	34	41	179	11	1054	3	216
2006	38	39	260	14	1842	3	220
2007	57	53	218	18	1912	3	309
2008	53	56	202	18	1658	3	135
2009	50	49	215	18	1606	4	220
2010	39	16	公募外 10 を除いて震災のため 記録なし	13	1210	4	220
2011	48	48	震災のため記録なし	15	1346	4	206

資料2-2-2-3 共同研究

●気候システム研究センター〔1993～2009年度〕

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
●1993年度			
特定共同	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他4名	松野太郎
	高分解能大気モデル及び高精度物理過程スキームの開発	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他4名	住 明正
	東大気候センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他2名	杉ノ原伸夫
	雲システムのモデル開発	東京大学理学部・山岬正紀教授	松野太郎
	人工衛星によるエアロゾル・パラメータの評価	東北大学理学部・早坂忠裕助手 他3名	中島映至
	大気の放射対流平衡の基本特性	埼玉工業大学・佐藤正樹講師	松野太郎
	AVHRR (Split Window) 雲パラメータの評価	気象研究所・井上豊志郎主任研究員	中島映至
一般共同	中層大気循環の季節内変動に関する数値実験	京都大学理学部・余田成男助教授 他2名	住 明正
	回転球面上の対流の研究	東京大学理学部・林 祥介助手 他3名	松野太郎
	大気モデルの定常解と周期解	気象研究所・木本昌秀研究員 他1名	松野太郎
	モンスーン域における海洋循環の季節・経年変動の研究	東京大学理学部・山形俊男助教授 他1名	杉ノ原伸夫・ 松野太郎
	内部重力波の非線型相互干渉による乱流スケールへのエネルギー輸送過程	北海道大学理学部・日比谷紀之助教授 他1名	杉ノ原伸夫・ 中島健介
●1994年度			
特定共同	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他4名	高橋正明
	高分解能大気モデル及び高精度物理過程スキームの開発	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他3名	住 明正
	東大気候センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他3名	杉ノ原伸夫
	雲システムのモデル開発	東京大学理学部・山岬正紀教授	松野太郎
	人工衛星によるエアロゾル・パラメータの評価	東北大学理学部・早坂忠裕助手 他2名	中島映至
	大気モデルによるハドレー循環と傾圧波動の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹講師	松野太郎
	AVHRR (Split Window等) による雲パラメータの評価	気象庁気象研究所・井上豊志郎主任研究員	中島映至
	地表面熱収支からみた気象モデルの検証	東京都立大学理学部・増田耕一助教授	松野太郎
	人工衛星による気象研究。特に放射収支及び雲パラメータの抽出に関する研究	奈良女子大学・久慈 誠助手	中島映至
一般共同	気候モデルを用いた亜熱帯前線帯の生成機構の研究	弘前大学理学部・児玉安正助手	新田 勲
	中層大気循環の季節内変動に関する数値実験	京都大学理学部・余田成男助教授 他4名	住 明正
	回転球面上の対流の研究	東京大学理学部・林 祥介助手 他3名	松野太郎
	大気モデルの定常解と周期解	気象研究所・木本昌秀研究員 和歌山大学教育学部・伊藤久徳助教授	松野太郎
	モンスーン域における海洋循環の季節・経年変動の研究	東京大学理学部・山形俊男助教授 他1名	松野太郎
	内部重力波の非線型相互干渉による乱流スケールへのエネルギー輸送過程	北海道大学理学部・日比谷紀之助教授 他1名	杉ノ原伸夫・ 中島健介
	熱帯スコールラインの数値実験	九州大学理学部・高橋 劭教授	松野太郎
	オゾン変動に対する赤外線放射収支に関する研究	東京大学先端研・秋元 肇教授 環境庁環境研究所・中根英昭総合研究官	中島映至
	大気の熱源に対する応答	東京大学理学部・松田佳久助教授 他1名	高橋正明
	ENSO の中高緯度大気・海洋システムに及ぼす影響の再評価実験	東京大学理学部・中村 尚助手 東京商船大学・岩坂直人助教授 東北大学理学部・谷本陽一学振研究員	高橋正明
	ミシシッピ川の流域水収支に関する基礎的研究	東京都立大学理学部・野上道男教授	新田 勲
	放射対流平衡の二次元数値実験	中京学院大学・岩朝美晴助手 東京大学理学部・阿部豊助教授 名古屋大学大気水圏研究所・田中浩教授	松野太郎
	北半球暖冬の最近の長期化とオゾン・炭酸ガス循環の変動に関する研究	富山高等専門学校・川平浩二教授 他2名	高橋正明

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
●1995年度			
特定共同	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他4名	高橋正明
	高分解能大気モデルの気候学的特性について	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他7名	住 明正
	全球土壌水分の導出と相互比較	気象庁数値予報課・山田大予報班長 他2名	住 明正
	大気海洋結合モデルの初期値化および季節予報可能性について	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他1名	木本昌秀
	東大気候センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他3名	杉ノ原伸夫
	大気モデルによるハドレー循環と傾圧波動の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹講師	高橋正明
	高精度・海洋大循環モデル構築のための乱流拡散率のマッピング	北海道大学理学部・日比谷紀之助教授	杉ノ原伸夫・中島健介
	モデルの検証データの収集および解析	東京都立大学理学部・松山 洋助手	住 明正
	気候モデルを用いたデータ同化と予測可能性の研究	気象庁海洋気象部エルニーニョ監視センター・桜井邦雄所長 他1名	木本昌秀
	極域海洋における鉛直混合の評価	東京水産大学・長島秀樹助教授	杉ノ原伸夫
一般共同	衛星データをを用いた日本付近の降雨の解析	気象庁気象衛星センター・操野年之調査官	新田 勉
	東大気候センター及び資源環境研究所の世界海洋大気循環モデルのパフォーマンスの相互比較	資源環境技術総合研究所・中田喜三郎研究室長 他2名	杉ノ原伸夫
	高分解能気候モデルを用いた下部成層圏慣性重力波の研究	京都大学理学部・廣田 勇教授	高橋正明
	対流圏・成層圏物質交換に関する数値実験	京都大学理学部・余田成男助教授 他5名	住 明正
	大気モデルの定常解と周期解	和歌山大学教育学部・伊藤久徳助教授	木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名	高橋正明
	オゾン、その他の大気微量成分の光化学輸送モデルの開発	国立環境研究所・秋吉英治主任研究員	高橋正明
	熱帯スコールラインの数値実験	九州大学理学部・高橋 劭教授	住 明正
	放射対流平衡の二次元数値実験	中京学院大学・岩朝美晴助手 東京大学大学院理学研究科・阿部豊助教授 名古屋大学大気水圏研究所・田中浩教授	住 明正
	赤道波と対流の相互作用に関する研究	東京大学大学院理学系研究科・山崎正紀教授 他1名	新田 勉
一般共同	グローバルなモンスーン気候の季節内・季節および経年変動の研究	東京大学大学院理学系研究科・松本 淳助教授 他2名	新田 勉
	グローバルデータを用いた大気波動の解析	京都大学理学部・廣田 勇教授 他3名	高橋正明
	海氷・海洋結合モデルの検証と改良	北海道大学大学院地球環境科学院・池田元美教授 他3名	杉ノ原伸夫
	10年スケールの海洋変動におけるsubduction過程の役割	北海道大学低温科学研究所・竹内謙介教授 他5名	杉ノ原伸夫
	大気海洋結合系の経年変動に関する準備的研究	北海道大学大学院地球環境科学院・松野太郎教授 他2名 国立環境研究所・沼口敦助教授	木本昌秀
	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他3名	杉ノ原伸夫
	気候モデルを用いたデータ同化と予測可能性の研究	気象庁海洋気象部エルニーニョ監視センター・桜井邦雄所長 他1名	木本昌秀
	GAME-Tに関する高層気象DATAの解析	福島大学教育学部・渡辺 明助教授	住 明正
	大気モデルによるハドレー循環と傾圧波動の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹講師	高橋正明
	領域型気候モデルの開発	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他1名 気象庁気象研究所・佐々木秀孝研究官	住 明正
特定共同	高分解気候モデルを用いた下部成層圏慣性重力波の研究	京都大学大学院理学研究科・佐藤 薫助手 長岡技術科学大学・熊倉敏郎助手	高橋正明
	衛星データをを用いた日本付近の降雨の解析	気象庁気象衛星センター・操野年之調査官	新田 勉
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他5名	高橋正明
	極域海洋における鉛直混合の評価	東京水産大学・長島秀樹助教授	杉ノ原伸夫
	全球土壌水分データセットの評価と感度実験	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他2名	住 明正
	大気海洋結合モデルの初期値化および季節予報可能性について	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他1名	木本昌秀

●1996年度

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	高精度・海洋大循環モデル構築のための乱流拡散率のマッピング	東京大学海洋研究所・日比谷紀之助教授	杉ノ原伸夫
	モデル検証のための全球流域分割	東京都立大学理学部・松山 洋助手	住 明正
一般共同	大気海洋結合系の経年変動に関する準備的研究	北海道大学大学院地球環境科学院・松野太郎教授 他2名 国立環境研究所・沼口 敦研究員	木本昌秀
	海水・海洋結合モデルの検証と改良	北海道大学大学院地球環境科学院・池田元美教授 他1名 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授 他1名	杉ノ原伸夫
	プリミティブ方程式系海洋大循環流の力学の研究	東北大学大学院理学研究科・花輪公雄教授 他1名	杉ノ原伸夫
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学研究科・山形俊男教授 他3名	高橋正明
	グローバルなモンスーン気候の季節内・季節および経年変動の研究	東京大学大学院理学系研究科・松本 淳助教授 他4名	新田 勉
	赤道波と対流の相互作用に関する研究	東京大学大学院理学系研究科・山峠正紀教授 他1名	新田 勉
	対流圏・成層圏物質交換に関する数値実験	京都大学理学部・余田成男助教授 他5名	住 明正
	超高分解三次元モデルによる海洋の鉛直対流の研究	九州大学理学部・中島健介助手	杉ノ原伸夫
	10年スケールの海洋変動における subduction 過程の役割	北海道大学低温科学研究所・竹内謙介教授 他4名	杉ノ原伸夫
	放射対流平衡の二次元数値実験	中京学院大学・岩朝美晴助手 東京大学大学院理学研究科・阿部豊助教授 名古屋大学大気水圏研究所・田中浩教授	住 明正
	大気モデルの定常解と周期解	和歌山大学教育学部・伊藤久徳教授	木本昌秀

●1997年度

特定共同	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他3名	杉ノ原伸夫
	気候モデルを用いた同化と予測可能性の研究	気象庁気候・海洋気象部エルニーニョ監視センター・桜井邦雄所長 他1名	木本昌秀
	大気モデルによるハドレー循環と傾圧波動の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹講師	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他1名 気象庁気象研究所・佐々木秀孝研究官	住 明正
	高分解気候モデルを用いた下部成層圏慣性重力波の研究	京都大学大学院理学研究科・佐藤 薫助手 長岡技術科学大学・熊倉敏郎助手	高橋正明
	衛星データを用いた日本付近の降雨の解析	気象庁気象衛星センター・操野年之調査官	新田 勉
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・宮原三郎教授 他5名	高橋正明
	極域海洋における鉛直混合の過程について	東京水産大学・長島秀樹助教授 他1名	杉ノ原伸夫
	全球土壌水分データセットの評価と感度実験	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他2名	住 明正
	大気海洋結合モデルの初期値化および季節予報可能性について	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他2名	木本昌秀
	海洋大循環モデルの高精度化に向けた乱流拡散率の全球的マッピング	東京大学海洋研究所・日比谷紀之助教授 東京大学気候システム研究センター・杉ノ原伸夫教授 他1名	杉ノ原伸夫
	実測データとモデルの入出力の比較	東京東京都立大学理学部・松山 洋助手	住 明正
	亜熱帯収束帯の生成機構の研究	弘前大学理学部・児玉安正助手	新田 勉
	海洋大循環モデルによるデータ同化実験と予測可能性の研究	東京大学大学院理学系研究科・和方吉信助教授	木本昌秀
一般共同	大気海洋結合系の経年変動に関する準備的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他2名	木本昌秀
	海水・海洋結合モデルにおける高密度水の形成	北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授 北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助手 他1名	杉ノ原伸夫
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院・山形俊男教授 他2名	高橋正明
	グローバルなモンスーン気候の季節内・季節および経年変動の研究	東京大学大学院理学系研究科・松本 淳助教授 他5名	新田 勉
	赤道波と対流の相互作用に関する研究	東京大学大学院理学系研究科・山峠正紀教授 他1名	新田 勉
	対流圏・成層圏物質交換に関する数値実験	京都大学大学院理学研究科・余田成男助教授 他4名	住 明正
	非静力学高解像度モデルによる海洋鉛直対流の研究	九州大学大学院理学研究院・中島健介助手	杉ノ原伸夫

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	10年スケールの海洋変動におけるsubduction過程の役割	北海道大学低温科学研究所・竹内謙介教授 他4名	杉ノ原伸夫
	放射対流平衡の二次元数値実験	中京学院大学・岩朝美晴助手 東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 名古屋大学大気水圏科学研究所・田中 浩教授	住 明正
	大気低周波変動モデル研究	和歌山大学教育学部・伊藤久徳助教授	木本昌秀
	梅雨前線帯に発生するメソスケール降水の研究	北海道大学低温科学研究所・藤吉康志教授 他1名	新田 勲
	混合層モデルを組み込んだ海洋大循環データ同化モデルの研究	京都大学大学院理学研究科・淡路敏之教授 他2名	杉ノ原伸夫
●1998年度			
特定共同	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他3名	杉ノ原伸夫
	気候モデルを用いた気候変動とその予測可能性の研究	気象庁気候・海洋気象部エルニーニョ監視センター・中村和信所長 他1名	木本昌秀
	大気モデルによるハドレー循環と傾圧波動の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他2名	住 明正
	衛星データを用いた日本付近の降雨の解析	気象庁気象衛星センター・操野年之調査官 他1名	木本昌秀
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他7名	高橋正明
	極域海洋における鉛直混合の過程	東京水産大学・長島秀樹教授 他1名	杉ノ原伸夫
	全球土壌水分データセットの評価と感度実験	気象庁数値予報課・岩崎俊樹数値予報班長 他3名	住 明正
	中・深層循環像の高精度化に向けた乱流拡散率の全球的マッピング	東京大学海洋研究所・日比谷紀之助教授 他2名	杉ノ原伸夫
	亜熱帯収束帯の生成機構の研究	弘前大学理学部・児玉安正助教授	木本昌秀
	チベット高原上の水循環過程とそれら循環がユーラシア大陸の季節内変動に果たす役割に関する研究	農林水産省東北農業試験場・桑形恒男主任研究官 他1名	沼口 敦
一般共同	大気海洋結合系の経年変動に関する研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他1名	木本昌秀
	海氷生成・融解にともなう水塊形成のパラメータ化	北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授 北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助教授 日本海区水産研究所・渡辺達郎研究員	杉ノ原伸夫
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名	高橋正明
	非静力学モデルの改善と対流の組織化に関する研究	東京大学大学院理学系研究科・山岬正紀教授 他2名	住 明正
	大気循環の季節内変動に関する数値実験	京都大学大学院理学研究科・余田成男助教授 他4名	住 明正
	非静力学高解像度モデルによる海洋鉛直対流の研究	九州大学大学院理学研究院・中島健介助手	杉ノ原伸夫
	海洋亜熱帯循環系の境界域の構造とその内部領域に与える影響	北海道大学低温科学研究所・竹内謙介教授 他1名 北海道大学大学院地球環境科学研究科・久保川 厚教授 他2名	杉ノ原伸夫
	大気低周波変動のモデル研究	和歌山大学教育学部・伊藤久徳助教授	木本昌秀
	梅雨前線帯に発生するメソスケール降水システムの研究	北海道大学低温科学研究所・藤吉康志教授 他1名	沼口 敦
	混合層モデルを組み込んだ海洋大循環データ同化モデルの研究	京都大学大学院理学研究科・淡路敏之教授 他2名	杉ノ原伸夫
	海洋物質循環モデルの構築と検証	北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 他1名	杉ノ原伸夫
	雲・対流系のマクロダイナミックス	北海道大学電子科学研究所・柳田達雄助手	木本昌秀
	大循環に及ぼす海底地形の効果に関する数値の実験	東北大学大学院理学研究所・花輪公雄教授 他2名	杉ノ原伸夫
	アジアモンスーンの年々変動の研究	気象庁気象研究所・山崎信雄研究室長 他2名	木本昌秀
	全陸惑星の水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 他1名	沼口 敦
	対流圏界面付近におけるオゾン等の物質輸送研究	東京大学大学院理学系研究科・北 和之助手 他1名	高橋正明
	アジアモンスーン降水雲システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 勲教授	住 明正
●1999年度			
特定共同	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・北村佳照第一研究室長 他3名	杉ノ原伸夫

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
一般共同	衛星データを含む海洋データ同化とエルニーニョ現象の予測可能性について	気象庁気象研究所・海洋気象部エルニーニョ監視予測センター・中村和信所長 他1名	木本昌秀
	大気モデルによる低緯度循環と中緯度循環の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他2名	住 明正
	衛星データを用いた東アジアの降雨の解析	気象庁気象・海洋気象部気候情報課・操野年之調査官 他1名	木本昌秀
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他1名	高橋正明
	極域海洋における鉛直混合の過程	東京水産大学・長島秀樹教授 他1名	杉ノ原伸夫
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁数値予報課・露木 義数数値予報班長 他3名	住 明正
	海洋の中・深層における乱流拡散率のグローバルな時空間分析解明	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之助教授 他1名	杉ノ原伸夫
	亜熱帯収束帯の生成機構の研究	弘前大学理工学部・児玉安正助教授	木本昌秀
	チベット高原上の水循環過程とそれら循環がユーラシア大陸の季節内変動に果たす役割に関する研究	農林水産省東北農業試験場・桑形恒男主任研究官 他1名 科学技術振興財団・徐健青科学技術特別研究員	沼口 敦
	衛星データによる雲パラメータ算出アルゴリズムの開発	気象庁気象研究所・井上豊志朗主任研究官	中島映至
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関するモデル研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他3名	沼口 敦
一般共同	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他3名	木本昌秀
	海氷生成・融解にともなう海氷・水塊形成のパラメータ化	北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授 北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎教授 日本海区水産研究所・渡辺達郎研究員	杉ノ原伸夫
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名 地球フロンティア研究システム・郭新宇研究員、鍵本崇研究員	木本昌秀
	非静力学モデルの改善と対流の組織化に関する研究	東京大学大学院理学系研究科・山崎正紀教授 他2名	住 明正
	大気循環の季節内変動に関する数値実験	京都大学大学院理学研究科・余田成男助教授 他5名	住 明正
	非静力学高解像度モデルによる海洋鉛直対流の研究	九州大学理学部・中島健介助手	杉ノ原伸夫
	海洋亜熱帯循環系の境界域および内部領域の構造と変動	北海道大学低温科学研究所・竹内謙介教授 他1名 北海道大学大学院地球環境科学研究科・久保川厚教授、 細田滋毅院生、須股浩院生	杉ノ原伸夫
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学理学部・伊藤久徳教授	木本昌秀
	梅雨前線帯に発生するメソスケール降水システムの研究	北海道大学低温科学研究所・藤吉康志教授 他1名	沼口 敦
	海洋物質環境モデルの構築と検証	北海道大学大学院地球環境科学院・地田元美教授 他1名	杉ノ原伸夫
	大循環に及ぼす海底地形の効果に関する研究	東北大学大学院理学研究科・花輪高雄教授 他2名	杉ノ原伸夫
	アジアモンスーンの年々変動の研究	気象庁気象研究所・山崎信雄第5研究室長 他1名	木本昌秀
	全陸惑星の水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 他1名	沼口 敦
	対流圏界面付近におけるオゾン等の物質輸送研究	東京大学大学院理学系研究科・北 和之助手 他1名	高橋正明
	アジアモンスーン降水雲システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 劭教授	住 明正
	大気中の2次元及び3次元乱流の構造とその効果	東京大学大学院理学系研究科・松田佳久助教授	高橋正明
	共同利用ツールとしての3次元化学輸送モデルの高度化	宇宙開発事業団・井上修司招聘研究員 他3名	高橋正明
	地衡流乱流の低派数帯域におけるエネルギースペクトルに関する数値実験的研究	神戸大学大学院自然科学研究科・山中大学教授 他1名	高橋正明
● 2000年度 特定共同	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・北村佳照第一研究室長 他2名	杉ノ原伸夫
	衛星データを含む海洋データ同化とエルニーニョ現象の予測可能性について	気象庁気象研究所海洋気象部エルニーニョ監視予測センター・中村和信所長 他1名	木本昌秀
	大気モデルによる低緯度循環と中緯度循環の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他5名 気象庁気象研究所・佐々木秀孝主任研究官	住 明正
	衛星データを用いた東アジアの降雨の解析	気象庁気象・海洋気象部気候情報課・操野年之調査官 他1名	木本昌秀
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・宮原三郎教授 他6名	高橋正明

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	極域海洋における鉛直混合の過程	東京水産大学・長島秀樹教授 他1名	杉ノ原伸夫
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁数値予報課・露木 義数値予報班長 他4名	住 明正
	北太平洋の中・深層における乱流拡散率の時空間分析解明	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之助教授 他2名	杉ノ原伸夫
	亜熱帯収束帯の生成機構の研究	弘前大学理工学部・児玉安正助教授	木本昌秀
	チベット高原上の水循環過程とそれら循環がユーラシア大陸の季節内変動に果たす役割に関する研究	農林水産省東北農業試験場・桑形恒男主任研究官 他1名 科学技術振興事業団・徐 健青科学技術特別研究員	住 明正
	衛星データによる雲パラメータ算定と放射収支の評価	気象庁気象研究所・井上豊志朗主任研究官	中島映至
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関するモデル研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他1名	住 明正
	領域及び全球赤道域雲集団シミュレーション並列非静力モデル研究	(財) 高度情報科学技術研究機構・山岸米二郎特別招聘研究員 他1名	住 明正
一般共同	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他2名	木本昌秀
	海氷生成・融解にともなう海氷・水塊形成のパラメータ化	北海道大学大学院地球環境科学研究科・地田元実教授 他1名 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授 北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎教授 他2名 日本海区水産研究所・渡辺達郎研究員	杉ノ原伸夫
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名 愛媛大学沿岸環境科学研究センター・郭 新宇助教授	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学理学部・伊藤久徳教授	木本昌秀
	アジアモンスーンの年々変動の研究	気象庁気象研究所・山崎信雄第5研究室長 他1名	木本昌秀
	全陸感星の水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授	住 明正
	アジアモンスーン降水雲システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 勲教授	住 明正
	海洋上エアロゾルによる放射強制力精度向上の研究	北海道大学低温科学研究所・遠藤辰雄助教授 千葉大学・高村民雄教授	中島映至
● 2001年度			
特定共同	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・北村佳照第1研究室長 他2名	住 明正
	大気モデルにおける低緯度循環と中高緯度循環の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他5名	住 明正
	衛星データを用いた東アジアの降雨の解析	気象庁気候・海洋気象部気候情報課・操野年之調査官 他1名	木本昌秀
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁予報部数値予報課・露木 義数値予報班長 他4名	住 明正
	海洋深層における鉛直乱流拡散率の全球的空間分布の解明	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之助教授 他2名	住 明正
	亜熱帯収束帯の生成機構の研究	弘前大学理工学部・児玉安正助教授	木本昌秀
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関するモデル研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他1名	住 明正
	領域及び全球赤道域雲集団シミュレーション並列非静力モデル開発	高度情報科学技術研究機構・山岸米二郎特別招聘研究員 他1名	住 明正
	金星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授	高橋正明
	高分解能大気モデルによる降水分布の地形依存性に関する研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・沼口 敦助教授 他1名 ハワイ大学 SOEST・謝 尚平助教授 他1名	住 明正
	海洋データ同化とエルニーニョ予測の研究	気象庁気候・海洋気象部気象情報課・木村吉宏監視予報管理官 他1名	木本昌秀
	代替フロン物質の赤外吸収特性の測定と大気中分解速度の測定	産業技術総合研究所・関屋 章副センター長 他1名	今須良一
	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他2名	木本昌秀

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
一般共同	海洋数値モデルを用いた季節～数十年変動研究	北海道大学大学院地理学研究科・見延庄士郎助教授 他4名 北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 他1名 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授	住 明正
	大気海洋陸面相互作用における海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名 愛媛大学沿岸環境科学研究センター・郭 新宇助教授	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学大学院理学院・伊藤久徳教授	木本昌秀
	アジアモンスーン降水雲システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 劭教授	住 明正
	海洋上エアロゾルによる放射強制力向上の研究	北海道大学大学院低温科学研究所・遠藤辰雄助教授 千葉大学・高村民雄教授	中島映至
	古火星循環における水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 他1名	住 明正
	GCMを利用した熱帯太平洋域における物質輸送過程の研究	茨城大学理学部・長谷部文雄助教授	高橋正明
	大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究	和歌山大学教育学部・山本 勝講師	高橋正明
	地球及び惑星流体力学における乱流の数値実験	東京大学大学院理学系研究科・松田佳久助教授 他2名	高橋正明

● 2002年度

特定研究	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣主任研究官 他2名	住 明正
	大気モデルにおける低緯度循環と中高緯度循環の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他2名	住 明正
	衛星データを用いた東アジアの降雨の解析	気象庁気候・海洋気象部気候情報課・操野年之調査官 他1名	木本昌秀
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁予報部数値予報課・露木 義数値予報班長 他4名	住 明正
	海洋深層における乱流拡散率のグローバルなマッピング	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他3名	住 明正
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関するモデル研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他1名	住 明正
	領域及び全球赤道域雲集団シミュレーション並列非静力モデル開発	高度情報科学技術研究機構・山岸米二郎特別招聘研究員 他1名	住 明正
	金星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授	高橋正明
	海洋データ同化とエルニーニョ予測の研究	気象庁気候・海洋気象部気候情報課・石井正好技術専門官	木本昌秀
	代替フロン物質の空間濃度分布予想計算	産業技術総合研究所フッ素系等温暖化物質対策テクノロジー研究センター・関屋 章副センター長 他1名	今須良一
	GAME再解析実験のモデル評価およびエータ面解析値整備・解析	総合地球環境学研究所・石田亜紀代助手・山崎信雄気候研究部第5部研究室長 他1名	住 明正
一般研究	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他3名 ハワイ大学 SOEST・謝 尚平助教授 他6名	木本昌秀
	海洋数値モデルを用いた季節～数十年変動気候	北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助教授 他4名 北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 他1名 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授	住 明正
	大気海洋陸面相互作用における海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名 愛媛大学沿岸環境科学研究センター・郭 新宇助教授	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学大学院理学院・伊藤久徳教授	木本昌秀
	アジアモンスーン降水雲システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 劭教授	住 明正
	海洋上エアロゾルによる放射強制力精度向上の研究	北海道大学大学院低温科学研究所・遠藤辰雄助教授 千葉大学・高村民雄教授	中島映至
	古火星循環における水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 他1名	住 明正
	大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究	和歌山大学教育学部・山本 勝講師	高橋正明
	地球及び惑星流体力学における乱流の数値実験	東京大学大学院理学系研究科・松田佳久助教授 他2名	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送に関する数値的研究	東京大学大学院理学系研究科・安田一郎助教授 他3名	住 明正
	全球水循環モデルの最適並列化プログラム構築に関する研究	防災科学技術研究所・矢崎 忍主任研究員	住 明正
	人工衛星による気候研究	総合地球環境学研究所・河本和明助手	中島映至

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	地表面非均一性が大気に及ぼす影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助手	木本昌秀
●2003年度			
特定研究	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣室長 他2名	遠藤昌宏
	大気モデルにおける低緯度循環と中高緯度循環の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他1名	住 正明
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁予報部数値予報課・斎藤和雄数値予報班長 他6名	住 正明
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関するモデル研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他1名	住 正明
	金星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授	高橋正明
	海洋データ同化とエルニーニョ予測の研究	気象庁気候・海洋気象部気候情報課・北村佳照エルニーニョ監視予報管理室 他2名	木本昌秀
	GAME再解析実験のモデル評価およびエータ面解析値整理・解析	総合地球環境学研究所・谷田貝亜紀代助手・山崎信雄気候研究部第5部研究室長 他1名	木本昌秀
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他4名	遠藤昌宏
	アジアモンスーン変動に与えるチベット高原の役割を理解するための数値実験	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他1名	住 正明
一般研究	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他3名 ハワイ大学 SOEST・謝 尚平教授 他4名	木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他6名 愛媛大学沿岸環境科学研究センター・郭 新宇助教授	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学大学院理学研究院・伊藤久徳教授	木本昌秀
	アジアモンスーン降水雲のシステムのモデル研究	桜美林大学・高橋 助教授	住 正明
	大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究	和歌山大学教育学部・山本 勝助教授	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送に関する数値的研究	東京大学大学院理学系研究科・安田一郎助教授 他5名	遠藤昌宏
	人工衛星による気候研究	総合地球環境学研究所・河本和明助手 他1名	中島映至
	地表面の降積雪及び融雪が水循環に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助手	木本昌秀
	海洋大循環モデルを用いた季節内～数十年変動研究	北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助教授 他7名	遠藤昌宏
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授	住 正明
	各気候域における降水システムのモデル研究	九州大学大学院理学研究院・川野哲也助手	木本昌秀
	異常気象と予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均助教授 他2名	木本昌秀
●2004年度			
特定研究	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣室長 他2名	遠藤昌宏
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他1名	住 明正
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁予報部数値予報課・斎藤和雄数値予報班長 他7名	住 明正
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関する研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 総合地球環境学研究所・鼎 信次郎助教授	住 明正
	金星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授 他2名	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他4名	遠藤昌宏
	東アジアの降水量変動および夏季インドモンスーン開始に関する研究	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他2名	住 明正
	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他3名 ハワイ大学 SOEST・謝 尚平教授 他6名	木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他7名 愛媛大学沿岸環境科学研究センター・郭 新宇助教授	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学大学院理学研究院・伊藤久徳教授	木本昌秀

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
一般研究	アジアモンスーン降水量システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 劭教授	住 明正
	大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究	和歌山大学教育学部・山本 勝助教授	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送に関する数値的研究	東京大学大学院理学系研究科・安田一郎助教授 他4名	遠藤昌宏
	人工衛星による気象研究	総合地球環境学研究所・河本和明助手	中島映至
	放射伝達計算コードの高度化とライダー観測に基づく放射収支計算への応用	東京海洋大学海洋工学部・村山利幸助教授	中島映至
	梅雨・秋雨前線の水循環過程の季節進行と変動に関するモデル研究	岡山大学教育学部・加藤内蔵進助教授 他1名	高橋正明
	地表面の降積雪及び融雪が水循環に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助手	木本昌秀
	海洋大循環モデルを用いた季節～数十年変動研究	北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助教授 他8名	遠藤昌宏
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授	住 明正
	各気候域における降水システムのモデル研究	九州大学大学院理学研究院・川野哲也助手	木本昌秀
	異常気象と予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均助教授 他2名	木本昌秀

● 2005年度

特定研究	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣室長 他2名	遠藤昌宏
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他1名	住 正明
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁予報部数値予報課・竹内義明数値予報班長 他8名	住 正明
	水同位体GCMとISO-MATSIROの開発	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 総合地球環境学研究所・鼎 信次郎助教授	住 正明
	金星大気の数値シミュレーション	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授 他1名	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他5名	遠藤昌宏
	チベット高原の大気昇温及び夏季インドモンスーン開始に関する研究	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他3名	住 正明

一般研究	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・渡部雅浩助教授 他3名 ハワイ大学SOEST・謝 尚平教授 他7名	木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による大気海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他6名	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学大学院理学研究院・伊藤久徳教授 他2名	木本昌秀
	大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究	和歌山大学教育学部・山本 勝助教授	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学大学院理学系研究科・安田一郎助教授 他4名	遠藤昌宏
	潮汐波を介したMLT領域と成層圏のカップリング研究	九州大学大学院理学研究院・宮原三郎教授 他2名	高橋正明
	放射スキームの高精度化	東京海洋大学海洋工学部・関口美保講師	中島映至
	梅雨・秋雨前線の水循環過程の季節進行と変動に関するモデル研究	岡山大学教育学部・加藤内蔵進助教授 他1名	高橋正明
	地表面の降積雪及び融雪が水環境に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助教授	木本昌秀
	海洋大循環モデルを用いた季節内～数十年変動研究	北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助教授 他6名	遠藤昌宏
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授	住 正明
	各気候域における降水システムのモデル研究	九州大学大学院理学研究院・川野哲也助手	木本昌秀
	異常気象と予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均助教授 他2名	木本昌秀

● 2006年度

	CCSR/気象研の世界海洋大循環のパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣室長 他2名	遠藤昌宏
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化とデータ同化手法の開発	気象庁予報部数値予報課・竹内義明数値予報班長 他9名	住 明正

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
特定研究	水同位体大循環モデルにおける大気・陸面・河川過程の結合および大気陸面相互作用の研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他1名 総合地球環境学研究所・鼎 信次郎助教授	全教員
	金星大気の数値シミュレーション	九州大学応用力学研究所・山本 勝助教授 他2名	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他6名	遠藤昌宏
	チベット高原の大気昇温及び夏季インドモンスーン開始に関する研究	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他4名	住 明正
	全球雲解像モデルにおける熱帯対流圏界層の解析	北海道大学大学院環境科学院・藤原正智助教授 他1名	佐藤正樹
一般研究	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究院・渡部雅浩助教授 他3名 ハワイ大学 SOEST・謝 尚平教授 他5名	木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による大気海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他7名	木本昌秀
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学海洋研究所・安田一郎教授 他2名	遠藤昌宏
	潮汐波を介したMLT領域と成層圏のカップリング研究	九州大学大学院理学院・宮原三郎教授 他3名	高橋正明
	放射スキームの高精度化	東京海洋大学海洋工学部・関口美保講師	中島映至
	梅雨・秋雨前線の水循環過程の季節進行と変動に関するモデル研究	岡山大学教育学部・加藤内蔵進助教授	高橋正明
	地表面の降積雪及び水循環に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助教授	木本昌秀
	海洋モデルおよび海洋・海水結合モデルを用いた気候変動研究	北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎教授 他7名	遠藤昌宏
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授	住 明正
	異常気象とその予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均助教授 他1名	木本昌秀
	GMS可視データを用いた東アジア地域の雲気候の解析	気象庁気象衛星センター・練野年之課長 他3名	中島映至

●2007年度

特定研究	水の安定同位体循環を組み込んだ大気陸面結合モデルの開発と検証	東京大学生産技術研究所・沖 大幹教授 他1名 総合地球環境学研究所・鼎 信次郎助教授	全教員
	次世代重力波パラメタリゼーション開発に向けた基礎研究	東京大学大学院理学系研究科・佐藤 薫教授 海洋研究開発機構・渡辺真吾ポスドク研究員 国立極地研究所・富川喜弘プロジェクト研究員 海洋研究開発機構・河谷芳雄ポスドク研究員	高橋正明
	金星大気の数値シミュレーション	九州大学応用力学研究所・山本 勝助教授 他2名	高橋正明
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他7名	遠藤昌宏
	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣部長 他2名	遠藤昌宏
	植生および大気の影響を考慮した4次元データ同化手法の開発	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他5名	木本昌秀
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化とデータ同化手法の開発	気象庁予報部数値予報課・小泉 耕数値予報班長 他8名	木本昌秀
	全球雲解像モデルにおける熱帯対流圏界層の解析	北海道大学大学院地球環境科学研究院・藤原正智助教授 他1名	佐藤正樹
	全球雲解像モデルを用いた4次元同化実験	筑波大学計算科学研究センター・田中 博教授 筑波大学陸域環境研究センター・渡来 靖準研究員	佐藤正樹
一般研究	季節サイクルの中でみた東アジア前線帯付近の水循環と変動に関する数値的研究	岡山大学教育学部・加藤内蔵進助教授 他3名	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学海洋研究所・安田一郎教授 他5名	遠藤昌宏
	GMS可視データを用いた東アジア地域の雲気候の解析	気象庁気象衛星センター・練野年之課長 他3名	中島映至
	放射スキームの高精度化	東京海洋大学海洋工学部・関口美保助教授	中島映至
	エアロゾル物理化学モジュールの開発研究	東京大学先端科学技術研究センター・近藤 豊教授 他3名 東京大学大学院理学系研究科・小池 真助教授	中島映至・ 木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による大気海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他6名	木本昌秀
	地表面の降積雪及び融雪が水循環に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助教授	木本昌秀
	異常気象とその予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均助教授 他2名	木本昌秀
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 他1名	阿部彩子

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	海洋モデルおよび海洋・海水結合モデルを用いた気候変動研究	北海道大学大学院理学研究院・見延庄士郎教授 他3名 北海道大学大学院環境科学研究院・池田元美教授 他1名	羽角博康
●2008年度			
特定研究	水の安定同位体循環を組み込んだ大気陸面結合モデルの開発と検証	東京大学生産技術研究所・沖 大幹教授 他2名	木本昌秀
	次世代重力波パラメタリゼーション開発に向けた基礎研究	東京大学大学院理学系研究科・佐藤 薫教授 海洋研究開発機構・渡辺真吾ポスドク研究員 国立極地研究所・富川喜弘助教 海洋研究開発機構・河谷秀雄ポスドク研究員	高橋正明
	金星大気の数値シミュレーション	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授 他2名	高橋正明
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他3名	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他9名	遠藤昌宏
	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣部長 他2名	遠藤昌宏
	植生および大気の影響を考慮した衛星データ同化手法の開発	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他4名	木本昌秀
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化とデータ同化手法の開発	気象庁予報部数値予報課・小泉 耕数値予報班長 他8名	木本昌秀
	TRMM衛星データ解析アルゴリズム開発のための雲解像モデルシミュレーション	大阪府立大学大学院工学研究科・重 尚一助教 他1名	高 藪 縁
	全球雲解像モデルにおける対流圏界層の解析	北海道大学大学院地球環境科学研究院・藤原正智准教授 他1名	佐藤正樹
	全球雲解像モデルを用いた4次元同化実験	筑波大学計算科学研究センター・田中 博教授 他1名	佐藤正樹
一般研究	季節サイクルの中でみた東アジア前線帯付近の水循環と変動に関する数値的研究	岡山大学教育学部・加藤内藏進准教授 他1名	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学海洋研究所・安田一郎教授 他3名	遠藤昌宏
	GMS可視データを用いた東アジア地域の雲気候の解析	気象庁気象衛星センター・線野年之課長 他3名	中島映至
	エアロゾル物理化学モジュールの開発研究	東京大学先端科学技術研究センター・近藤 豊教授 他2名 東京大学大学院理学系研究科・小池 真准教授	中島映至・木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による大気海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他6名	木本昌秀
	地表面の降積雪及び融雪が水循環に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎准教授	木本昌秀
	異常気象とその予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均准教授 他1名	木本昌秀
	季節内から数十年スケールの気候変動の数値的研究	北海道大学大学院理学研究院・稲津 将准教授 他2名 北海道大学大学院地球環境科学研究院・山崎孝治教授 他3名	木本昌秀
	アジアの雨量計による日降水量グリットデータによるMIROCモデル降水量の再現と変動性の評価	総合地球環境学研究所・谷田貝亜紀代助教 気象庁気象研究所・高島久洋上級研究員 他3名	木本昌秀
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊准教授	阿部彩子
	海洋モデルおよび海洋・海水モデルを用いた海洋・海水変動研究	北海道大学大学院理学研究院・見延庄士郎教授 他2名 北海道大学大学院地球環境科学研究院・池田元美教授 他1名	羽角博康
	数値モデルを用いた夏季亜熱帯高気圧の変動力学の探究	東京大学大学院理学系研究科・中村 尚准教授 他2名	渡部雅浩
●2009年度			
特定研究	湖沼・湿地のダイナミックスを考慮した陸面過程モデルの開発と検証	東京大学生産技術研究所・沖 大幹教授 他2名	木本昌秀
	気候モデルにおける力学過程の研究及び惑星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・山本 勝准教授	高橋正明
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他3名	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他9名	羽角博康
	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣部長 他2名	羽角博康
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化とデータ同化手法の開発	気象庁予報部数値予報課・小泉 耕数値予報班長 他9名	木本昌秀
	エアロゾル・氷晶相互作用スキームのMIROCへの導入と検証	九州大学応用力学研究所・竹村俊彦准教授	中島映至

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	TRMM衛星データ解析アルゴリズム開発のための雲解像モデルシミュレーション	大阪府立大学大学院工学研究科・重 尚一助教 他1名	高数 縁
	全球雲解像モデルにおける対流圏界面層の解析	北海道大学大学院地球環境科学研究院・藤原正智准教授 他1名	佐藤正樹
	全球雲解像モデルを用いた4次元同化実験	筑波大学計算科学研究センター・田中 博教授 他1名	佐藤正樹
一般研究	季節サイクルの中でみた東アジア前線帯付近の水循環と変動に関する数値的研究	岡山大学大学院教育学研究科・加藤内蔵進准教授 他1名	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学海洋研究所・安田一郎教授 他6名	羽角博康
	GMS可視データを用いた東アジア地域の雲気候の解析	気象庁気象衛星センター・大野智生課長 他4名	中島映至
	エアロゾル物理化学モジュールの開発研究	東京大学先端科学技術研究センター・近藤 豊教授 他1名 東京大学大学院理学系研究科・小池 真准教授 他2名	中島映至・ 木本昌秀
	大気海洋循環系における気候変動過程のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他6名	木本昌秀
	異常気象とその予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均教授	木本昌秀
	季節内から数十年スケールの気候変動の数値的研究	北海道大学大学院理学研究院・稲津 将准教授 他2名 北海道大学大学院地球環境科学研究院・山崎孝治教授 他3名	木本昌秀
	アジアの雨量計による日降水量グリッドデータによるMIROCモデル降水量の再現と変動性の評価	総合地球環境学研究所・谷田貝亜紀代助教 他2名	木本昌秀
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊准教授	阿部彩子
	海洋・海氷モデルを用いた海洋・海氷変動研究	北海道大学大学院理学研究院・見延庄士郎教授 他2名 北海道大学大学院地球環境科学研究院・池田元美教授 他1名	羽角博康
	数値モデルを用いた東アジア大気循環の変動力学の探究	東京大学大学院理学系研究科・中村 尚准教授 他2名	渡部雅浩
	北太平洋におけるCFC-11,12の海洋内循環再現実験	北海道大学低温科学研究所・中村知裕講師 他3名	羽角博康

●大気海洋研究所

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	大気海洋研究所担当教員
------	------	-----------	-------------

●2010年度

特定研究	湖沼・湿地のダイナミックスを考慮した陸面過程モデルの開発と検証	東京大学生産技術研究所・沖 大幹教授 他3名	木本昌秀
	金星大気の数値シミュレーション	九州大学応用力学研究所・山本 勝准教授	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他7名	羽角博康
	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・平原幹俊主任研究官 他2名	羽角博康
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化とデータ同化手法の開発	気象庁予報部数値予報課・小泉 耕数値予報班長 他8名	木本昌秀
一般研究	全球雲解像モデルを用いた4次元同化実験	筑波大学計算科学研究センター・田中 博教授 他1名	佐藤正樹
	季節サイクルの中でみた東アジア前線帯付近の水循環と変動に関する数値的研究	岡山大学大学院教育学研究科・加藤内蔵進准教授 他2名	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学海洋研究所・安田一郎教授 他6名	羽角博康
	静止気象衛星の可視データを用いた東アジア地域の雲気候の解析	気象庁気象衛星センター・大野智生課長 他4名	中島映至
	大気海洋循環系における気候変動過程のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他4名	木本昌秀
	異常気象とその予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均教授	木本昌秀
	季節内から数十年スケールの気候変動の数値的研究	北海道大学大学院理学研究院・見延庄士郎教授 他5名 北海道大学大学院地球環境科学研究院・山崎孝治教授 他2名	木本昌秀
	汎地球型惑星の水循環と気候の検討	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊准教授 他1名	阿部彩子
	数値モデルを用いた東アジア大気循環の変動力学の探究	東京大学大学院理学系研究科・中村 尚准教授 他1名 ハワイ大学国際太平洋研究センター・小坂 優研究員	渡部雅浩
	北太平洋におけるCFC-11,12の海洋内循環再現実験	北海道大学低温科学研究所・中村知裕講師 他3名	羽角博康
	放射スキームの高速・高精度化	東京海洋大学海洋工学部・関口美保准教授	中島映至

研究区分	研 究 課 題	採 択 者 ・ 組 織 の 名 称	大気海洋研究所 担当教員
●2011年度			
特定研究	地表面・水文モデルの開発及びデータ解析	東京大学生産技術研究所・沖 大幹教授 他2名	芳村 圭
	地表面・水文モデルの開発及びデータ解析	東京大学大学院工学系研究科・平林由希子准教授 他2名 東京工業大学大学院情報理工学研究科・鼎 信次郎准教授	芳村 圭
	衛星データと数値モデルの複合利用による温室効果気体の解析	気象庁気象研究所・松枝秀和室長 他2名	今須良一
	世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・平原幹俊主任研究官 他2名	羽角博康
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他2名	高橋正明
	気候モデルにおける力学過程の研究及び惑星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・山本 勝准教授	高橋正明
一般研究	オホーツク海・北太平洋の高分解能シミュレーション	北海道大学低温科学研究所・中村知裕講師 他3名	羽角博康
	数値モデルを用いた東アジア大気循環の変動力学の探究	東京大学大学院理学系研究科・中村 尚准教授 他1名 ハワイ大学国際太平洋研究センター・小坂 優研究員	渡部雅浩
	大気海洋結合モデルを用いたインド洋・太平洋・アジア域の気候変動・気候変化に関する研究	電力中央研究所・大庭雅道主任研究員	渡部雅浩
	放射伝達モデルに基づく静止気象衛星の可視データ校正技術の開発	気象庁気象衛星センター・大野智生課長 他4名	中島映至
	季節サイクルの中でみた東アジア前線帯付近の水循環と変動に関する数値的研究	岡山大学大学院教育学研究科・加藤内蔵進教授 他2名	高橋正明
	放射スキームの高速・高精度化	東京海洋大学海洋工学部・関口美保准教授	中島映至